

和洋家具
各種建具
製造販賣

常盤木工場

和田喜太郎

販賣所 天津日本租界淡路街廿ノ一
電話二局二一六六番
工場 天津南營門外海光寺際
電話二局二二五六番

營業課目
塗料、金物、工業藥品
建築材料、礦油、皮革
食料品一般

鳥印エナメル北支總代理店

天平洋行

天津日本租界壽街一六ノ八

電話二〇五〇六

營業科目

ラヂオ、蓄音器
樂器、洋家具
撞球用品一式
印刷インキ、諸材料
印刷機械、其他一般雜貨

北村洋行

本店 天津日本租界福島街
電話二〇六〇〇

支店 天津日本租界旭街
電話二〇八〇八

洋家具部天津日本租界福島街

(租界局前)

(二〇二八)



藝術味豊かな
美しい
御寫眞

天津公會堂前

高橋寫眞館

電話 二一九〇一
二一九〇二

(二〇二九)

營業種目
 機械 工具類及
 一般材料品販賣
 諸工事設計並請負
 北支特產品輸出

天津日本租界旭街三十九番地

株式會社 高田商會天津出張所

電話二局三九八四番
 受信電略テンシンミンタカ

本店 東京

支店出張所 大阪、名古屋、門司、大連、倫敦

吳、神戸、佐世保、舞鶴、橫須賀、
 札幌、京城、台北、奉天、新京

(115110)

取扱品目

石油、揮發油、
 機械油、軍用油、
 力、バイト、重油、電線

天津日本租界旭街三四（吾妻街角）

SI 出光商會天津支店

電話 三一九九四、二二〇四四
 三四〇六二

北支總代理店
 日本石油株式會社
 滿洲石油株式會社
 大華石油株式會社
 關西化學株式會社
 日本石油株式會社
 合資會社井上電機株式會社
 合資會社吉川電機株式會社
 大日電線株式會社

本店 出張所

門司、市、西、本町、三丁目、若松、大連、
 東京、名古屋、伊萬里、京城、仁川、清津、
 博多、別府、新伊萬里、京城、仁川、清津、
 鞍山、奉天、錦州、哈爾濱、牡丹江、佳木斯、
 齊齊哈爾、新台、基隆、上海、南京、蘇州、
 漢口、蘇州、鎮江、青島、福州、天津、秦皇島、
 北京、唐山、濟南、張家口、大同、厚和、包頭、太原、
 石家莊

(11511)

品名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月
大米 (大口)	一七〇	一七〇	一七〇	一七〇	一七〇	一七〇	一七〇	一七〇
大米 (小口)	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇
高粱	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇
包米	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
大豆	一八〇	一八〇	一八〇	一八〇	一八〇	一八〇	一八〇	一八〇
白薯	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

天津勞動者主要食料品價格

品名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月
鐵冶	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
木指	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
指物	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
工工	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
工工	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

荷馬車夫 〇五〇 〇五〇 〇五〇 〇五〇 〇五〇 〇五〇 〇五〇 〇五〇
 乘用車夫 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
 人力車夫 〇五〇 〇五〇 〇五〇 〇五〇 〇五〇 〇五〇 〇五〇 〇五〇
 (註) 大東公司調查による。



株式會社

伊賀原組天津出張所

天津日本租界浪速街二十八ノ三

電話 (二) 三七七八二番

本社所在地 北京市清和胡同三一〇番地
 北支出張所 北京、張家口、大同、厚和

土木建築監督

中外工務所

植前香
 電話 二〇九五二

商 業

概 況

北支における商業は中南支におけるよりも甚だしく遅れてをり未だ多分に原始的商業の残存分子を含んでゐるこの原因としては自然的理由その他種々の理由があげられるがこれを要するに十分な産業の發展過程に至らざる中に政治的中心地が南方に移行して取残されて了つたこと、外國資本は政治的中心地を樞軸として派生し増大し來つたので従前の政治的中心地であつた京津地方も商業の立遅れを來したことが擧げられる。曾て北京は商業都市として最大の地であり、また山西票號の勢力はあまねく全國におよんだのであるがいづれも近代商業の體系を備ふるに至らぬ中に政權の南方移行を見、列強資本の進出に伴ふ中南支を中心とする新式銀行の據頭を見たものである。北支における列國との直接の經濟的關係が開始されたのは一八六〇年の北京條約以來のことと同條約に基く翌年の天津開港に至ぎ一八六二年の芝罘開港、

一八九八年ドイツの青島經營着手などによりはじめて列國資本の急激な進出は北支における土着商業資本をこれに合流させ天津青島における買辦都市の膨脹となり、一面このことは漸次半植民地的性格を以て世界經濟の一環に伍しかつての商業中心地を北京から天津、青島へ移行せしめることとなつた。全支においてもさうであつたが殊に北支においては政治的勢力の消長は直ちに經濟力への敏感な盛衰そのものを意味し天津の各國專管居留地を據點に列國資本の強行軍がつゞけられたのであるがこれを全般的に見るときは北支の商業的地位は全支を基準とすれば餘り高いものではない。加ふるに北支各農村一帯に渉る年來の疲弊振りは民衆購買力の低下を招來し土着資本また振はず、従つて商業の不振は依然たるものあり加へて白河の運行不圓滑は京津商業界の將來に對しても幾多の疑問を提出して來た。然るに近年北支經濟開發が提唱さるゝにおよび漸次既往の状態は精算され一面低稅によるいはゆる冀東貿易が市場にもたらした活況に次ぎ事變後新政權の樹立により日本商人の進出は殆んど決定的に北支商業中心各地のの機構その他にわたり修正を試みつゝある。

商業の種類

支那商法において商業として擧げらるものは左の十七種である。

- 買 賣 業
- 買 貨 業
- 製造業及加工業
- 電氣、瓦斯又は水道の供給業
- 出 版 業
- 印 刷 業
- 銀 行 業
- 兌換業及貸金業
- 信 託 業
- 請 負 業
- 賃 庫 業
- 保 險 業
- 運 送 業
- 運 送 業
- 同 業

- 仲 立 業、代 理 業
- また山東省では従來七十二行と稱してゐるが實際七區別すると數百種に達する。一般に使用される華人商店稱號の意味は左の如くである。
- 菸 店 煙草店、水煙と旱煙とあり。
 - 烟 公 司 卷煙草の大商店。
 - 油 房 食料油、燈油店。
 - 醃 臘 行 鹽漬の豚肉、腸詰へムなどを取扱ひ肴肉舖とも稱す。
 - 鷄 鴨 行 鳥類取扱店。
 - 茶 葉 莊 茶舖。
 - 水 菓 行 果物屋。
 - 肉 舖 魚屋。
 - 饅 餡 店 砂糖漬、菓子屋。
 - 點 心 舖 右に同じ。
 - 酒 店 酒屋。
 - 酒 局 酒店に同じ。
 - 醬 園 醬油および漬物店。
 - 食品公司 食料品商。
 - 糖 行 砂糖原料の菓子製造業者。

- 飯館 支那料理店。
- 飯館 同
- 香菜館 西洋料理店。
- 大菜館 同
- 西餐館 同
- 糧行 米、麥、粟、大豆等雜穀店。
- 藥行 漢藥材店。
- 藥房 藥店。
- 鐘表眼鏡行 時計、眼鏡、蓄音機店。
- 銀樓 金、銀、地金、寶石買賣製作業。
- 金店 同
- 桐油行 桐油店。
- 磁器店 陶磁器商。
- 木器店 木工家具製造販賣店。
- 五金行 金屬器具機械商。
- 木廠 材木商。
- 棺材廠 棺槨製造店。
- 染房 染物商。
- 自行車行 自轉車販賣店。
- 鐵器舖 鐵器製造販賣。

- 五大行 糧、布(吳服物)、菸(煙草)、茶、酒の五種商業の總稱。
- 鐵工廠 鐵工場。
- 紅磚店 磚、壺製造販賣店。
- 煉瓦廠 煉瓦製造業。
- 洋廣貨店 日用服裝品店。
- 綿布店 土布洋布商。
- 綢緞莊 吳服商。
- 夏布莊 ラシヤ、葛布、麻布類店。
- 棉花行 棉花商。
- 麻行 麻及麻布商。
- 京貨店 主として北京の貨物を取扱ふ店。
- 洋貨店 洋品店。
- 百貨店 日用化粧品、裝飾品商。
- 成衣局 裁縫屋。
- 南貨店 南方支那特産品店。
- 皮貨店 毛皮商。
- 估衣莊 古着商。
- 運轉公司 運送店。

- 脚行 小運送並荷造、人夫周旋業。
- 錢莊 舊式銀行の一。
- 銀號 兩替と銀行業務の一部を兼ね。
- 錢舖 銀號の小規模なるもの。
- 當舖 質屋。
- 印子店 高利貸。
- 票莊 輿地爲替を營む業者。
- 旅社 客棧又は旅館。
- 電影院 活動寫眞館。
- 戲院 劇場。
- 澡塘 特有の湯屋。
- その他

商業組織

企業形態 個人組織、合夥組織(共同經營)、公司(會社)の三に大別される。その中合夥組織は最も多く行はれ歴史を有し合股、連財なども呼稱される。經理はその營業擔當者で出資者側からなるの他の適材者を招聘するのと二通りあり出資者と經理とが別な場合は出資者の持分(股份)は財産と稱せられ出資者は股東と呼ばれる

經理が勢力を出資するときはその股份は力股、身股、人股などと呼ばれ經理を股東と稱せず領東乃至東家と稱し株主會では表決權を持たぬのが例である。

會社組織 民國二十年七月一日施行の支那公司法(會社法)に規定される公司組織は日本と同様無限公司(合名會社)、兩合公司(合資會社)、股份有限公司(株式會社)、股份兩合公司(株式合資會社)の四種あり全支におけると同様股份有限公司が壓倒的多數を占め次いで無限公司、兩合公司、股份兩合公司の順序となつてゐる。

商習慣 各種營業に共通する商習慣としては賣掛代金の決済回収期を通常端午、仲秋、年關の三節に行ひ中には年四回決済の地方もある。また支那商人は全般的に見て保守的であるが信用を尊重し然もこれを利用することにおいて特徴を持つてゐる。

商運助成機關 元來北支における商品、特に外國向輸出品中の大部分を占むる天産物は品質が一定しないばかりでなく商人が舊習を墨守し改良などに意を注がずその中の不正者は斤量増加のため水や砂を混ぜるので取引上紛争を生じ信用を害ふことが多く延いては輸出貿易の上にも阻害を來すこと多大なために舊南京政府は商品検査の

輸 入 の 部	連 本 港 味 國 國 計 他 合		日 香 瓜 澳 其		大 日 香 瓜 澳 其
	連 本 港 味 國 國 計 他 合	日 香 瓜 澳 其	日 香 瓜 澳 其	日 香 瓜 澳 其	
肥料	1,300,000	2,260,000	5,500,000	5,500,000	5,500,000
酒 精	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000
麥 粉	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000
骨 粉	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
糖 品	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000

駐在代表の團體を云ふ。
 會 館 同郷人の團體で最初は商帮のやうに商人のみの集團であつたが次第に會員を増加し勢力の増大を來すと共に大會合所を建て會員も商人以外の一般同郷人を参加せしめてゐる。
 公 所 出身地による團體でなく純然たる同業者の組合で一定地域を範圍として組織し同業者間の紛争調停、

河 北 省

倒閉店舗の債務處理、市價の公定その他同業者の利益發展を圖るものである。
 公 會 同業組合即ち公所を改正したもので民國十八年の工商同業公會法によるもので從來公所と呼ばれた團體は漸次公會と改稱された。
 人口一億に近い北支三省および蒙疆のヒンターランドとして河北省が占める位置は決定的なものでありその中心は天津に外ならず天津における商業状態はあらゆる意味で北支を代表するものである。そのまへに北京についてこれが概略を見れば次の如くである。

北 京

事變前 北京は近年商業都市としては衰退の一途を辿りつゝあつたが消費市場としては近來なほ相當の重要性を有し従つて旅館、飲食店等は例外的に繁榮し來つた。旅館、飲食店等に次で多數を占むるものは毛皮商でありその他相當の隆勢を維持するものに木材業、骨董業、百貨店業であるが外蒙の獨立および滿洲國の分離により北

京における羊毛の集散は決定的の打撃を受けた。木材業北京全市の年消費量は約二百五十萬元乃至三百萬元で滿洲産紅松、江西、福建、浙江、湖南各省産の杉、米松およびロシア松その他河北および滿洲産の雜木を主要商品としてゐるが大部分は外國に仰ぎ運輸販賣もまた等しく天津方面の日商その外の外商に獨占される状態である。油業もまた民國十七年以後政府の南遷により湖落の一途を辿り近年の消費量は約三十萬元と概算され香油、落花生、豆油、蘇油、棉實油、麻實油等があるが前三者の外はその需要が極めてすくない。
 事變後 事變後滿鐵北支事務局の北京移轉を最なるものとして興中公司、國際運輸も事務所を設け、三菱、三井の兩商會社も開設或は擴張され大林組、清水組をはじめ土木建築業も續々と本據を作り一方邦人一般業者の進出著しく北京商業界は従前の眠れる消費都市から再び大商工業都市への息吹きを開始してゐる。
 北京邦人職別統計 北京日本總領事館警察署で昨年七月七日を事變前とし同年十二月三十一日を事變後とし本年八月十日を現在として分類せる邦人營業者職別統計は次の如し。(その他人口の部参照)

印章篆刻ゴム印類
 (八) 土木建築材料
 土木建築請負
 土木建築材料
 ベイント塗板装
 道 路 鋪 設
 (九) 石炭油鐵
 石炭及石炭探掘
 揮發油石油機械
 製 鐵 類
 (十) 鑛業山鐵類
 鑛業山鐵類
 (十一) 器械器具
 工作器械工具
 醫療器械理化學器械
 タイプライター及事務用具
 裁縫器 機械
 冷凍機
 度量衡測量器
 金庫金錢登錄器消火器
 金物大工道具及物

二二 九一 九一 一五五 一三五 三五 一二二 一三四 三三三

刀 鐵 道 用 品 劍
 (十二) 藥 品
 鑛山鐵道用品
 製藥賣藥藥種
 化學工業藥品及材料
 (十三) 買 易
 一 般 買 易
 特 產 買 易
 皮 革 獸 皮
 (十四) 陸軍御用達軍需品
 陸軍御用品
 軍 需 品
 (十五) 電 氣
 電信電話器ラヂオ
 電 氣 工 事
 (十六) 運 輸
 海 運 業
 航 空 輸 送 業
 運 送 業
 自 動 車 運 輸 業
 トラック運輸
 自 動 車 及 部 分 品 並 修 繕
 自 動 車 修 理
 (十七) 旅行案内遊覽案内

二二 三二 三三 一六 八〇 二八六 一三三 二一 六九七

旅行案内汽車汽船航空切符發賣
 案 內 業
 (十八) 活動寫眞劇場
 活動寫眞製作
 劇 場
 (十九) 飲食店カフェ料理店
 飲 食 店
 カフェ店
 料理店
 調理更生理會
 (二十) 旅館下宿
 旅 館 下 宿
 下 宿
 (二十一) 金 融
 銀行
 企業投資
 證券買賣
 金 貨 買 賣
 質 押 業
 土地建物賣買管理
 保 險 業
 (二十二) 興信所調査所
 (二十三) 商工會
 (二十四) 辯 護 士 館

三二 五一 九二 三三 六三 九二 二六〇 一六六 一六五 一四一 七三 一〇一

(二十五) 新 開 販 賣 業 閉
 新 開 社 通 信 社
 廣 告 業
 (二十六) 衛 生
 醫 生
 產 科 醫 院
 齒 科 醫 院
 看 護 婦 科
 鍼 灸 接 骨 會
 理 髮 院
 美 容 院
 浴 池
 (二十七) 染物洗張洗濯
 (二十八) 古 物 商
 (二十九) 紹 介 業
 (三十) 學 校 圖 書 館
 北京日本商工會總所 北京には從來北京商工會が邦人
 商工會議所に代るべきものとして存在したが同會を基本
 に北京商工會議所は本年七月中旬創立總會を開催し正式
 成立を見た。會員百八十九名、即日一、二、三各級評議
 員を選出した。

二六六 二四 二二 七二 六六 六一 九一 四一 一三 一一 八

北京市消費合作社 北京における物價騰貴が殊に一般貧民および労働階級に與へる打撃の尠くない實情に鑑み新民合作社中央會で準備を進めてゐる。

天津

事變前 天津は清朝末期以後列國の北支半植民地化の據點としてことに專管居留地を中心に政治都市としての北京に對し純經濟都市として發展し北支における最大の輸出入港としてその商業都市としての地位を高めて來た。さきの塘沽停戰協定以後治安の確立と經濟建設の工作進捗により天津商業界は著しく活況を呈した。

事變後 ことに今事變以來邦人業者のめざましい進出はいやが上に天津商界を活氣づけて來た。これは「躍進」とか「發展」とかの言葉があらはしうる生やさしいもので

最近十箇年天津港輸移出入貿易統計 (單位國幣元)

年 度	輸移入合計	指數	輸移出合計	指數	總 計	指數
一九二六年	二五、八〇四、二七六	100	一五、〇六三、三〇一	100	四〇、八六七、五七九	100
一九二七年	二七、九三三、〇八五	111	一八、九五一、六二四	126	四六、九〇八、七〇九	117
一九二八年	三三、〇八三、八五〇	127	一九、二六六、一六六	129	五二、〇五〇、〇一六	127
一九二九年	三二、八九五、九五〇	127	一七、〇八一、九九九	113	四九、八八七、九四九	121
一九三〇年	二七、五二二、三九九	109	一七、〇七三、八八〇	113	四四、五九六、二六九	111
一九三一年	三〇、〇九二、一三四	110	二〇、九一三、六八一	140	五一、〇〇五、七二一	127
一九三二年	二八、七七一、八三三	113	一九、六三三、七〇六	131	四八、三一一、五三九	120
一九三三年	三三、一〇九、八九三	129	一五、三三三、九二一	104	三八、五九三、八四四	117
一九三四年	三三、〇〇四、九六一	129	一七、七四四、八六八	118	三三、七七一、八三七	117
一九三五年	一九、三六九、一八八	75	一七、六三三、七一一	112	三三、〇〇四、七九七	117
一九三六年	一八、八〇九、三三二	73	一七、五五一、六三三	112	三六、三六一、〇六五	114

主要移輸入品 綿布、鐵および鋼、石油、紙類、木材、砂糖、染料、鐵道および軌道用品、自轉車および附屬品、小麥粉、木材、機械器具、車輛、船舶、油脂、臘、石鹼等で仕出國は主として日、米、英、獨である。

輸出品 棉花で總輸出額の三二—三九%を占めてゐるこの他動物產品(豚毛、鶏卵加工品、羽毛骨粉等)、皮類および種子等で主として米、日、英に仕向けられてゐる。

移入品 穀物およびその製品、糸、繩、編糸製品および織物が多く總額の約八〇%を占め酒、煙草、茶、砂糖等である。

移出品 豆類および豌豆、種子、燃料、纖維原料および化學製品等である。

對日輸出入 日本から綿布、鐵および鋼、砂糖、紙類、紙製品を輸入し就中綿布は總額の一四—一五%を占めてゐる。輸出は棉花が斷然多く總額の三九—四七%を占め

はなくあらゆる經濟上の角度から見ても火華を散らしつゝ、經濟北支制覇の軌道に乗れる姿に外ならぬ。ことに冀東特殊貿易の廢止による正常貿易の復活と六月一日新關稅實施とは天津今後の發展を豫約するもので諸多の資本、商品が天津めざして奔流のやうに突入し來るさまは北支隨一の偉觀といへよう。ことに注目すべきことは從來金融機關、代表商社等を聚めて天津經濟中心地であることを誇つてゐた英佛租界から今夏來の邦人引揚問題を機に興中、國際運輸等その他が續々と引揚を開始しつゝあるの一事で天津の經濟中心地は漸く右兩租界を離れようとしてゐる。

輸移出入狀況 上海港に次ぐ支那第二の貿易港として天津港は北支の門戸をなし一九二六年以來順調の發展をなし一九三一年にはその極に達した。

年 度	輸移入合計	指數	輸移出合計	指數	總 計	指數
一九三一年	三〇、〇九二、一三四	110	二〇、九一三、六八一	140	五一、〇〇五、七二一	127
一九三二年	二八、七七一、八三三	113	一九、六三三、七〇六	131	四八、三一一、五三九	120
一九三三年	三三、一〇九、八九三	129	一五、三三三、九二一	104	三八、五九三、八四四	117
一九三四年	三三、〇〇四、九六一	129	一七、七四四、八六八	118	三三、七七一、八三七	117
一九三五年	一九、三六九、一八八	75	一七、六三三、七一一	112	三三、〇〇四、七九七	117
一九三六年	一八、八〇九、三三二	73	一七、五五一、六三三	112	三六、三六一、〇六五	114

天津日本側商業狀況

日本の北支に對する商業進出は日滿兩國の經濟プロツク強化と共に漸次具體化せらるゝに至り各種事業の計畫實行に伴ひ建設的諸物貨の輸入を促進した。而して積極的なる邦商の進出は邦品の流入に拍車を加へ北支市場における邦品は他國品の追隨を許さざるに至り昭和十年末に於ける邦人の人口は六千人より二年後即ち十二年事變の直前に於て倍以上となり一萬六千に次で事變一周年の本年七月二萬五千人に激増し天津中繼の邦品もこれに正比例する状態に至つた。邦人の商業活動は約三十年前の北清事變頃に起り漸次盛大となり邦品の北支進出に重大なる役割をなし北支事變前の排日並に農村不況により不振を極めたるに反し最近にては北支明朗化の波に乗り治

神戸海陸物産輸出組合出張所	木下正三	日界福島街三六
廣島縣産業獎勵館事務所	永海清太郎	同
福井縣物産紹介所	小泉進八	同
福井縣絹人絹布輸出組合	小泉進八	同
岡山縣商工獎勵館販賣幹旋所	松田傳藏	同
岡山市貿易幹旋所	渡邊清太郎	同
京都物産幹旋所	浦地治喜	同
北海道廳貿易調査所	岩崎實	同
和歌山縣物産販賣幹旋所	井岡大輔	日界壽街一五
大阪府立貿易公館	藤山正三	日界芙蓉街一ノ八
社団法人朝鮮貿易協會	米内山震作	日界橋立街二二
關東州北支貿易幹旋所	瀬戸崎寛爾	同
大連商工會議所駐在員	濱田芳彦	日界松島街三二ノ二
神戸市産業課駐在員	秋月伊勢松	日界壽街
福岡縣産業獎勵館北支分館		

關東州水産會出 井上理吉 日界橋立街二一
 朝鮮水産物支那 輸出組合駐在員 高田敬三 日界松島街五四
 天津日本商工會議所の法人化 天津商工會議所の會員數は七月末現在八四五人、十月末現在九五〇人で本年中に一、〇〇〇人突破の勢にあるがその擴大強化に伴ふ法人組織化は本年五月初旬外務當局の認可があり天津日本總領事館々令第三號を以て六月九日定款を發表した。該規則は爾後居留民團に年額二十圓以上の課金を納入する商工業者には全部加入の強制力が附與されまた議員は從來の推薦を改めて選舉制とし議員級別を一、二號に分け任期は從來の一箇年から二箇年に延長された。法定化後の天津日本商工會議所は名實共に北支における商工會議所中の代表的なものとなつたがその新定款中重要項目は左の如くである。

第一章 總 則

第四條 本會議所は天津居留民團に對し營業課金年額二十圓以上を納入する商工業者を以て組織す但し營業課金年額二十圓以下を納入する商工業者と雖も既に本會議所の會員たる者並に役員會の決議に依り入會を承認

せられたる者は此の限に在らず

第二章 議 員

第八條 本會議所の議員の定数は四十人とす但し商工會議所規則第六條第一號の議員は三十二人同條第二號の議員は八人とす

第九條 議員は名譽職とす

第十條 議員の任期は二年とす但し再選せらるることを得

第十一條 商工會議所規則第六條第一號の議員の選舉は選舉人を二級に分ち之を行ふ選舉すべき議員の數は各級同一とす

第十二條 本會議所は經費を滯納したる者に對し其の滯納中、職務を怠り又は商工會議所規則第十六條第一號及第二號の規定に依り當選を取消され又は解任せられたる議員若し役員に對し取消又は解任の時より二年以内商工會議所規則第六條第一號の議員の選舉權及被選舉權を停止することを得

第十三條 商工會議所規則第六條第二號の議員は天津の重要商工業其の他産業一業種に付各一人を選定す

第三章 役 員

第十四條 本會議所に左の役員を置く

會 頭	一 人
副 會 頭	二 人
常 議 員	十 人
監 事	二 人

但し監事は常議員中より互選す

第六章 部 及 部 會

第二十九條 本會議所に左の部又は其の他の部を置くことを得

- 一、貿 易 部
- 二、商 業 部
- 三、工 業 部
- 四、金 融 部
- 五、交 通 部

第三十條 部及部會に關する必要な事項は別に之を定む

議員選舉並選定細則

第二章 商工會議所規則第六條第二號の議員選定

第二十九條 商工會議所規則第六條第二號(地區内の重

要工業其の他産業を代表せしむる爲本令——總領事館令——又は定業の定むる所に依り選定したる議員の議員は天津及其ノ附近の重要商工業其の他産業一業種に付各一人を選定す

第三十條 前條の重要商工業其の他産業は左の八業種とす。

- 一、金融業
- 二、運輸業
- 三、紡織工業
- 四、紡織工業以外の諸工業
- 五、綿糸布、米麵輸入業
- 六、棉花、製油原料輸出業
- 七、一般輸入業
- 八、土木建築請負業

第三十一條 選定に依る議員は前條の各業種に付其の業者を以て組織せる團體又は業者の選定したる者を以て之に充つ但し商工會議所規則第二條の條件を具ふるものなることを要す

前項の場合に於て選定團體又は業者二以上あるときは協議して選定することを要す。

- 一、新事業計畫の斡旋に關する事項
- 二、代理店設置、日支合辦事業に關する紹介斡旋に關する事項
- 三、商工關係法規上の相談に關する事項
- 四、支那商標登録に關する事項
- 五、其他一般商工業の相談に關する事項
- 六、輸出入税率の適用に關する事項
- 七、輸出入品の評價に關する事項
- 八、其他稅關手續に關する事項
- 九、海關以外の内地諸稅局の稅に關する事項
- 十、仕入方法及販賣増進に關する事項
- 十一、會計、記帳に關する事項
- 十二、店舗設備裝飾及照明に關する事項
- 十三、廣告、圖案、意匠に關する事項

天津輸入組合評議員 昭和十三年度天津輸入組合評議員並びに正副組合長は左の如くである。

- 組合長 晉信洋行、上野壽評議員
- 副組合長 神港洋行、鍛冶部一郎評議員
- 評議員 怡豐洋行、大津洋行、金山洋行、中裕洋行、大濟公司、九鬼洋行、那茂洋行、九二兄弟

第三十二條 前條に依る議員の選定團體及業者は左の如く之を定む。

- 一、金融業 橫濱正金銀行、朝鮮銀行、天津銀行、東洋拓殖會社、天津信託興業會社
 - 二、運輸業 天津海運同業組合
 - 三、紡織工業 在華日本紡績同業會天津支部
 - 四、紡織工業以外の諸工業 天津日本人工業者同業組合
 - 五、綿糸布、米麵輸入業 天津綿糸布同業組合、天津米麵同業組合
 - 六、棉花、製油原料輸出業 天津棉花同業組合、天津製油原料同業組合
 - 七、一般輸入業 天津輸入組合
 - 八、土木建築請負業 天津土建協會
- 天津商工相談所新設 天津日本商工會議所では同所内に十月一日商工相談所を開設し商工相談事項には同相談所長小林理事が、稅關々係事項には中山調査課長がそれぞれ當ることになった。左記の事項に關し相談に應ずるものである。
- 一、商工業經營改善の指導に關する事項

藥房、副華洋行、武齋洋行、三昌洋行、北澤洋行

天津日本人米麵同業組合成立 天津日本人米、麵同業

組合規約の一部は左の如くである。

- 一、組合員の資格は組合員二名以上の推薦による。
- 二、組合費一箇年銀六十元。

組合員(△印評議員)
伊藤洋行、日信洋行、長泰洋行、兼松洋行、△泰信洋行、△増田洋行、△増幸洋行、又一株式會社、三昌洋行、△三井洋行、△三菱洋行。

天津貿易轉輸機關駐在員協會組織 各府縣市物産幹旋所および産業部出張所などは天津にある商工省貿易幹旋所を核心として大體天津に出揃ひ日支通商關係の緊密化のためにはこれら各機關の有機的聯繫、活動が痛切に要求されるにいたつので各機關の親睦、聯絡、協調機關の設立の計畫が商工省貿易幹旋所を中心に進められた結果八月中旬天津貿易幹旋機關駐在員協會が誕生した。同會のメンバーは天津貿易幹旋所、靜岡縣物産幹旋所、廣島縣産業獎勵館、福井縣北支駐在員事務所、東京市産業局天津出張所、大阪市貿易調査所、名古屋商品紹介所、岡

山縣物産販賣斡旋所、京都物産紹介所、愛知縣斡旋所、和歌山縣物産販賣斡旋所、廣島市産業部、神戸絹人絹輸出組合、群馬縣物産斡旋所、北海道貿易調査所、栃木縣物産斡旋所、神戸海陸産物輸出組合、神奈川縣東亞輸出組合、大阪府立貿易館、關東州北支貿易斡旋所、大連商工會議所、朝鮮貿易協會である。

各府縣市貿易斡旋所賣込並
買入希望商品

十月月初現在

大阪市貿易調査所

賣込希望、硝子玉(格安物)、石鹼、蓄音機(格安物)、ナイフ

買入希望、麻、石綿(松下電氣工業)

岡山縣商工獎勵館天津販賣斡旋所

學生服並に學生服地、花菱、墨表

朝鮮貿易協會天津支部

賣込希望、新白米、林檎(大和錦、紅玉、國光)、電球、珙瑯鐵器類、梅産物(乾魚、鹽魚各種)、ローソク類

北海道廳天津貿易調査所

昆布、海參、貝柱、藤子、干鰯、鹽鱈、澱粉

竹材(大分縣)、新案特許毛筆(名古屋市)、轉寫紙(大阪市)、タムナフト鉛(大阪市)、ペンキ刷毛類(東京市)、ベニヤ板(静岡縣)、茶(熊本縣、静岡縣)

天津獸皮同業組合許可

北支における獸皮買付および輸出の統制機關たる天津獸皮業組合は九月七日附正式許可を得た。同組合は創立當初は北支における軍需調辦機關として皮革買付の獨占化を意圖せる模様であつたがその後機關運用の點から種々の困難を生じ實際的調辦機關として活動する日はまだ遠きにあるものと見られる。十月下旬現在組合員左の如し。(△印幹事)

- △大倉洋行 兼松商店
- 九鬼洋行 正華洋行
- 大明洋行 高橋洋行
- △天平洋行 △野崎商店
- 滿蒙殖産 三井物産
- 毛革貿易

北支青果組合の擴充 邦系唯一の輸入青果類配給機關で歴史相當古く資本金約三十二萬圓、組合長三文字圓五郎外鍛冶、北澤、淺井、西山等計五名からなる合同出資の組合で最近武齊洋行、三昌洋行等の新資本を加へた法

天津京都物産紹介所

支那服飾紐、靴紐、リリヤン、帽子リボン、念珠、各種線香、香水、線香、繻糸、トラムプ、花札、タイプライタ、リボン、ブツクケエース、小型京人形、芳名録、葉書入、集印帳、野菜、果實、魚肉罐詰、宇治茶

福岡縣産業獎勵館北支分館

竹の子罐詰、貝類罐詰、漬物一切、醬油

廣島縣産業獎勵館天津事務所

履物各種、罐詰、複寫紙、朱肉、襖地

東京市産業局天津出街所

賣込希望、自動消火彈、東京高級製自轉車、便箋、アルバム各種、眞鍮製電氣照明器具

栃木縣天津物産取引斡旋所

大衆向仕立上り着物(柄合斬新千代田御召銘仙)推茸、干瓢、懷爐灰、人絹織物、高級和紙

神奈川縣東亞輸出組合天津斡旋所

絹織物、人絹織布、織物加工品、漬物、各種罐詰類、鎌倉ハム及ソーセージ、石鹼

天津貿易斡旋所

軍足(徳島縣)、グリーンピース(奈良縣)、若目(山口縣)、

人乃至これに類似する強固な組織化への計畫が進められてゐる。

百貨店進出に天津地元邦商の歡迎書

百貨店北支進出に關する天津邦商の歡迎書全文は左の通りである。

天津百貨店進出に關し歡迎の件

拜啓 大阪大丸百貨店の天津進出が傳へられ候に就ては當地實際の情勢に鑑み其の實現の曉には下名等小賣業者其他に對する營業上の打撃甚大なりと相認められ候間茲に其の實情を披瀝して貴總領事閣下の御清鑒を仰ぎ天津既存の多數小賣業者其他が衰亡せざる様何分の御高配を相煩度乍唐突連署を以て左の通り歡迎に及び候 當地小賣業者は長年の間(武齊商行之如き明治十九年より創業致し居る者も有之候)幾多の戦争、事變等に遭遇し且つ變動極まり無き銀爲替の試練にも耐へ然のみならず近年は支那の執拗なる日貨排斥と日貨輸入禁止の高關稅とに悩まされ通しにて其の間多大なる經營上の苦心を重ね少からざる犠牲を忍びて漸く今日に到りたるものにて吾が業者の内に未だ大成を爲したる者殆ど無き現状に御座候 幸に昨午日支事變突發以來我が皇軍の活躍と我が當局の

經濟的工作宜しきを得て長年の排日貨も其跡を絶ち爲替も漸く金銀ペー近く安定を見るに至り吾が業者に取りては誠上好機到來今後の發展活躍に大なる期待を掛け居る次第に御座候

斯る好時機に際して日本内地に於て其の百貨商店法の制限により以上の發展の餘地無き百貨店が其の過剩餘力と大資本の威力とを以て當地に進出致すとせば租界内外の日華小賣業者に取りて誠に晴天の霹靂にも等しく過去に於ける苦心も恐らく水泡に歸するに至らざるやと杞憂を抱く者に御座候

當地華人々口は其の數一百萬を越ゆると雖も彼等の文化の程度たるや未だ誠に低く其の購買力も誠に微々たるものにて從來滿洲各地の實例を見ても百貨店に於て買物をなす者の大部分は邦人たる點より觀察致し人口未だ三萬に達せざる當地邦人の爲に百貨店開店致すとせば現在一小賣業者の顧客の大多數をこれに奪はるゝ結果となり一資本家、一百貨店の爲めに一般に日本租界内外の日華當業者に甚大なる影響を與へ多年當租界の發展繁榮に相當貢獻し來りたる小賣業者の衰亡を招き遂には民間課金及び電燈料等の不納と成り且つ低利資金返済不能等の結

旅館	三〇	浴場	二七
婦人浴場	一一	紡紗業	一八
紡織業	二九	飲食品製造業	一六
日用品製造業	三四	製革業	一八
化粧品製造業	一八	教育用品製造業	一七
機械工業	一八	化學工業	一七
建築材料製造	一四	電氣器具製造	一三
書紙店	二四	紙本商店	一四
南紙店	一〇	古本店	二四
筆墨店	一六	金珠店	一四
綢緞呢絨商	二二	布店	一四
綿布商	一四	衣服商	一六
皮革店	一〇	皮革製品販賣	一〇
帽子店	一八	靴店	一〇
洋貨店	九	化粧品販賣	一〇
雜貨店	四	時計商	八
眼鏡商	六	骨董商	八
物商	四	海産物商	六

事變前天津市華人主要職業別明細表

華洋酒商	一二	菓子商	一〇
糖業	八	食料品商	一〇
油業	一三	醬油販賣	一〇
茶業	一四	煙草製造商	一〇
藥材商	一四	漢藥商	一〇
木器商	一〇	木製器具商	一〇
磁器商	二〇	諸器具商	一〇
食器商	二〇	洋灰商	一〇
鹽製造販賣	三二	ペンキ類料商	一〇
ガラス鏡商	四三	電氣用具販賣	一〇
金物商	四六	マッチ製造	一〇
石油商	四四	石炭商	一〇
木炭商	四四	タパコ卸賣	一〇
乾物果物商	二二	竹製品、木具商	一〇
藤細工商	二二	雙物商	一〇
燭具商	二四	錫器商	一〇
銅器商	二四	鍍器商	一〇
運動具商	三二	質屋商	一〇
運送業	二〇	通關商	一〇
建築業	一四	質屋商	一〇
人力車貸付業	一六	保險商	一〇
自動車業	四	魚類商	一〇
サイダー製造	九	菜類商	一〇
新聞雜誌業	〇	銀行	一〇
信託業	三	銀行	一〇

註……外國租界を除く (民國二十六年調査)

果に陥らざるやとも懸念せらるゝ次第に御座候、何卒右様の事情御賢察の上今日吾等業者の當地百貨店進出反對の衷情御諒察の上適宜なる御處置方御配慮を相煩度く此段下名等連署を以て特に款願迄貴得意候 敬具

天津支那側商業狀況 (事變前)

數年來相繼ぐ天災地變、動亂、銀爲替高等に禍され北支經濟界は漸次衰退の路を辿り農村購買力の激減と共に天津華商の倒産する者相續ぐ悲境にあつたが一昨年の農産物豐作により農村經濟は大いに樹て直され農村の購買力は急激に増加した。加ふるに邦資紡績工場の新設と進出と各種企業の發展とにより棉花其他特産物の需要増加は之に活氣を與へ間接的に華商の衰勢を挽回せしめる結果となつた。この間にあり上海を中心とする中國國産品

天津商工金融組合 邦人商工業者に低利資金の貸付をなしその發展向上を圖りつゝある。

天津支那側商業界の事變 前後事情

Ⅱ支那問題研究所調査Ⅱ

天津事變によつて天津支那街および特別區の治安は全く紊れ各商店は全部閉鎖し八月一日成立した治安維持會がわが軍協力のもとに治安回復に努めたが民衆ならびに商店の警戒心治まらずこの状態は約一箇月間支那街各所に續いた。八月末小賣店は追々開店したが必需品以外の品を扱ふ商店は殆んど閉店休業に等しく仲秋節（九月十九日）前後までの天津經濟界は殆んど假死の状態に置かれ恒例の仲秋決済も殆んど舊正月まで持越された。

營業額減少資本 天津支那側金融商業界の營業軒數（昨年十二月現在、市内に本支店あるものは支店の軒數を算入せず）約六、六五〇、この中支那街および特別區に約五、一一〇、各租界内に一、五〇〇餘でその資本金は十萬元以上八〇、一萬元以上約一、一〇〇、千元以上一、六〇〇餘百先以上約三、九〇〇。また卸小賣の分類をすれば前者六二〇、後者約四、七〇〇である。

事變による損害 事變による損害は直接損害のうち營業建物の損害が金店および質店の各八千元、兌換店の七

千元をはじめ總額四萬九千元、商品の損害は米莊の三萬元、藥材店の二萬元をはじめ總額九萬二千元、直接損害推計十四萬一千元である。また間接的營業損害は棉花業の二十萬元、米莊、海産物問屋の各十萬元をはじめとして約百五十二萬元である。

事變後の移動 閉店一一八、開店三五、華街から租界内への移轉二四、租界内分店設置一九である。

金店（貴金屬）

事變前 天津事件前の同業者三十五軒（日租界四、佛租界七、華街二四）、日佛租界内に在るもの、内三軒は資本金五萬元前後で金銀塊を自家精鍊、細工し他に一萬元程度のもの五、爾餘の二十七軒は全部五千元前後の資本で幣制改革前は銀號と取引し極めて好調であつたが改革後銀塊が國有となつてからは不振となり銀盾その他裝飾品の小賣ならびに銀號を兼營するものはその収入によつて維持する程度であつた。

事變後 東馬路の恒孚、正華兩金店は砲彈によつて破壊され建物損害約八千元、商品損害約六千元に達し兩店とも閉鎖するに至りまた華街同業者は全部休業し約一箇月後再開した。一方事件によつて各銀行、銀號の預金者

間に通貨不安騒動し預金を引出して金塊を購入するもの多く、佛租界内金店はこれがため事件以來營業頗る股盛を來した結果日租界の恒利、華街の三陽、正陽外一軒は佛租界内に分店を設けてそれぞれ本店の缺損を補つた。事變によつて蒙つた營業缺損は前記一箇月間の休業中の支出および爾後の營業不振による缺損があるが佛租界内金店の繁昌によつて多分にそれをカバーし總額三萬元程度である。

棉花

事變前 事變前の同業者五十六軒（天津租四十軒うち三十軒は租界内、上海租十六軒は全部租界内）で本業が專業化されたのは天津租が一九一三年一軒設立されたのに始まり三二年までに十六軒、上海租は當時まだ一軒に過ぎなかつたが三四年來の棉花豐收は本業の急激なる増加を促し僅か五箇年間に現在數即ち四倍の軒數に達したのである。その資本は天津租のものは千元一六千元二十二、一萬元一五萬元十八、上海租の資本は全部一萬一五萬元程度である。各棉棧は三六年未曾有の活況を呈し約六十萬俵に達して營業額二千七百萬に上つた。三七年上半期は綿糸相場の高落甚しく、如ふるに六月上中旬の上

海取引所の紛擾あり當時取引停頓に陥つたが、間もなく持直し秋の新綿出廻りに多大なる期待を懸けてゐたものである。

事變後 事變後新綿出廻季に入つて奥地は戰地と化し水陸交通不便さらに洪水によつて水底に没した棉花も多く各棉作地方とも大打撃を蒙るに至つた。天津の本業者は天津襲撃事件が恰度端境期の休業時期に突發したので當時は何等損害を蒙らなかつたが爾後二箇月出廻り全く杜絶したため開店休業を餘儀なくされ十月に入り東河棉が北寧線にて廊坊、南苑及び海河一帯のものが馬車或は民船によつて少量出廻りはじめ十一月初旬來西河棉が馬車或は自動車によつて出廻るに至り一日四百乃至千俵平均毎日約八百俵の集荷となりその後漸増して十二月末までに西河約五萬俵北河、東河其他各地棉約二萬俵合計約七萬俵前後の出廻りを見たが例年に比すれば五割以下と見られ損害は少くも二十萬元に上るものと見られてゐる。

なほ京漢線方面に於ける買付けは各洋行筋に伍して支那人同業者間にも漸次増大しつゝあり事變以來新開業のものも五軒を數ふるに至つてゐるが舊正決済期までには

多少の變動を見るであらう。尙十二月末の天津在荷は粗毛一八、三三四。細毛三六、七五二、合計五五、〇八六俵。相場は南苑四十三元、西河米棉四十三元、廠坊四十三元、北河米棉四十二元、海河三十八元程度である。

米 莊

事變前同業者五百十軒（各租界内百三十一、華街及び特別區三百七十九）資本金は五萬—十萬元十三、五萬元以下一萬元程度八十、五千元前後百三十四、他は千元以下の小額である。この内卸商は五十、小賣商四百六十。卸商は中南支及び日本ならびに米國から米及び麵粉を移輸入し市内及び北京、冀東、西北各省に賣捌き年額約百萬元程度の商内を行ひ、また上海に分店を設けるもの、卵製品工場、石油、鹽、曹達灰等を兼營してゐるものもある。小賣商は俗稱米麵舖で米、麵粉の外玉蜀黍粉及び豆類も取扱ひ、それらは總て卸商或は雜穀仲買商から仕入れるものである。この小賣商の大部分は小規模の電氣精穀機を有し玉蜀黍を製粉してをり精穀のみを營業とするものを「磨坊」と呼んでゐる。本業の取引市場は總て白河東岸金城貨棧、啓泰棧、鐵貯棧、招商南棧等にて午前中に行はれ現金取引である。

各業中の大老舗として存在してゐる。雜穀仲買の本業の外倉庫を兼營し、倉庫内に居室を設け地方から來津せる荷主をそれに、或は店内に居住せしめ雜穀は倉庫に入れしめる（これは客を集める手段で勿論宿泊料は徴しない）。また倉荷を抵當に月利一割二分の利息を付して前金を貸付け賣買成立後元利及び手数料等を控除して荷主に残金を交附する習慣で、この擔保貸出金は毎年三十萬元に達する。尙地方の間屋に連絡をとりこれに對し信用貸を以て雜穀出廻前に融資をも行つてゐる。斗店内では毎朝倉荷雜穀を陳列し市内米麵舖及び福州、潮州帮等商人の間に取引する。その仲介手数料は賣値の十%倉敷料・保險料は七%が普通で、斗店業者は毎年これら手数料その他で各二萬元程度の純益を擧げてゐた。

事變後天津事件による直接損害はなかつたが事變の進展と洪水によつて秋の收穫激減せると交通杜絶のため全く出廻なく十一月に入り京綏沿線から豆麥類が少量出廻つたのみと市内の糧食需要旺盛のため在庫品の全部を賣出しこの片商内による利益はあつたが例年に比し營業額は問題にならぬ少額で未だに閉店休業の狀態にあり一方十二年は秋作物目當に真地雜穀間屋に貸付けを額は

事變後事變前の業態は良好であつたが天津事件發生とともに各店殆ど休業、一方華街西頭一帯の三軒、河東小玉莊及び大經路一帯の七軒、計十軒は支那兵のため商品全部掠奪に遭ひその直接損害約三萬元に達した。租界内の米莊は約五日間の休業後再開、華街の業者は右掠奪に遭ひ閉鎖せる十軒を除き九月初めから漸次再開、爾後元興、義聚永、永生三米莊は英佛租界に移轉し他に十二月迄に閉店せるもの三、開店四。卸小賣商とも十一月迄は米及び麵粉の出廻りなく一方價格も當局にて公定されてゐるため營業狀態は極度に衰微してゐたが十二月以來日本粉の輸入多きと天津製粉工場のうち二工場が操業を開始したので漸次營業持直しつゝあり。事件以來の缺損は約十萬元程度と稱されてゐる。

斗店(雜穀仲介)

事變前本業は官廳の認可を要する特許商で牙稅(仲買營業稅)を納入し特許證を得て雜穀賣買の仲介をなすものである。天津の同業者は怡和公記、華豐裕、同孚新、萬春新記、同順永の五軒、全部華街に在る。五軒とも一八二〇年頃創立されてをり、その後改組されてはゐるが店名は依然繼承し資本金も五萬元前後三、十萬元程度二で

約四萬五千元に達し大部分が回收不能とされてゐるので缺損は約五萬元に達する見込である。

倉 庫

事變前事件前の同業者五十四軒、本業は雜穀類を殆ど收容せず毛皮、羊毛、棉花、乾果、鮮貨、山貨(藥材等)を收容するもの及び轉送専門の所謂「貨棧」である。羊毛、毛皮、棉花類専門の倉庫は英・佛租界及び特三區一帯に二十二、乾果、山貨類専門の倉庫は特二區、河北一帯及び伊租界一帯に三十二を數へる。その資本金は十萬元程度のもの八、他は全部二、三萬元である。營業範圍は雜穀仲介業に等しく倉敷・保險・直接賣買、依頼による賣買、貸付の四種で倉敷・保險料は一定したものではないが普通貨物價格の六分を一週間に計算・徴収するものが多いやうである。

直接賣買は云ふまでもなく倉庫業者自ら出廻貨物を買込・賣却の折衝をするもので最大の利益はこれによつて擧げられる。依頼による賣買は成立とともに買方より貨物價格の一割二分の手敷料を徴する。若し他の仲介者によつて賣買成立すればその仲介者と倉庫業者によつて手数料を平分

する習慣である。

貸付は荷主より前金借受の申込があれば貨物を擔保としてその時價の五割乃至七割を最長一箇月、最長六箇月を限度とし一割二分の利息を附して貸付ける。毎年この貨物擔保の貸付は五十萬元に達してをり、大規模の業者は銀行、銀號より貨物を抵當とし或ひは信用を以つて借款し資金を運轉してゐる。

棉花、毛皮、羊毛及び山貨は主として洋行筋に取引され代金は現物受渡後一週間以内支拂ひとされてをり、乾果、果實等は市内乾果問屋に取引される。業者は直接買賣による収益を最大のものとする外仲介手数料収入も極めて大きいので地方から來津する荷主を爭奪し、その便宜を計るため殆ど倉庫内に特に客室を設けて無料にて宿泊せしめてゐるが、これは春秋の二季に限られてゐる。

事變後天津事件による直接損害は殆どなかつたが爾後事變の擴大によつて最大の貨物であつた棉花（棉花業の項参照）が出廻らず、毛皮、羊毛類も杜絶、運化、蕪州一帶から出廻つてゐた山貨・乾貨・果物類も殆ど入荷なく在庫品は八九月に亘つて大半出盡したため全く閉店休業の状態に陥つてゐるが、十一月中旬來冀東地區を始

七割の比率となつてゐた。

事變後天津襲撃事件突發により華街に在つたものは直接損害はなかつたが全部休業。租界内業者は日本租界を除き殆ど休業はしなかつたが人心不安のため閉店休業の状態に置かれた。その後約一箇月を経て華街各店も殆ど閉店したが營業不振のため店員の解雇及び減給（二、三割）を斷行して維持に努め、仲秋直前頃から綿絲布問屋が冀東方面にばつ／＼荷動きを見るやうになり綢緞店も佛租界内のもものが例年同季より稍少ない程度に營業恢復、華街のものも小額ながらばつ／＼賣行を見るに至つた。その後教慶隆、謙祥益、華林三綢緞店は佛租界に分店を設け綿絲布問屋も地方との交通稍良好となつたため多少活潑になつたと云へ例年とは比較にならず相場も事變前に比し三十元乃至三十五元方下落してをるので營業成績畢らず辛うじて維持する程度で、絹布・綿絲布全業者の事變以來の缺損額は約九萬元に達すると稱されてゐる。

布類小賣業

事變前二前項絹布、綿絲布業と似てゐるがその營業方法（呼賣多し）異りまた小賣専門であるため獨立して「門

めとし各地から山貨・乾果・棉花類が少量乍ら出廻つて來たため僅かながら營業を續けてゐるが、未だ過息状態を脱せず辛うじて維持しつゝある程度で、十二月中旬特三區の春祥貨棧、同下旬正信貨棧、（資本四萬元）は遂に破産閉鎖したが舊正までには尙三、四軒の閉鎖あるものと見られてゐる。同業者の營業缺損は十二月迄に約八萬元に達する見込である。

絹布・綿絲布業

事變前二同業者百八軒この内絹織物（綢緞）専門店は利豐、大輪、永義成等十五軒、フランネル及び綿布兼營のものは元隆、華竹、教慶隆等四十二軒、綿布兼營十三軒、綿絲布商三十八軒（フランネル兼營のものは泰豐、滋康等十五軒）營業所は租界内六十、華街四十八。その資本金は十萬元前後十三、五萬元前後六十五、他の三十軒は各二千—七千元見當である。絹布商は大半小賣であるが、綿絲布商は全部卸商である。從來商品の仕入先は、絹布及び綿布を殆ど上海から、綿絲は上海からと天津及び唐山、石家莊、太原等各紡績工場製品でこれがため上海に仕入店を設けてゐるものが多く顧客は市内三割、東客（冀東各縣）西客（山西、陝西、綏遠省等）京客（北京）稱等

市布業公會」を成してゐる取扱品目は日本製加工綿布を主とし絹布及び麻織物で天津事件前の同業者約百軒（華界八十、租界内二十）この内店舗を有するもの七十五、他の二十五は道路上で小賣するもので、従つて本業者の資本金は極めて少なく二百元前後約三十五、三、四千元のものは約十軒に過ぎない。

事變後二事變前上半期の營業は相當良好であつたが天津事件によつて殆ど全部約一箇月間に亘り休業、再開後店員解雇或は減給を行つて維持に努めたが營業不振と資本貧弱のため華街業者のうち新記、東記、同新、慶立興その他を合し九軒の閉店を見租界内業者は最近稍好轉してゐるものゝその収入に例年に比し極めて少なくこの情勢では舊正決済までに同業者の三割前後の閉店を見るのではないかと憂慮され事件以來十二月までの缺損は約一萬元程度。

實 業

事變前二事件前の同業者六十軒（華街四十、租界内二十）、殆んど山西人の經營で北京及び天津人の經營するものは歴史も短い数も約十軒に過ぎない、また實業當は佛人の經營である。資本金は十萬元二、五、六萬元二十、

前月の三十八軒も各二、三萬元を擁してゐる。本業は云ふまでもなく民衆の簡便なる金融機關であり期限十八箇月、毎月一元につき二仙の利子を附し、その期限後入質者が受戻さなければ、質物は古衣屋に賣渡してゐる。

事變後天津事件勃發するや華街各質屋は全部休業、また大直沽の麟祥當、獨流鎮の隆昌當(同業公會員)が砲彈を受けて灰燼に歸し、この二軒の直接損害は建物、什器等約八千元質物約一萬元と見られてゐる。その後約一箇月を経て治安維持會の督促により各質屋とも漸く復業したが、窓口或ひは門口から質物を受入れ、質物の良否に拘らず貸金は一元に限定し營業時間も午前九時から正午まで僅か三時間に過ぎず、十月初旬に至り營業時間を午前八時より午後四時まで延長、貸金も稍多くしたが事件前に比較すれば約三分の一と云ふ極めて少額で、この状態を現在も尙續けてゐるが、それは事件以來(一)質物の受戻し少なく資金の流出のみ多く、(二)銀行、銀號は貸付を警戒しをるため金融困難で流質品の賣却不振と云ふ諸種の悪材料が重疊しをるため質物の受入れを極度に制限してゐるわけである。斯かる状態の下に華街各質店とも今のところ唯維持しをるのみに過ぎず事件による一

箇月間の休業中の支出と爾後の缺損は約六萬元に上ると推定されてゐる。一方租界内の質店は、これと全く逆現象で事件以來却つて業態良好となつてゐる。それは(一)上流階級の避難者が貴重品を全部入質して保存を依頼する傾向あるため貸金の多寡は問題でないこと(二)中流階級の租界内避難者は生活費の昂騰に弱り入質して生活維持費に當てざるを得なくなつたこと(三)銀行、銀號が租界内に多きたため金融の便も華街のものに比し優位にあること等々の原因によるものと見られてゐる。

古衣

事變前天津商業界に於いて營業戸数の多いことでは第二位を占め華街に七百餘、租界内に三百餘、計一千餘軒に達する。その資本額は大小區々、二萬元から十萬元を擁する卸業者は德和永、四合公、恒泰昌をはじめ十軒、その他は全部小賣業者で千元一五千元の資本を有するも

事變後天津事件勃發するや華街各質屋は全部休業、また大直沽の麟祥當、獨流鎮の隆昌當(同業公會員)が砲彈を受けて灰燼に歸し、この二軒の直接損害は建物、什器等約八千元質物約一萬元と見られてゐる。その後約一箇月を経て治安維持會の督促により各質屋とも漸く復業したが、窓口或ひは門口から質物を受入れ、質物の良否に拘らず貸金は一元に限定し營業時間も午前九時から正午まで僅か三時間に過ぎず、十月初旬に至り營業時間を午前八時より午後四時まで延長、貸金も稍多くしたが事件前に比較すれば約三分の一と云ふ極めて少額で、この状態を現在も尙續けてゐるが、それは事件以來(一)質物の受戻し少なく資金の流出のみ多く、(二)銀行、銀號は貸付を警戒しをるため金融困難で流質品の賣却不振と云ふ諸種の悪材料が重疊しをるため質物の受入れを極度に制限してゐるわけである。斯かる状態の下に華街各質店とも今のところ唯維持しをるのみに過ぎず事件による一

秋開け後再開した。事件による直接損害は華街の懷義公古衣店が砲彈を受けて建物及び商品を烏有に歸し約五千元の損害あつたのみであつたが仲秋決済に當り四合義、德源兩店は維持困難となり前者は一萬一千元、後者は約一萬元の手持品を債權者に渡して閉店するに至つた。また德和號は租界内に分店を設置して挽回を計つてゐる。その後の營業状態は租界内のもは事件前よりも好況であるが華街の業者は辛うじて維持し得る程度で十二月までの營業上の損失は一萬元に達する見込であるが、今後奥地の恢復によつて持直し得るものとしそれに期待をかけてゐる。

洋雜貨

事變前天津商業界に於いて營業戸数の多いことでは第二位を占め華街に七百餘、租界内に三百餘、計一千餘軒に達する。その資本額は大小區々、二萬元から十萬元を擁する卸業者は德和永、四合公、恒泰昌をはじめ十軒、その他は全部小賣業者で千元一五千元の資本を有するも

したのであつた。

事變後天津商業界に於いて營業戸数の多いことでは第二位を占め華街に七百餘、租界内に三百餘、計一千餘軒に達する。その資本額は大小區々、二萬元から十萬元を擁する卸業者は德和永、四合公、恒泰昌をはじめ十軒、その他は全部小賣業者で千元一五千元の資本を有するも

雜貨

事變前天津商業界に於いて營業戸数の多いことでは第二位を占め華街に七百餘、租界内に三百餘、計一千餘軒に達する。その資本額は大小區々、二萬元から十萬元を擁する卸業者は德和永、四合公、恒泰昌をはじめ十軒、その他は全部小賣業者で千元一五千元の資本を有するも

の約百九十軒、爾餘の八百軒は高々三百元止りの小商人である。取扱商品は砂糖、調味料等の食糧品及び日用雜貨で、中には蔬菜、藥品も兼業してゐるものもある。卸商は殆ど上海に仕入店を有し、市内、省内各縣及び西北各省に賣捌いてゐた。

事後II天津事件に際し各租界に在る雜貨店は品拂底の横に乗じて一齊に價格を吊上げストックの多い店程大なる利益を擧げたが華街に在る同業者は火線下に曝された東馬路、大經路及び東站一帶が約一箇月休業し、その他の雜貨店は約二週間休業後再開した。その後閉店二、新開業八軒が現れてゐるが卸商は入荷極めて少なく手持品を動かして維持し小賣商のうち大經路一帶の店は同方面居住者の減少により毎日僅かに二十元以下の賣上しかなく弱つてゐるがその外は逐次舊態に復してゐる。事件以來の缺損推定約二萬元。

雜店(小賣物)

事後前II同業者百二十軒(この内二十軒が租界内に在る)。資本金は一萬元五(德豐、源豐、仁昌、華貞、宏豐)五千元以上四十、六百元前後七十五。この内十五軒が卸賣を兼ねてゐる。營業種目は化粧品、綿糸・毛糸及びそ

その後華街の小賣商のうち六軒は租界内に分店を設けてこれに主力を注ぎ營業の恢復を計りつゝあり卸商は奥地への交通不便と購買力の激減により今尙ほ休業狀態に置かれ冀東方面及び市内帽子店にぼつ／＼捌けるのによつて辛うじて維持してゐる。事件による直接損害はなかつたが爾後の營業不振による間接的損害約一萬元の見込。

靴店

事後前II事件前の同業者百五十軒、この内卸商三十二、小賣二十五、作坊(小工場)及靴底修理九十三。資本金は卸商が殆ど一萬元程度である外は小額で作坊は僅に五十元乃至二百元である。卸商は河北及び侯家後一帶に、小賣商は東・北馬路に作坊は舊城内に多い。全營業額は毎年百五十萬元前後であつた。

事後II今次事變により卸商は奥地との交通不便ならびに賣掛代金の回收不能に陥つてをり事變以來すでに半歳殆んど休業狀態で店員の大部分は解雇された。間接的營業上の損害約二萬三千元。小賣商は事件當時中國、手巾、兄弟の三店及びその他數軒が店先を僅に破壊(損害額五百元)されたのみで他に直接損害はなかつたが八月末まで約一箇月休業、再開後の營業は事變前に比し約三

の織物、玩具、珠寶磁器、刺繍絹物等で一種の百貨店であるが販賣品の主なるものが半月布、シャツ、針糸等綿織物が多いので「線店」と稱されてゐる。また卸商は石鹼・化粧品・靴下製造工場を兼營するものもある。

事後II本業は他の商店に比し多數の店員を置いてゐるので華街各店は今次事件により全部二週間乃至一箇月の休業中その給料に困つたが店員も轉向の途なきため無給を承諾して踏止つたものが多い。再開後の營業は一時頗る悪かつたが冬季に入つてから小賣店は漸次好轉しつゝあり、卸商は未だ奥地方面との往來が恢復しないため開店休業の狀態に置かれてゐる。事件以來全同業者の缺損は約二萬元の見込である。尙德豐線店は佛租界に分店を設けた。

帽子店

事後前II帽子小賣專業店は事變前約二十軒。卸商六軒、その資本金はいづれも三千元程度から多くも一萬元以下で事變前は前年來の好況續いてゐた。

事後II天津事件により華街の各店は約一箇月休業、また同隆和帽莊の店員四名は遭難死亡するなどの不祥事あり、再開後の營業は全く不振に陥り三軒の閉店を見た。

割程度に過ぎずすでに閉店六軒を出してゐる。事件以來の缺損約一萬元と見られてゐる。なほ事件後德華驛、日隆齋、同隆和の三靴店は事件前から佛租界に設けてゐた分店に主力を注ぎ沙船は全營業を佛租界に移轉、字中も佛租界に分店を設くるなど打開に努力してゐる。作坊は事件前最少職工三人、少年工五人を使用してゐたが、事件により職工を解雇し少年工のみを残して休業、約一箇月後一部再開したが小賣店の不況によりさつぱり註文がななく、現在までに舊態に近きまでに恢復せるものは僅に十五軒、他は今尙休業狀態でこの間の缺損約九千元。これら同業者全部の損失合計は約四萬二千元に達する。最近卸商は營業打開策として滿洲方面に販路を求め九一八事變以前の取引を復活すべく努力してゐる。

毛皮

事後前II同業者九十軒、この内輸出洋行筋のみと取引する出口皮貨莊十三軒は英租界廣東路一帶に、小賣店二十軒は佛租界及估衣街一帶に、ブローカー二十軒は英租界十一號路各里に、鞆皮専門の「作坊」二十軒は佛租界老西開及び華街西廣開一帶にある、その資本金は輸出筋五萬元十、二、三萬元二十五、小賣店は五千元程度、ブローカ

及び作坊は二百一五百元に過ぎない、各皮問屋は全部宣化その他の察哈爾省内及び綏遠省に店員を派して毛皮を買付けてをり、作坊はこれの弊しを引受けるもので買はしない、本業の最盛時は一九三〇年頃で三三年頃からはロシア産品との競争により価格低落したが三六年來再び好況を呈してゐた。

事變後天津事件發生當時は本業のシーズン外であり休業もさほど打撃ではなかつたがその後シーズンに入り洋行筋は買氣擡頭したが船舶難により運賃昂騰（屯當り約二十元）し採算採れざるため契約ものを九月中旬輸出したのみでシーズンを通しその後軍用としての需要多く相場昂騰してゐるもの、奥地よりの出廻り極く僅少なるため閉店休業に等しく十二月までの缺損三萬元に達する見込。尙估衣街にあつた皮莊五軒は英佛租界に移轉した。

硝子業

事變前同業者三十二軒（殆んど南宮及び冀縣人の經營するもので英佛租界に八、他の二十四軒は華街）資本金は最高二萬元前後五、三千元程度二十二、他は五百元前後である。營業品目は硝子及び鏡で仕入元は美最時、東光、耀華及び各洋行筋、販賣先は市内建築業者に多い。

負工事をなし三六年來市場の好況は同業者全般に好景氣を齎してゐた。

事變後事件發生によつて華街の業者は一時全部閉店し小賣商のうち十軒はそのまま破産閉鎖するに至つた。再開後の賣上は事件前の二割乃至三割に過ぎず修理等によつて辛うじて命脈を保つてゐる。卸商も奥地への取引杜絶せるため市内小賣に主力を注ぐ状態と同業者全部の缺損約二萬元に達する見込。

陶磁器業

事變前同業者二十七軒、資本金は一萬一三萬元十七、他の十軒は二千一五千元程度。この内卸商五、卸兼小賣十一、小賣十一軒に分かれてゐる。販賣品は江西物（上海の問屋から仕入）日本物（天津日本商社より仕入）唐山土器（天津啓新洋灰公司、德盛密廠より仕入）等で江西物專業は四軒である。質から云へば江西物が首位であるが日本物は精巧さに於いてこれに優れてをり唐山土器は粗悪極るけれども價格低廉なるため賣行は最高位で江西物の賣行は茲數年最下位であるが今後も運賃關係その他で日本物に壓倒されると豫期されてゐる。

事變後天津事件當時は直接損害なかつたが數日間全

大徳、亨義昌、豫興厚、同興和等の大口取引業者は茲兩三年來建築物増加により好況を呈してゐた。

事變後今次天津事件により殆ど休業その後仲秋前後までに全部閉店したものの、日本人方面以外の需要は殆どなく、奥地向けは交通不便のため全く逕息状態に在り同業者全部時機待ちして辛うじて維持してゐる。事件以來缺損額は約四千元程度、尙華街に在つた義昌は佛租界に移轉した。

電機材料業

事變前本業は商業であるとともに家内工業で資本金最高一萬元十一、四千元前後二十四、三百元程度三十四、計六十九軒（うち租界内二十三）が事件前に營業してゐた。資金の充實せる店も卸賣門でなく小賣も兼ね、材料は美最時（米）怡和（英）禮和（獨）及び日本人商社並びに上海の電球工場から仕入れるが亞東、鼎昌、天光の三軒は工場を兼營し各二十餘人の職工を有し部分品及び電鈴（日産各二、三打）ならびに煽風器、電話器、變壓器等も製造してゐる。販賣先は軍事及び交通機關に多く昨年來三店とも西安に分店を設けた。小賣店の主たる營業は電球販賣であるがその旁らラヂオ受信器の修理及び電氣裝置請

部休業し再開後の營業は奥地向全く不振、市内小賣のみが秋の婚禮月に入つて多少商内を見たがその後停滯状態にあり當分苦境を脱し得べくもない。仕入は今のところ唐山方面からの粗悪なる土器の移入のみである。事變以來同業者の缺損約一萬元と見積られてゐる。

石炭・木炭・石灰業

事變後天津商業界に於いて同業者の最も多いのは本業で二千六十軒に達する（總站及び東站の東西倉庫附近に三百、各租界に六十、舊城内外及び各特別區に千七百）。資本金は五萬元前後二百七十、三千元前後三百五十、その外は二百一五百元程度。このうち卸專業は百、卸小賣百七十、爾餘は全部小賣である。石炭は門頭溝、開灤、井陘、福中、山西等より、木炭は冀東及び御河に沿ふ省内各縣より石炭は門頭溝及び唐山一帶より仕入れ石炭は市内需要に應ずるとともに上海日本に移輸出する。

事變後今次事變は本業のシーズン外に勃發したので當時は何等痛痒を感じず九月末頃まで天津及び塘沽に於いて左記（滿鐵調査）の如く合計約十二萬噸を

開灤炭 天津塘沽 六萬噸 五千噸

井 陘 炭	七千器	二萬噸
門 頭 溝 炭	一	二萬噸
大 同 炭	少 數	少 數

擁してゐたがその後シーズンに入つても出廻り極めて僅少であるため卸小賣商ともこれが争奪を演じてをり一方価格は暗相場に等しく前年に比し五割乃至八割方の暴騰でストックの多い店は却つて利益を擧げ、また十、十一月中に新開業十一軒に上つてゐるが、その反面井陘炭取扱の泰興煤棧(資本五萬元)は十二月二十五日破産したるなどの事實もあり、舊正決済までには波瀾あるものと見らる。尙例年冬季天津に於ける石炭取引は毎日約二千噸、この外に輸移出毎日約千五百噸程度あつたが、現在では天津市内需要毎日約千五百噸のみで輸移出は殆ど行はれてゐない。天津出廻各石炭につき事變前後の事情を擧ぐれば――

開源炭 事變前は毎日約二列車計千噸。事變發生後は一時杜絶してゐたが、十二月以降は毎日約四列車計二千噸の出廻あり、現在ストック約二萬噸。

門頭溝炭 事變前は季節の關係から大なる出廻なく、事變以來は順興煤棧に約二千噸到着したのみ。その後炭

坑の出水もあり貨車も不足のため出廻なし。在荷約一萬噸。

柳江炭 事變前は季節關係で殆ど出廻なかつたが、事變以來北寧線により毎日約二百噸出廻つてをり在荷約五千噸。

井陘炭 事變前の出廻は毎日約三列車計千五百噸。事變以來全く出廻杜絶し在荷なし。

山西・大同炭 季節の關係上事變前の出廻りは極めて少量當時塘沽に大塊約四萬噸の在荷があつたが天津事件直後日本側に噸當り十三圓八十錢にて全部買収され、その後の出廻りは貨車不足のため未だに實現するに至らず、現在天津在荷約二千噸であるがこれは全部事變前よりの持越し品である。

五種金屬屬

事變前 同業者八十三軒(日租界十二、佛租界十八、英租界七、他は華街) 資本金は八萬元十三、三萬元前後二十三を數へ爾餘のものも五千元前後である。この内卸商は日租界を始めとし十五軒あり、鐵、銅、機械等の大口品のみを取扱ひ三井、三菱、三昌等の邦商ならびに怡和、新興、歐亞貿易等外商筋と取引してゐるが邦商側からの

仕入が壓倒的大量で、賣込先は鐵路局、鑛山及び兵工廠ならびに北支各省の各工場である。小賣商は六十八軒あり釘、その他小口の金屬類を取扱ひ仕入先は卸商同様各洋行筋である。

事變後 今次事變前は卸小賣商とも軍用その他需要多くしかも鐵價易騰の波に乗つて莫大な収益を擧げてゐた天津事件で租界内業者は約一週間休業、華街業者は約一箇月半休業し源隆、源記兩店は佛租界に分店を設くるなどの變動あり。爾後の營業狀態は卸問屋が交通不便で奥地賣行杜絶せると仕入元の品不足には弱つてゐるが小賣商は全般的に好況を續けてゐる。本業者の事變以來の缺損は卸商約五千元の見込であるが鑛山及ど工場筋への貸倒れ約二萬五千元に上るから事變による間接損害合計約三萬元である。

雜材類(洋藥業者を含まず)

事變前 事件前の同業者二百三十軒(うち各租界内にあるもの五十二、各特別區二十三) 資本金は最高五、六萬元のもの八、五千一萬元二十二、殘餘は五百一千元程度。その營業は卸賣、小賣、仲介の三種に分たれ、卸商は達仁堂、聚興和、陸順裕、萬青堂、同仁堂、萬生堂等十二

軒であるが小賣をも兼ねてゐる。河北省に於ける漢藥材料の集散地は祁州(安國縣)で、京綏綫包頭方面からも西北地方藥草類の出廻りが多い。卸商はこれを買付けて北支各省及び上海、廣東等にも移出してゐた。小賣商は約二百軒で、卸商から藥材を仕入れそのまゝ販賣するものもあるが、多くは店内にて丸藥、散藥、膏藥等に精製してゐる。仲介業は十八軒あり、主として秋冬の二季、藥店と藥材荷主間に賣買を仲介し、その手数料を徴するもので自ら藥店は經營しない。

事變後 天津事件に際し租界内に在るもの、一部及び華街に在るもの全部休業また東馬路以北の藥店は火線下に置かれてそれら、多少の損害を蒙り河北の永春堂は灰燼に歸し同店の直接被害建物五千元、商品二萬元に及んだ。爾後二旬を経て八月下旬から殆ど再開したが時偶まコレラその他流行病の猖獗により藥品の需要多く一方入荷杜絶のため價格昂騰し小賣は漸次舊態に復することを得たが卸商は中南支との取引全滅のため打撃甚だしい。また仲介業二軒は閉店した。本業の事變による間接的損害は約三萬元程度の見込。

雜煙類(捲煙草卸賣)

事變前||同業者四十五軒(佛租界十二、日租界四、英租界一、華街二十八)資本金は一萬元以上十五、殘餘の三十軒は二千—五千元。この内南洋兄弟香煙公司、永泰和、華成、華非の四軒は上海に本店を有する最大の同業者で、この四軒から他の同業者に殆ど供給されてゐる。問屋は石油販賣問屋と同様に、一區劃(省・縣・市)を定めて仕入元或は製造會社に保證金又は保證書を入れ販賣請負額を定めて商品の交付を受け、その代金は毎月一回清算するものである、前記上海に本店を有する四店を除き他の各店は北支各省・各縣にそれ〴〵一手販賣權を有する代理業者で三六年來の農村景氣は同業者全般に好況を齎らしてゐた。

事變後||今次天津事件により一時休業状態に陥つたが軍隊方面の需要急増したので短期間に再開し事件による損害は何等なかつたと云つてよい。たゞ從來上海より入荷してゐた華人工場製品の入荷杜絶せるため外人工場製品取扱ひに乘換へ殊に天津に在る外國人工場(わが東亞煙草及び順中、正昌、協和等)製品の販賣に全力を注いでゐる。一時輿地との交通杜絶のため多數の滞貨を擁して悲觀してゐた業者も十一月以來津浦、京綏、京漢三鐵

路の一般運轉開始さるゝに至りまた鐵路沿線外の輿地との交通も漸次回復途上にあるので營業状態は愈々好轉しつつある。

業 煙 草 業

事變前||卷煙草業とは別個に一同業公會を組織してをり同業者四十四軒(全部華街)資本金は最高三千元四、千円前後二十三、五百元前後十七。この内卸商七軒あり、奉天、河南、山東、上海等より煙葉及び水煙管用の青絲等を買付け、天津各卷煙草製造業者をはじめ小賣商ならびに西北各省に賣捌いてゐる。小賣業者は三十七軒あるが近年卷煙草に壓されて葉煙草のみでは營業を續くること困難なので卷煙草及び兌換業も兼營してゐる。

事變後||事件當時は全部一時休業し卸商はその後輿地の買付け困難のため唯在庫品のみで營業を續け小賣商は事變の影響も殆どなく副業の兌換とともにすでに略ぼ事變前の状態に立返つてゐる。

麻 袋 業

事變前||同業者五十九軒(佛租界九、華街及び特別區五十)資本金は最大五萬元四、二萬元二十二、他は千元前後。天津に於ける本品の需要は極めて多く、大問屋の永利、

信義公等は上海に分店を設けて國內及び印度の麻袋仕入に當り、また女工を備つて古麻袋の修繕をも行つてゐる。主なる顧客は鹽問屋及び雜穀仲介問屋で各工場及び倉庫業者これに次いでゐる。同業者全部が卸兼小賣商である。

事變後||天津事件當初華街の營業者は狼狽しストック品を租界に搬入したためその運賃のみで千元近く損したがその後軍用として續々買はれたため兩三日中にこの損失を取戻し爾後上海からの入荷杜絶により市價騰貴、一面天津の洪水懸念で需要益々増大し多大なる収益を挙げた。目下ストック激減してゐるが、上海方面からの入荷望まれぬため仕入方法に弱つてゐる。

糖 業

事變前||同業者七軒(全部華街に在り)そのうち永利、東發兩蔗莊は資本五千元前後、他の五軒は五百—千元の資本に過ぎない。本品の産地は保定東方安新縣王口鎮、勝芳鎮などで白洋淀の蘆葦を農作の暇に採取してアンペラ、糖等に編むもので主要なる農村副業となつてゐる。製品の全部が河川によつて天津に運ばれ、本業者の手によつて市内外倉庫、同業者に賣捌かるゝとともに青島、

煙臺、大連、營口等に移出され、年營業額五十萬元に達してゐた、取引シーズンは春秋二季で、今春移出先との決済は端午節で大體済んでゐた。

事變後||今次事變による休業(約二週間)も大して苦痛でなく、秋のシーズンに入つて保定方面の急速なる平定を見たので出廻は問題なくなつたが、從來の移出先たる青島、煙臺との交通杜絶の状態であり、また當地各倉庫が不振のためこの方面の取引激減してゐる。たゞ軍需方面に多量買はれてゐるため幾分これをカバーしてゐるが、事變以來の缺損は二千元程度と稱されてゐる。

染 料 業

事變前||同業者七十一軒(うち英佛租界に十三)營業者は山西人最も多く五十六軒に達し、天津人經營十三、浙江人經營二で、その資本は五萬元程度十二、一萬元二十四、三—四千元三十五である。取扱品は硫化黒を主とし徳孚、南星、卜内門、伊立登等各外商洋行の獨逸品が最も多く日本品がこれに次いでゐる。卸商は右洋行筋より仕入れ市内小賣店及び山西を主とし西北各省に賣捌いてゐるがその外に萬泰恒(天津人經營)は合肥化學工廠を兼營して配合及び包装を行つてをり、徳生號は和記洋行

を兼營して洋針をも取扱つてゐる。

事變後天津事件當時同業の直接損害はなかつたが他の各業と同様約一箇月休業、再開後卸商は最大の顧客たる山西からの註文全く杜絶し、其の他奥地への荷動きなきため僅に市内捌のみによつて維持する状態にあり、小賣商も市内各染工場が舊態に復しないので閑散裡に越年、同業者全部が缺損しその額五萬元に上るものと見られてゐる。尙ほ謙和、徳生兩卸問屋は事件後華街から佛租界に移轉した。

木 材 業

事變前同業者三十一軒(伊太利租界一帶に二十九、南馬路に二)。資本金は十萬元以上五、五萬—八萬元二十、爾餘の六軒は二萬元程度である。各木行とも三六年以來の北支建築景氣が三七年に入り益々沸騰したため需要に應じきれぬ程の盛況で相場も奔騰し六月頃は在荷僅少となり仕入に大童になつてゐる際事變勃發。

事變後次いで天津事件に遭ひ、約二週間休業したが、その後軍事建築物多く木材需要急激に増加し、偶々輸入された米材も高値で飛ぶやうに賣れ却つて暴利を博した。しかしその後は入荷僅少なるため半休業状態で時機

一部に過ぎず大部分は手付金がフイになつた形でその損害約六萬元に上る。尙華街の成興茶莊は事變後佛租界に移轉した。

竹 質 業

事變前同業者二十八軒(全部華街)この内問屋は永盛、天昌二軒で資本金各二萬元、他は資本千元前後の小賣商のみ。取扱品は竹竿、竹籠、棕皮、杉皮等で南支同業者と連絡してこれを仕入れ、顧客の大半は民船である。

事變後天津事件は本業のシーズン最中に起つたため打撃甚だしく殊に特二區の卸商天昌は建物、商品全部焼失の厄に遭ひ全損害一萬元を越え他の各店も何れも火練下に在つて直接損害甚だしく建物約六千元、商品約八千元計一萬四千元の損害である。各店とも仲秋明け後それぞれ整理の上再開したがすでにシーズン外であり民船の航行も少ないので營業極度に寂れ、目下竹籠、棕皮等の賣行はつゞありその収入のみで維持してをり、事件以來の缺損三萬元に上る見込。全く閉店したものはないが舊正までに破産者を出すものと見られてゐる。

魚 店

事變前同業者四十三軒。この内金鋼橋一帶にある十

待ちの形である。尙木材は従來米國物を大宗とし福州、及び滿洲國からの輸入がこれに次いでゐたが、當分福州ものゝ移入が期待されぬので米材の獨占市場を續けるものと見られてゐる。

茶 業

事變前同業者五十一軒。市内各所に散在し、資本金は十五萬元二、一萬—五萬元九、二千—六千元二十三、千元以下十七軒。その内卸専門十三、卸小賣十二、仲買十、小賣十六。著名なる茶莊は卸商に永順興、源豐和、益聚、敬記があり卸兼小賣に正興徳、泉祥鴻、元興、仲買商に慶裕、元裕がある。茶葉の仕入れは毎年穀雨節(四月二十日頃)後中南支の産地にて買付を始め仲秋までに四、五十萬箱を仕入れこれを北支各省に賣捌くもので年營業高總額約五、六百萬元に達してゐた。

事變後天津事件により全店約一箇月休業したが佛租界内の正興徳、泉祥鴻、元興三分店は休業せず却つて稀有の賣上をなし華街本店の損失も取戻したが租界内に分店を有しない各店の休業中の損失は約一萬元に達した。その後小賣商は漸次回復しつゝあるが卸商は奥地への荷捌きが少なくまた契約荷で海運杜絶前に到着したものは

五軒は仲買業者で資本金千元乃至三千元、他の二十八軒は英佛伊三租界市場内に在る小賣店で資本は二百—五百元程度に過ぎない。この外に市内販賣人が約四百人ある。魚類は芝罘、大連からと御河沿岸から仕入れられてゐた。

事變後天津事件發生ともにも小沽との航運杜絶、また御河一帯も戦場と化したため入荷全くなく全店休業の已むなきに至つたが需要極めて旺盛なるため一部魚店には白河及び附近の平和地域に網を入れて僅かながら需要に應じ九月に入り全店開業したものの、不運にも塘沽及び市内にコレラ猖獗により當局から、魚類の禁食を告示されたため折角入荷したのも原價を割つて賣放つたの已むなきに至りまた仲買商(卸)は販賣人の逃散により、事變前それに貸付けたものが回収不能に陥りこれら營業上の全損害約二萬五千元の見込。現在では魚類の需要も減じたので殆ど過息状態で春以後の需要季のみを期待してゐる。

海産物(乾物)業

事變前同業者三十軒(この内英佛租界市場内に一六、華街に十四)資本金は最高二十萬元一、十萬元程度五、一、二萬元十一、他の十三軒は五千元前後。卸兼小賣はこの

うち四軒他は全部小賣商である。卸問屋は日本に仕入店を有し、隆昌海味店の如きは年百萬元近くの大量取引をしてをり、他の卸商も二十萬元以上の取引あり天津商業界に於いて輸入方面では綿糸布問屋とも重要な地位を占めてゐる。

事後II天津事件の影響は租界内の店には殆どなかつたが華街に在る店は約一箇月間休業し仲秋直前漸く再開した。その後市面漸次恢復し小賣方面の營業は恢復の途上にあるが、卸問屋は奥地各省の購買力が激減したまゝ仲々恢復しないため開店休業に等しく、既貸付金の回收不能も多く本業者全部の事變による間接的損害は約十萬元に達する見込。

薑(生姜)業

事前II調味料及び薬用として需要多き薑(生姜)を取扱ふ店で同業者九軒(全部華街)その資本金は五萬元二、三萬元四、一萬元三。このうち華昌、萬有の二店は漢口に仕入店を設けて直接仕入もしてをり、また各店とも桐油、青絲水煙、人絹等を兼業してゐる。

事後II今次事變によつて奥地販路及び仕入元との交通断絶せるため打撃甚だしく、華昌薑莊は佛租界に移轉

殆ど影響なかつたが、九月シーズンに入り戦火は京綏沿線はじめ各地に愈々進展し腸類の出廻り杜絶せるため十一月も全部休業、十二月に入り河北省各縣から少量の出廻りを見るに至つてゐるが運賃高にて輸出採算とれず外人業者は開店休業の状態にあり、華人業者も未だに八割方の休業で、すでに公記、和記、福記三腸廠は閉鎖した。華人同業者の事變以來の缺損約五千元と見られてゐる。

酒 業

事前II同業者六十四軒(この内租界内十一)その資本金は六萬元十五、四萬元十八、一萬元三十一で、全部醸造及び卸賣である。各店とも十餘人の職人を醸造廠に使用(賃銀月十五元程度)白乾酒、五加皮酒、玫瑰露酒、冬菜など毎月各五百斤程度を産出し販路は北支各省の外福建、廣東等にも移出してゐる。三十七年上半期は原料高粱の相場廉かつたため製産量も多く利益多かつた。

事後II天津事件以來二箇月全店休業、十月再開後の市内需要は極めて少なく、さらに高粱の昂騰により醸造も不利、海運杜絶のため南支への輸出も不可能となり原材料の山積に各店とも醸造を中止、職入を解雇し既製品の賣上によつ維持してをり、十二月迄の缺損約六萬元

して市内及び附近との取引に稍活路を見出してゐるが、他の八軒は今尚休業状態にあり、全缺損約五萬元に達する。

腸 業

事前II毎年天津港に於ける動物の腸輸出は約六十萬元に達し、仕向地は米國及び伊太利を始め各國で、在津歐米商社筋の業者は、米人の興泰、白蘭、獨逸人の禮和、德華、伊太利人の義華、瑞士人の善成等六腸廠あり、邦人にも中國物産公司があり、これらの各腸廠は華人の腸廠で水洗したものも鹽漬にして送荷するものである。事件前華人の同業者は二十四軒(特三區大王莊二十、伊太利租界四)資本は三、四千元十五、二百元程度九、取扱品中最も多いのは羊腸で豚、牛の腸も取扱ふ。各店ともこれらの買付けのため秋及び冬の二季京綏鐵路沿線及び河南、山東に店員を派して買付け、天津にて水洗、乾燥せしめた後外人腸廠に賣付けるのであるが、腸の洗滌には臭氣甚しく且つその乾燥に廣大なる地所を必要とするので大王莊一帶の人家少なきところに集中してゐるわけその資本と云ふも土地の出資が多い。

事後II今次事變勃發當初はシーズン外であつたため

の見込。

茶菓子店

事前II菓子、果物其の他贈答用食糧品の販賣をなす店で同業者六十軒であるが南方式と北方式の二種に分けられ、南方式のものは肉製品、酒及び蔬菜、魚製品も取扱ひ、それは江蘇、浙江人の經營する稻香村、南味坊、冠生園等二十六軒で殆ど租界内に在り、北方式のものは北支人の經營で京式菓子を主とし祥德齋、厚德福、漢宮秋、交通等をはじめ三十四軒で、日佛租界に九軒ある外は全部華街にて營業してゐる。資本金は南方式のものは殆ど二千元前後、北方式のものは五千元六、千元十二、五百元前後十六。同業者全部が小賣商である。

事後II天津事件により直接損害甚しかつたのは祥德齋で、建物は砲弾に破壊され商品亦掠奪に遭ひ損害四千元に達しその他華街各所に在つたものはそれより損害を蒙つてをり直接損害約七千元に上つてゐる。一方租界内に在る店は租界内の人口激増と食糧品缺乏により營業状態は却つて良好となり、さらに仲秋節を迎へて例年通りの利益を擧げた。華街各店は事件後三週間乃至一箇月を経て全部再開したが居住者の減少により需要亦少なく不

振のまゝ越年、この間の缺損約六千元と推定されてゐる。

料理店

事變前||事件前の同業者七十軒(うち租界内二十四)で資本の大小によつて飯莊、飯館、飯舖の三種に分たれ、飯莊は佛租界登瀛樓、日租界東興樓、南市の全業館等十軒に及び資本各二萬元程度。飯館は四、五千元の資本で華街に多く、またこれは宗教の關係で回教館と漢教館に分れてゐる。飯舖は二百―四百元程度の資本を有する下流飯屋である。

事變後||天津事件發生により飯舖は東站附近をはじめ各所で直接損害約五百元、飯莊、飯館には損害なかつたが一時全部休業し、租界内のもは數日後それ〴〵再開。華街の業者も約三週後再開した。その後飯莊の營業狀態は租界内のもは大して寂れてはゐないが華街のもは極めて悪く飯館は南市方面のものが八軒閉店した外は概して良好、飯舖は事件前と變りない。事件以來全同業者の缺損は約一萬元程度である(殆ど飯莊のみ)。

紙 業

事變前||事件前の同業者五十七軒(佛租界に八軒あるを除き他は全部華街)この内成記、英華、福英等資本五

各書局等の資本は各一、二萬元で、他は天津及び南宮、冀縣人の經營するもので資本金五百―千元程度のもが多い。同業全部が小賣であるが、上海に本店を有する五軒は卸商を兼ね書籍を主とし文具は少數を備ふるのみである。他の二十八軒は小賣のみで文具を主たる營業として小説本類販賣を従とする。商品のうち書籍は殆ど上海から、文房具類は紙は上海から移入するが、鉛筆、ペン軸、インク、墨、臘紙等は天津に小規模の工場もあり、高級品は日本商社筋から紙屋を経て仕入れてゐる。

事變後||天津事件當時より華街の同業者は全部一箇月前後休業、その後商務印書館は東馬路支店の營業全部を佛租界梨棧支店に移し十一月中旬此處を閉鎖し、東馬路大衆書局も佛租界に分店を新設して營業の主體を分店に移した、新雜誌のみを取扱つてゐた佛租界の黎明書店は上海との連絡困難と新刊出版が激減したため閉鎖するに至つた。九月以後文具類の賣行は大體舊狀に復してゐるが書籍類に教科書は上海から入荷なきため専門取扱ひの中華、大衆兩書局の打撃甚しくさらに新政權の教科書改訂出版物統制等今後著々實施されんとしてゐるので今後本業の興衰變遷は當然起るべく約束づけられてゐる。事

萬元程度のもの十軒及び一萬元程度の三軒が卸小賣を兼ね、純小賣は四十四軒。取扱商品は支那紙、洋紙、新聞紙等の外蠟燭、紙錢、錫箔等も兼賣してゐる。支那紙は江蘇、浙江等から、洋紙類は市内各洋行筋から購入し市内外及び北支各省に向けてゐたが、昭和十年頃までは排日貨氣勢旺盛のため日本紙を主として取扱つてゐた成記、春記などは大なる影響を受け、殊に後者は破産に瀕したことからあり同業者殆んど氣息奄々たるものであつたが冀察政權成立後日本紙の進出著しく奥地購買力の恢復とともに漸次好況に向ひつゝあつた。

事變後||今次天津事件に遭ひ殆ど休業の已むなきに至り、中秋後再開してはゐるが奥地向荷動き杜絶、市内需要も微々たるもので經費にも足らず唯維持しをるに過ぎない狀態で舊正までには閉店者を見る模様である。下半年中の缺損額は一箇月半の休業中の支出が大半を占めるが合計約三萬元に達する見込。尙文興紙莊は十月華街の店舗を引拂ひ英租界に移轉した。

書籍・文具店

事變前||事件前の同業者三十三軒(うち租界内十二)この内本店を上海に有する商務印書館、中華、大東、大衆

件以來本業者の缺損は約三萬元に達する。

自 轉 車 業

事變前||天津華商間に本業が盛んになつてから僅々十年の歴史に過ぎないが事件前の同業者は百軒に達し、この内卸商は十軒ありそのうち五軒は旋盤及び部分品等の製造工場を兼營してゐる。資本金は各五千元程度で山西、陝西方面を大なる賣込先としてゐた。小賣及び修理兼業店は約九十軒でその資本は三百―一千元程度である。取扱品は日本品が最も多く獨逸及び英國品も一部取扱つてゐる。

事變後||天津事件當時東馬路一帯が火線下に置かれたため同方面に多い本業の店舗は大損害を蒙りその直接被害額建物六千元、商品(掠奪による)四千元、合計一萬元と云はれてゐる。華街同業者は事件以來全部一箇月餘休業、小賣店二十八軒はそのまゝ閉店し再開したものも修理のみで新車の賣行は極めて少なく殊に卸商は奥地の需要殆ど全滅狀態にあるので開店休業に等しく全業者の間接損害は約五萬元の見込。

自動車運搬業

事變前||同業者五十軒(各租界に十)その資本金は最高

天津華人猪棧(豚宿)

商號	所在地	經營者	資本	設立	取扱高	仕入地	販賣
寶聚恒	西千莊	杜紹甫	1,000元	民國六年	5,000頭	容興、定興、河間、遷安	天津市
振合棧	同	喬振海	1,000元	同	6,000頭	定興、易縣	同
李記棧	同	李順興	1,000元	同	10,000頭	保定、定興、徐水、東州、西近鄉	同
茂順湧	同	王慧卿	1,000元	同	10,000頭	保定、定興、容城、西河、保定、容城、津東	同
順興湧	同	李順有	500元	同	9,000頭	容城、保定	同
明泉永	同	明順泉	500元	同	6,000頭	保定	同
聚源恒	同	王雲庭	1,000元	同	10,000頭	保定	同
天龍棧	同	王愛廣	400元	同	10,000頭	保定	同
同義成	同	王致和	800元	同	4,000頭	保定、城興、河間	同
和順成	同	閻惠吉	500元	同	2,000頭	保定	同
利源昌	同	閻達	1,000元	同	7,000頭	保定	同
萬和順	同	韓連合	1,000元	同	不定	保定	同
福發同	同	方發	500元	同	不定	保定	同
東興同	同	李豐	1,000元	同	不定	保定	同
集盛同	同	劉萬豐	1,000元	同	不定	保定	同
三和永	同	劉俊卿	1,000元	同	不定	保定	同
永源祥	同	陳富源	1,000元	同	不定	保定	同

(註) 滿鐵前揚書による。

華人商店開業狀態 天津特別市公署に於ては事變後
 中絶してゐた華人商店の開業届出事務を二月以來開始
 してゐるが七月中の商店開業状況は開店二二八軒、五、
 六、七月三箇月の増減比較をなすに六月の一九七軒に比
 し三十一軒増、五月の一七九軒に比し四九軒増で七月の
 開増漸増は市況の繁榮の徴あり人心安定せる結果と見ら
 れる。

開店區域別に見るに

一、南市一帯	四一軒
二、北馬路東方面	二九軒
三、特一區	二六軒
四、東馬路及大胡同	二四軒
五、河北大經路方面	二二軒
六、西關外一帯	一八軒
七、北門内外及北馬路一帯	一六軒
八、西門内外及南馬路西	一二軒
九、河北大街三條石及北營門一帯	九軒
一〇、大直沽及小劉莊一帯	九軒
一一、西窯窪及小王莊西沽一帯	七軒
一二、小關大街	五軒

一三、特別二區
 一四、特別三區
 一五、其他
 である。此内資金一千元以上のものを上げれば次の如
 し。

業名	商號	資金	店主名	場所
雜穀	益豐號	(二千元)	張墨亭	道八號
海産物	仁泰號	(千元)	楊春甫	針市街潮義
土膏	鴻興號	(二千元)	劉手辰	南馬路東南
綿花	慶記號	(千元)	賈錫宸	角金家胡同
鐵	裕興泰	(三千元)	陳洵青	竹竿巷二九
綢緞莊	正華綢緞支店	(三千元)	齊玉煉	宮北大街六
石炭	義和公仲	(二千元)	趙維玉	二道街一三
飯莊	福聚成	(二千元)	許子筠	小郭莊五
印刷	福星印刷局	(二千元)	溫相臣	慎益大街一
旅館	正記文華賓館	(二千元)	于和軒	福神街九號
五金行	永利商行	(二千元)	辛蘭泉	大胡同新關
絨氈工場	恒記工廠	(一千元)	魏漢臣	道二九

錢舖 開春祥裕記(一萬元) 趙錦秀 洋貨街一五
 材 志成板廠(二千五百元) 宋紹坡 河沿大街
 藥舖 同達堂(一千元) 張敬齋 大經路元緯
 洋雜貨 義盛號(二千五百元) 黃玉誠 北馬路獅子
 洗製白棉 廣順製棉(二千五百元) 邵健德 西關外大街
 染物 瑞興染坊(一千元) 董振江 民豐街三二
 雜貨 隆和號(一千元) 徐少洲 洋貨街一六
 織物工業 織雲工廠(一千元) 張曜堂 龍亭張家胡
 果實菓子 祥順興(二千五百元) 金夢周 針市街同義
 里一號

次に閉店せるものは二十二軒で内特一區の六軒が最高
 であり五月に比し十四軒増、六月に比し五軒増となつて
 ゐるが營業不振に依る閉店が主である。

天津市商會 久しく紛糾中であつたが昨年三月漸く解
 決し新任執行委員十五名の選舉も行はれた。

天津市の商業公會 事變後天津における邦商の活躍に
 對應し華商の發展も相當なものであるがこの證左として
 は同業公會(組合)が著しく増加してゐる。すなはち七月
 末現在の同業公會数は七十八で事變前の約二割増に達し
 組合員も二百五十餘名の激増振りである。この同業組合

乾鮮菓品業公會 孫東園 估衣街歸買胡同
 雜貨糖業公會 孫越橋 北門外樂道洞寬達
 菓業公會(生姜・南) 王玉林 針市街萬有棧房內
 紙業公會 程岳備 東門南春肥內
 皮貨業公會(毛皮) 劉馨園 英租界廣東路三二
 海貨業公會(海產物) 董鳳儀 估衣街五彩號悅來
 棧內
 繩麻業公會 路琴軒 同右
 自行車業公會(自轉車) 殷寶光 同右
 木業公會 張貫鄉 同右
 洋廣貨業公會(日本雜貨) 宋雨三 宮北白衣巷內
 門市布業公會(布類小賣) 王雲章 宮北白衣巷內
 鞋業公會(靴) 徐振東 右同
 帽業公會 谷寶山 右同
 織染業公會(人絹染織) 巴崙泉 北門東白衣巷胡同
 中間
 地毯業公會(絨・緞) 李懷仁 右同
 灰煤業公會(石炭・木) 韓桂林 特二區新貨廠內
 染業公會(染・屋) 杜筱琴 城內二道街市立五
 十一小學內
 皮革業公會 王健 三條石東頭高陽會
 館內
 腸業公會(腸衣) 郭麗泉 大王莊善成洋行內

中大組合織染業公會の五七七人、猪肉公會の二六三人、
 族棧會の二三八人で棉業公會は八二人、皮革業公會一〇
 九人、石炭販賣業公會一八〇人、錢業公會四七人、銀行
 業公會は二〇人である。二月現在天津特別市總商會に加
 盟する同業公會は七七を計上し次の如くである。

天津市同業公會一覽(昭和十三年二月現在)

名	稱	主 席	所 在 地
銀行業公會		王毅靈	佛租界新華大樓內
錢業公會		范雅林	北門內大街
網布紗業公會(絹布綿)		紀衛階	北門內大街
金銀首飾業公會		蕭如川	北門內大街
典業公會(大質屋)		祁雲五	北門東商會旁
保險業公會		劉文星	佛租界中街太平公 司內
房產業公會(土地建物)		趙聘卿	特三區慈善聯合會 內
棉業公會		張秀峯	日租界四面鐘後 內
捲菸業公會(卷煙草)		王文典	佛租界勃海大樓內
閩粵雜貨業公會(南支雜貨)		王澤漢	針市街
探辦批發業公會		邱玉堂	南斜街水口胡同
五金業公會		傅祝三	佛租界金城貨棧內
米業公會		孫水如	南門外沈家臺
三津磨房業公會(食料小賣)			

藥業公會(漢藥) 侯博平 東馬路六吉公廬內
 菸業公會(葉煙草) 褚範生 西門外魁升棧內
 酒業公會 王蔭棠 望海樓四條胡同
 線類公會(小間物) 李棟臣 鼓樓西九道灣胡同
 茶業公會 劉潤生 北門外紫陽觀旁
 廣皂化粧品公會(化粧品製造) 吳懋齋 右同
 貨棧公會(倉庫) 常鈞 特三區公慶成後
 轉運業公會(輸送) 劉瑞符 特二區隆順棧後
 旅棧公會(旅館) 張竹生 河北大街全義棧內
 報關公會(通關) 商國平 大連碼頭
 南紙書業公會(書籍・紙) 臧殿宸 北門東中華書局內
 油漆顏料公會(塗料) 蔚子豐 北門東裕昌棧內
 汽水業公會(清涼飲) 徐新民 四馬路北頭新明汽
 水廠內
 糖果業公會 趙漢池 河北大街老茂生內
 飯館業公會(料理店) 張起山 南市東萊飯莊內
 戲園業公會(遊藝場) 齊文軒 南市群英前
 醫藥業公會(調味料) 張柱臣 大舞臺東
 膠皮車公會(人力車) 李鳳舞 (右同)
 糕點業公會(菓子製造) 富煥卿 東南角天一香內
 藥業公會 吳鳳立 東洋橋下城

- 磁業公會 蔣蘭亭 大口華北磁廠內
- 眼鏡公會 王春軒 估衣街老玉明齋
- 漆塘公會(浴場) 鄒卜五 南市玉清池內
- 電料公會(電氣材料) 丁茂川 東北角開明電料行
- 猪肉公會(豚肉) 姜華庭 侯家後肉市前
- 玻璃鏡業公會(板硝子) 于慶軒 北馬路裕昌棧內
- 西藥業公會(洋藥) 張伯麟 估衣街華美藥房內
- 衣業公會(古衣) 溫學勛 范店胡同
- 輪船業公會(船舶) 王金堂 佛租界大陸大樓西
- 汽車公會(自動車) 朱昌榮 大舞臺東
- 炭業公會(木炭) 李少棠 堤頭協昌炭店
- 報館公會(新聞) 董秋圃 午報館內
- 肥料公會 河東姚家臺鴻新巷
- 質業公會(小質屋) 王子壽 估衣街山西會館
- 油業公會(植物油) 王子明 茶店口金華園
- 竹藤植木公會 李心齋 河北大街永盛號
- 機器漂染公會(機械染) 曹典環 特二區華綸染染工廠
- 度量衡器公會 劉子忠 河北大街集義棧
- 婚喪貨公會 盧海峯 南市大舞臺東
- 水業公會(水運搬) 高海清 特二區平安街
- 照像材料公會(寫真材料) 程竹珊 東門外春記紙莊

批發鋼鐵公會(吳服物卸) 雷廉臣 估衣街瑞林祥胡同
 料器公會(硝子瓶) 崔子紳 南市首善大街天然
 教育文具公會 程壽先 北門東萬家胡同
 印刷公會 張育菴 南市協成印刷局
 (註一) 三津とは天津の代名詞、天津は北河、西河、御河の吉流馬なるためこの名あり。

天津外國側商賣狀況 外人の商店は概して單獨經營のもの多く百萬圓以上のものは僅少で最近外國商店側はやもすれば日本商人の進出に蠶食されがちで氣勢があがらず殊に事變後その傾向は多い。これら外人經營商社の大部分は輸出入商で近來海外における支那製品の需要減退と支那購買力の衰退とはこれら商店に大ショックを與へ従つて邦商および華商は天津在住外商を壓迫せんとする傾向にあつたところへ今事變の勃發を見たもので外商はいよいよ經營難に陥りまたは破産、引揚を見るものもすくなくはない。

金融機關としての外國銀行は十四行あり米國系が最も多く英、佛系これに次ぐ。(詳細は金融の項参照)これらを通じて永年にわたる資本投下と政治的勢力とにより確乎たる商權を保持してゐた英國商社も最近日本の政治的勢力の伸張、延いては商業勢力の發展に驅逐され後退の

市と稱するを妥當とされてゐる。

青島

北支隨一の良港として對外貿易盛んに行はれ大正十年以來年々一千萬兩の増率を示し省内産落花生、棉花、石炭、葉煙草、綿糸、牛内、鹽、鷄卵等を日、英、獨、佛、伊等へ輸出する外支那内地へも移出し重要輸移入品としては綿布、綿糸、棉花、鐵および鋼、木材、紡績機械、石油、砂糖、海産物等が挙げられ日、英、米、上海、香港等にこれを仰いで來た。その商圏は山東全省、河北省南部、津浦沿線、河南省北部におよび商品流通は膠濟、津浦の兩線を主脈とし黃河、大運河、小清河の各水運がこれをたすけてゐる。今事變により青島邦人の損害總額は二億七八千萬圓の巨大な數字にのぼるものと見られ加ふるにその總引揚により青島商業界が發展を阻害されたところは一通りではない。治安回復と共に邦人の歸還を迎へ六月初旬領事館警察の調査による邦人實情は大要次の如くである。

職業別日本人大要

人

口

山東省

在支權益の項参照

北支における外國商社

現状にありその挽回に汲々たるものあり、近年殊に日英兩國製品の北支市場における對立ははなはだしく激化し特に冀東貿易に對する英國の防遏手段は支那側稅關當局との共同戰線に立ち國際或は對内問題としあらゆる手段を構じて來た。しかし事變後ことに大勢に抗し難く北支市場から英商および英國商品の委は逐日その影を没しつゝあり天津英商は經營困難となつて來つゝある。その他外商としては獨の機械製品類その他、米の棉糸布、果實等の貿易商があるが見るべきものは乏しい。

山東省は河北省と共に北支で最も早く列國商業資本の洗禮を浴び省内自給自足的生産體系は早くから資本主義的生産體制の下に編成替へされその結果として一般産物に至るまで國際的商品として登場せしめられた。省内に青島、龍口、芝罘、威海衛の諸港があるが省内産業の中心地は青島であつて商業都市と云ふよりむしろ工業都

戸	銀行、會社、商店員	三、一八九
小	飲食店、小賣店	一、二九四
飲	飲食店	四六
旅	旅館	一三三
理	理髮店	三三
雜	雜貨店	三四
質	質屋	一二〇
古	古物屋	二八
鐵	鐵道從業員	一〇八
運	運輸員	五六
藥	藥種	二四
官	官吏	一四五
其	其他	一四五

なほ同警察が新渡航邦人の參考に資するために掲げた事項の概要は左の如くである。

邦人の從事し得る職業 小資本による職業は生活程度低き支那人と競争し得ず、商業方面では將來支那人を顧客にすべく販路を擴張せば相當有望と思はれる。

將來の發展性 奥地に未開の寶庫あり北支の表支關たる青島の將來は洋々たるものがある奥地に通ずる鐵道その他の交通機關の完壁を期するとともに新事業家の渡來を要望しをる現状にて工業地としても貿易港としても最

廣島縣産業獎勵館、神奈川縣、東京市、島根縣なほ英、米、獨の三商業會議所があるが何れも在留民が少いたため積極的事業は行はず一の社交機關程度に過ぎぬ。

青島棉花協會設立 山東棉花の開發と農民の福祉とを圖る目的の青島棉花協會は元青島落綿輸出組合を主體と江商、東棉、伊藤忠その他棉花輸出業者が打つて一九二〇年六月設立された。

東賣の青島進出 天井知らずの物價昂騰に對し青島居留邦人が物價の基準を求めいはゆる青島値段の根柢からの改訂を望み白木屋、高島屋などの青島進出が傳へられつゝあつた折柄内地資本進出の魁として東賣の青島進出が具體化した。すなはち現在東賣系資本にかゝる山東路國際劇場の姉妹關係に基く「國際マーケット」の出現で資本金百萬圓(五十萬圓拂込)の株式會社とし白木屋設計者たる石本建築部山本辰次郎氏を聘して差當り十五萬圓の工事費により設計を進めてゐるものでフランによれば一階が市民の臺所(食料品、雜貨賣場)二階が日用品雜貨部で三階には軍人俱樂部、市民俱樂部食堂を設け四階をバルコニーとして子供の遊戯場に充てる一方婦人社交室の開放、結婚式場の設備、東郷神社の建立、展望臺設

有望、支那人は淳朴濃厚大陸的勞働者として好適、人情語學を解しこれ等を使役しての新事業は成功の可能性十分である。

支那側に青島市商會および商品陳列館、日本側に商工會議所その他がある。その他金融機關としては日本側に正金、朝鮮各銀行、支那側には中國、交通、中央、山左、大陸、浙江興業、農工、上海商業貯蓄、大中國、國華、鹽業、金城、中魯、中國實業の十四行、外國側には滙豐、チャータード、德華の二行がある。この他日本側に青島居留民團金融部、青島金融組合、支那側の錢莊がある。

青島における商工並に貿易斡旋機關

- 青島日本人商工會議所 館陶路一六號
- 青島市商會(支那側商業會議所) 青島取引上樓上
- 大阪府立貿易館分館 廣西路九號
- 大連市貿易調査所 同
- 大連商工會議所駐在員 朝鮮銀行樓上
- 愛知縣商工獎勵館分館 保定路
- 設立計畫あるもの

濟南

置などが擧げられてゐる。十月十日から青島吉村工務事務所が工事に着手完成は本年十一月末、營業開始は十二月の豫定である。

青島との連繫によつて内地買辦都市として發展せるものであつて青島貿易の半ば以上はこの市場で吞吐されて來た。今事變によつて從前在住邦人苦心經營の商團は跡かたもなく蹂躪されたため事變後濟南商業界は新たな出發をなさねばならなかつた。しかし濟南の將來性は單に商業的のみでなく南北支那を結ぶ津浦線と本邦經濟力注入路膠濟線のクロス點として、政治的、經濟的にも河南、江蘇兩方面に對する邦人發展の據點として重要づけられてゐる七月二十日現在の邦人營業戶數は六百五十二、最近新たに進出したものに東京府商工獎勵館濟南出張所、ジャパンツーリスト、ビュロー出張所、鐘紡、東洋紡、豊田紡、磐城セメント、棉花プレス業その他がある。

- 濟南における商工並貿易斡旋機關
- 濟南日本商會議所 埠二大馬路
- 東京府立商工獎勵館出張所 同右所内

高封度位の餘利分は許可を得て省外へ移出しうる管である。而して羊毛買付は同工場内に購買本部を置き主要産地たる榆次、壽陽、忻縣、太谷、臨汾、平遙、新絳、曲沃、清源、交城、文水、孝義、定襄等に購買所を設け従來の支那人問屋を動員し特務機關指定の價格を以て購入する。この外購買巡回員を常置し羊毛の取扱その他品種改良に就き農民を指導せしめる。また工場は經營による利潤を以て羊種改良に充て太原市外に模範飼育場、靜樂、安津に種畜場を設置し羊種改良を奨励することになつてゐる。

一、皮革II皮革も現地における軍需品の自給を目的とし軍管理第十七工場をして統制買付け製造を行はしめる。

總務抗日軍に經濟封鎖 太原特務機關では未だに省内の治安擾亂に努めつゝある抗日軍蟄居の地域に對し七月二十日から經濟封鎖を斷行し同日以後わが軍の占領地域内において物品を購入しまたは他地方へ搬出せんとするものは新政權に忠實なりと認めらるゝ、領長の證明を必要とし軍需關係物品の占據地外への搬出は一切嚴禁されまた一個人(一商店)に一回に販賣する日用品の數量は左の

如く制限されてゐる。

小麥粉	五	袋
鹽	一	千
煙草	一	箱
火柴	一	斤
砂糖	一	斤
布	一	反

經濟開發狀況 省内の重要産業は軍管理の下にそれぞれ専門家が經營に當り「生産しつゝ戦争し長期消耗戰に即應するため」産業管理を行つてゐるが右は世界戰史上未曾有の企畫とされ蘇聯および米國の専門雜誌に紹介されて關係機關の研究題目となつてゐる。軍管理工場は七月末現在を以て四十に達してゐるがその大部分は閻錫山經營の官營工場であつた。

製粉工場II太原に二工場、榆次に一、祁縣に一、平遙に一、臨汾に一、太谷に一工場、合計七工場は既に何れも日東製粉に依つて操業し日産合計小麥粉二千餘袋に達し、各地わが軍の需要を十分に満すと共に一般支那住民にも供給して尙餘りある状態である。特に太原以南の工場は二月わが軍の南方作戦開始に當り管理員は之に従軍し軍の各地占領と共に各工場を接收數日を出でずして操

業を開始した。

紡績工場II太原に一、榆次に一、祁縣に一、新絳に二、計五工場があり紡績、東洋紡及び上海紡の手でそれら操業し目下新絳の二工場は一時操業停止の状態にあるが太原及び附近の三工場は事變前の數倍に上る製産高を示し軍隊用下着類の供給等は容易にこの製産品によつて解決されてゐる。特に太原城内の軍管理第一工場は舊廠廠寮を冒して山西に挺身した紡績技術員が凍りついた機械を苦心慘愴の末漸く動かし僅かな原料を利用して第一次三萬枚、第二次二萬枚の蒲團を作製して軍隊に納入し皇軍將士を零下二十度の酷寒から救つたことは特記すべき活躍であらう。

皮革工場II綿紡によつて太原に操業中の皮革工場では現在牛皮、羊皮を毎日計三千枚縫しつゝあり將來牧畜の開發と相俟つて逐次相當な供給を行ひ得るものと期待される。

石炭II現在わが方の手で接收採掘してゐるものは陽泉、壽陽、西山、孝義の四坑でこの外に未開始のものに東山、介休、洪洞の三坑がある。これらの採掘は何れも興中及び滿鐵が受託して從事しつゝある。冬季に入霜し

た軍隊の煖房用として急需のものであつただけに前述四炭坑は興中及滿鐵の決死的奮闘によつて舊廠中に採掘を開始して各方面に供給するに至り現在軍隊その他各工場の需要を満してゐる状態である。出炭量は現在輸送その他の關係上毎日一千噸足らずであるが將來は興中と滿鐵が全能力を擧げて採掘しても掘り盡される心配はない。尙目下やかましく云はれてゐる石炭液化に關しても山西北部の石炭はこれに最適當と云はれ正に山西省石炭は我國燃料問題解決のキイ・ポイントである。

製鐵所II陽泉に一、太原に一あり、大倉の手で經營され陽泉の第三工場は昨年十一月操業を開始爾來現在まで引續き日産二十噸を製鍊しつゝあり太原北門外の鍊鋼廠は閻錫山が二千萬元の巨費を投じて建設中未完成のまま、で事變に遭つたものである。

煉瓦工場II大倉が經營してゐる窯廠(煉瓦工場)はすでに操業に着手し耐火煉瓦及び普通煉瓦毎日二萬餘個も製造して本省各方面の建築需要に供給して餘りある。

セメント工場II太原郊外の西銘村にあり淺野セメントに依つて操業開始準備中であるが石灰の製造のみはすでに行はれてゐる。尙セメントに關して興味ある問題は本

省内に豊富な石膏の埋蔵を有する事である。太原附近のみで約十の石膏山があり前述のセメント工場ではその一個所の石膏を消化し得るのみであるから同工場の企業擴大と共に無盡のセメントが生産せられる譯である。
機寸工場 太原一、汾陽一、新絳一の三工場にて日産百萬餘箱に達し軍の需要は勿論省内の消費も十分に補ひ得てをり太原南關の煙草工場の製品も軍隊用煙草の餘剰を市中に販賣しつゝあり同じく太原の製紙工場も最近晝夜全運轉を開始し包装紙を生産してゐる。
發電所 各地に計九個工場あり我軍の入城後數日を出でずして發電し動力並に燈火用として各方面に供給してゐる。

この外現在準備中にて操業未開始のものに毛織工場、印刷工場、自動車修理工場、電化廠、火薬工場(以上太原)製紙工場(蘭村)の外前述の煉鋼廠も近く操業開始の豫定であり全部運轉を開始した曉にはあらゆる製造工業を網羅することとなる。而して閻錫山が企圖した自給自足經濟をそのまま復活せしめて之を利用、擴充し得るのみならず前記鑛産資源の開発と將來行はるべき農業並びに林業の改造とによつて、省内の物資を潤澤ならしむるのみ

- 華興煤礦公司 (考義)
- 晉興煤礦公司 (洪潤)
- 大谷電燈公司 (大谷)
- △大倉
- 保晉鐵廠 (陽泉)
- 西北煉鋼廠 (太原)
- △鐘紡
- 晉生織染工廠 (太原)
- 太原毛織廠 (同)
- 西北皮革廠 (同)
- 西北電化廠 (同)
- △日東製粉
- 新記電燈附屬麵粉工場 (太原)
- 晉豐麵粉公司 (同)
- 魏榆麵粉公司 (榆次)
- 晉生麵粉公司 (平遙)
- 晉益麵粉公司 (臨汾)
- △上海海紡
- 晉華紡織祁縣織染廠 (祁縣)
- 大益成紡織公司 (新絳)
- 雍裕紡織公司 (同)

ならず省外各方面への供給も圓滑となるわけである。
軍管理工場懇話會 豫備陸軍少將武司於堯二氏を委員長に日東製粉、興中公司、鐘紡、豐田自動車、東洋紡、上海紡、大倉組、淺野セメント、南鮮電氣、王子製紙、中華機寸などの十餘社から代表を出し設備され労働條件その他の向上改善に當つてゐる。
中華聯合會館 前記産業挺身隊に各親會社より慰問として送附した十萬圓を資金に成立せる豪莊なるクラブ。
山西省の經濟分野 皇軍作戦の進歩に伴つた經濟挺身隊の山西省に於ける合理的に行はれた主要經營分野は左の如くである。

- △興中公司 (太原)
- 新記電燈廠 (陽泉)
- 陽宗炭礦 (石家莊)
- 西山炭礦 (太原)
- 西北育材煉鋼機器廠 (同)
- 西北發電廠 (蘭村)
- 蘭村發電廠 (東山)
- 東山炭坑 (壽陽)
- 壽陽炭坑 (壽陽)

- △東洋紡 (榆次)
 - 晉華紡織公司 (太原)
 - △東亞煙草
 - 晉華捲煙工廠 (太原)
 - △日本火藥
 - 西北印刷廠 (太原)
 - 西北化學廠 (同)
 - 西北新火藥廠 (同)
 - △中華マツチ
 - 西北火柴廠 (太原)
 - 崑崙火柴廠 (汾陽)
 - △豐田自動車
 - 汽車修理廠 (太原)
 - △王子製紙
 - 晉恒製紙廠 (太原)
 - 西北製紙廠 (蘭村)
 - △淺野セメント
 - 西北洋灰廠 (西銘)
- 滿洲國の駐在中華民國通商機關 滿洲國政府では中華民國臨時政府および蒙疆政權の基礎が鞏固を加へるにつれて滿洲國との政治的、經濟的關係が益々緊密となるに

鑑み中華民國臨時政府に通商代表部、蒙疆政權に蒙疆代表部を設けることになり五月末の國務院會議において右兩官制を可決し、六月十四日公布した。

駐在中華民國通商代表部官制

第一條 中華民國に通商代表部を置く

第二條 通商代表部に左の職員を置く

- 通商代表 簡任
- 理事官 二人 薦任
- 事務官 二人 薦任
- 主 事 四人 委任

第三條 通商代表は國務總理大臣の指揮監督を受け通商

および査證その他の事務を掌理す

第四條 通商代表は部下の職員を指揮監督し、その進退

および賞罰につき國務總理大臣に上申す

第五條 理事官および事務官は上司の命を受け事務を掌

る、主事は上司の指揮を受け事務に従事す

第六條 通商代表部の事務を分掌せしむるため辦事處を置く

第七條 辦事處に辦事處長を置き理事官または事務官を

もつて充つ、辦事處長は通商代表の命を受け處務を掌

る
第八條 通商代表部はこれを北京に置く、辦事處の設置場所は國務總理大臣これを定む

附 則

本令は公布の日より之を施行す

而して右代表部は北京に、辦事處は天津、濟南に置かれ北京通商代表に生松淨、天津辦事處長に山本紀綱、南辦事處長に王昨非の各氏就任を見た。

取引所及取引所事情

北支における取引所は青島にあるのみで天津その他の地方にはなく天津取引所設置問題は別項の如くである。

青島取引所 大正九年日本守備軍の發令にて山東の物産たる落花生、落花生油及錢鈔證券を取引物件とする官營の青島取引所が生れその附屬會社として取引所の取引に對する清算、擔保、受渡及倉庫を業務とする日支合辦の青島取引所信託株式會社(資本八百萬圓)が設立され十年守備隊の撤退により會社に變更し株式會社青島取引所と改稱して今日に及んでゐる。この間大阪資本團の進出により一大危機に會したが數次の減資斷行により整理

に努め證券取引を廢止し綿絲の上場を圖つた。以上の如き動搖により工事中中止中であつた建物を復工完成し倉庫業務を開始するに至り建物は内外の會社銀行等に貸付け倉庫は大港埠頭に接して落花生粗油及生實の野積保管の外容量各一千五百噸の大タンク三個、小タンク數個を設け粗油の精製作業及精製油の混合保管を營み一年を通じて粗油千五百車、生實二萬袋、精油一千五百五十萬斤の寄託がある。取引状態は昭和六年中落花生粗油一萬三千五百三十三車、生實二十一萬六千五百五十噸に上つてゐたが同年春の萬寶山事件を機に全國的の排日氣勢が終に會社の上にも伸び市黨部の策動に支那側取引人は一齊に脱退を餘儀なくされ昭和七年支那側に新たに交易所設立されてより土物の上場はなくなるに至つた。又六年九月以來邦人取引人のみにより取引が行はれ奉天事變以來錢鈔取引は會社創立以來の出來高を示し昭和八年度七億一千萬圓、九年度七億九千二百萬圓、十年度上半期二億九千四萬圓に達し好成績を擧げて來た。尙八年一月には一旦脱退した支那側錢鈔取引人の復歸を見た。昭和九年七月以來計畫中の棉花上場も愈々外務省の許可を得、紡績會社及一般棉花商の支持の下に同年十月六日より賣買を開

始した會社は日本商法に遵據せる日支合辦會社にて建物の完成に至る迄は一時低資の融通を受けたが其後全額の返済を完了してより基礎は益々強固となつた。

青島取引所綿絲取引再開 青島取引所は綿絲上場取引を九年前の昭和四年種々の困難を排して開始したが排日のため一年で停止し今年に及んだが今事變で支那側交易所が解消されたので七月十五日からこれを開始し全部の取引を統一してゐる。

天津取引所設置問題

天津取引所設置問題はさきに東京、大阪の實業界有志によつて計畫されすでに臨時政府宛内何書を提出最近名古屋側からも同様何書を提出されたが現地當業者第一主義を前提として現地業者側でも棉花、綿絲、綿布の三品取引所案を北京商工懇話會の三井、三菱、東亞興業、鐘紡、東洋紡、東棉、大倉洋行の七社が出願する一方委員となり研究委員會を設け實際案を研究し大體次の結論に到達してゐる。

一、天津三品取引所と稱し資本金は大體百萬圓(半額拂込)で棉花、綿絲、綿布現物取引を主とし清算取引を

行ふ。

一、雜穀麥粉 大した準備なくとも上場可能なため早急に取引所の實現を期すべきである。

一、棉花 品質、種類區々にして格付が甚だ困難であるから棉花檢驗局を増設し漸次機構を擴大して格付の準備行爲となしなればなるまい。

一、綿絲布 對支輸出制限の結果現在の北支紡績生産機構を以てしては却て恩惠的現象を招來し相場を混亂に陥れるので時期尙早である。

一、證券取引 爲替統制の結果内地株式の上場は不可能でありさりとて北支のみの株式を上場する時は銘柄も極度に制限されることとなるから現下の情勢では成立不可能である。

大阪側出願の内何書と計畫書 大阪側有志による出願は本年一月末提出されたもので内何書中の理由ならびに計畫書は左の如くである。

一、由來北支に諸企業の發達せざりしは、有價證券に公定相場なく安心して投資を爲すこと能はざりしことに原因する處多し、有價證券に公正妥當なる相場を附與し投資に便ならしめ、以て北支の後れたる産業界を急

に在りてはその品位品質は直に格付その他に依り公表せらるゝが故に品種の改良等に付ては一層留意するところあるべし從て北市の如く非科學非文化的農作方法に據る所に於ては取引所を設置して是等の方法を改善せしむる一機關と爲すこと肝要なり。

四、其の他一般的に取引所を設立することに依り、物産の配給機關を整備せしめ、需給の投合を計らしめ、價格の平準作用を營ましめ、保險作用を爲さしめ、商取引に節度秩序あらしめ、又延いて地方の繁榮を計らしむること、北支の如き未組織地方に於て特に必要なり。

計 畫 書

取引所は獨占事業とするに非ざればその効果を發揮し難きを以て、日本における取引所税法と同趣旨の税金又は其他の賦課金制度を設け、取引所を獨占事業として認可相願度、次に計畫の概要並に見積を附記致候。

一、賣買物件

國債、社債、會社株式、棉花、綿絲、羊毛、大豆、豆粕、豆油、小麥、小麥粉、高粱、玉蜀黍、砂糖、落花生。

一、取引人

速に發展せしむるため必要なり、尙ほ北支人口の約八割五分を占むる農民は民度低く經濟知識缺如せるためこれを奇貨とし、不正なる仲立人等が不當なる利益を收め農民に甚大なる損失を與へること普通とせらるゝ状態なり、是等不正なる徒輩の跳梁を排除し農民を疲弊より救ひ、福利を増進せしむるためにはこれ等農産物の公定價格を日々發表する機關たる取引所を設立すること最も必要なり。

二、北支に於ける中小商人及び農民に對する金融の途は殆ど屏塞せられ居る状態にして、これ等の者がその商品又は農産物を擔保として金融せむとすれば甚だしき不利を忍ばざるべからず、斯る状態が産業の發達を阻害すること實に大なるものあり、取引所を設立し金融の目安となるべき相場を作成し、倉庫業及金融業を附帶して取引所自らも商品又は農産物の保管並に金融を爲すことは北支産業開發上必要缺くべからざるものなり。

三、取引所は公開市場なるを以て衆人の注視する處と爲り、業界に缺陷あらば直に之を反映するためその業に當る者は、常に一層業界の改善に努力すべく、又商品

日本人、中華民國人及び滿洲國人として資産信用充分なる者、定員五十名とす、尙ほ特定物件のみを取引する取引人を置くことを得。

一、承認料

取引人たらんとするときは理事會の承認を得ることとし承認料として百圓を取引所に納入するものとす。

一、身元保證金

取引人は五—三千圓程度の身元保證金を取引所に供託することを要す。

一、會 費

取引人は會費として一箇月に付十圓宛取引所に納入することを要す。

一、賣買方法

清算取引及實物取引の二種とし清算取引は競賣買又は入札賣買の方法により、實物取引は見本による賣買又は現物賣買の方法による、取引所に對しては諸種の證據金を差入れしむるものとす。

一、附帶業務

金融業並に倉庫業を營むものなれども、右は何れも取引所における賣買取引に附帶する範圍内とするを原則

棉 花

棉花は青島取引所で取扱つてゐる外天津の棉花同業會で對日輸出および國內移輸出を取扱つて來た。一昨年以來棉花取引所設立問題が擡頭し具體化されんとした人が人事その他の事情および今次の事變により一時中止の狀態にある。(天津取引所設置問題参照)

棉花に附隨して棉實輸出聯盟なるものがあり別記各邦商により組織され棉實の對日輸出を行つてゐる。

天津棉實輸出聯盟

三 菱 商 事	怡 載 洋 行
同 義 興 號	信 記 洋 行
泰 信 洋 行	順 隆 洋 行
武 齊 洋 行	正 華 洋 行
永 和 洋 行	增 幸 洋 行
三 昌 洋 行	裕 華 洋 行
三 井 洋 行	

北支棉花取引事情

北支における棉花取引の経路は大要左の如くである。

入二五〇斤入で中袋は一七〇斤乃至一〇〇斤入、小袋は八〇斤乃至六〇斤入である。北支産棉花の俵装の大部分はいはゆる半締俵で白布で包み麻繩で巻いたものである。この包装は人力壓搾機によつて荷造するが普通重量は一五〇斤前後のもの多く壓搾機の價格は大體一、五〇〇元位、一臺に付き人力一四、五人を要し一日十二時間労働にて約一二〇俵乃至一四〇俵の能力がある。

原給市場 北支各地には今なほ市日なるものが存在してゐる。農民が生産物を販賣するも彼は又日用品その他必需品を購入するもすべてこの市を通じて行はれてゐる。棉産區の農村集市はその數極めて多く農村社會における農民經濟活動は常にこの集市により數十里の範圍を出でない。集市の市場組織は賣方に棉農、小販、繰綿工場があり買付には小販、繰綿工場、花額、棉花店の外稀に支那紡績の棉花買付があるが中間には經紀が介在する。

棉花の買付 棉花の買付は大體これを三種に區別することが出来る。すなはち産地買付と濟南、張店、南苑、通州、連鎮、定縣等支那内地集市場における買付と、天津、青島等輸出港市場における買付とがある。輸出商としての邦商は事變前産地買付は殆んどせず内地主要集散市場

一、棉農—花行(仲買人)—紡績又は輸出業者—運銷合作社が自己にて直接最終市場へ運送搬賣する場合のみ。

二、棉農—經紀(仲買人)—花店(仲買)或は花客—花行(仲買人)—紡績又は輸出業者—この場合は大棉農が繰綿機を自から備へて相當の數量の棉花を花店或は花客に賣捌くもので棉農が直接行ける市場は初級市場を以て限度とする。

三、棉農—經紀(仲買人)—小販或は軌花販—花店(仲買)或は花客—花行(仲買)或は洋行—紡績又は輸出業者

四、棉農—經紀(仲買人)—小販或は軌花販—花店(仲買)或は花客—花行(仲買人)—洋行(仲買)—紡績又は輸出商

(註) 仲買人と仲買人を區別したのは仲買は自ら賣買するものを表示したものである。

建値と俵裝 北支棉花の取引の建値は一擔一〇〇斤即ち一三三・三三封度に就き幾何といふのであるが俵裝に至つては極めて區々にして鐵卷、半締、大袋、絲及小袋、蓆蓋等雜多で鐵卷中にも四〇〇斤入、三八〇斤入、三〇〇斤入、二〇〇斤入、一五〇斤入、半締中にも三〇〇斤

への出廻りを持つて買付けて輸出取引にあて或は青島、天津等の輸出商、支那商人或は紡績との間に取引が行はれてゐたのである。奥地出廻集散市場との金融決済は原則としては勿論現銀輸送或は爲替送金又は銀紙幣、地方の信用ある銀行、銀號、錢莊の支票を以て買付の方法としてゐるが途中の危険多く困難を感ずるため一般に先づその買付をなさんとする土地と濟南、張店、青島、天津との銀號、錢莊、雜貨商等の各地に對する支拂勘定を有するものがあればこれに對し各地の某處でその金額を相手方に支拂ふ旨を記載した手形を發行しその金額を譲り受けて買付資金に充當する一種の逆爲替式の方法によつて行ふもので匯票と稱せられるものである。棉花の商取引は一年を通じて行はれるが特に旺盛なのは九月末から翌年二月までの期間である。

棉農 棉農の中で小農は自ら市場に棉花を持參し大農の多くは自ら繰綿し又は軌花廠に託して繰綿となした後市場に輸送する。合作事業中軌花機貸款と稱し繰綿機購入に際し一臺に付き二〇元一年間無利子で借り得らるゝ地方があり大農は多くこれらを利用する。

小販 多くは小農が資本を集めて經營せるもので集市

或は農村で實棉を買付け他集市の比較的高値の時轉賣するものであるから小販は市場ではさして重要なものではない。

熟花廠 繰綿工場の多くは棉質を買入れ繰綿して賣買するもので棉農の依頼により繰綿して料金を取る者は少い。

棉花店或は花店 その多くは土産物或は雜貨を兼營するもの多くその營業は大體二種に分つことが出来る。資本大なるものは自らの採算を基準に棉花の賣買をなし資本小なるものは客の依頼により棉花を買付け口銭のみを得るもので口銭は大體賣買價格の百分の二が普通である。

花客 花客は比較的大なる棉花賣買商人で原始初級、最終市場を往來しその多くは花店に駐在し紡績、花行の委購を受け棉花の買付等をなすが資金は大でない。

花棧 仲買人の謂ひで客の依頼により棉花の賣買をなし仲介の勞を採るを主要業務とし資本も大なるものはない。運搬を兼營するものも多く中には自らの採算に應じ棉花の賣買をなすものもあるが敢て投機取引はしない。

花行 最終市場における仲買人で初級市場において棉

は兩地の棉花價格の差益を取る。

花行 主要業務は仲介、紹介、賣買でそれで口銭を取り時には花客の棉花を自己の採算で買下げこれを轉賣するが資本大なるもので五萬元程度に過ぎぬ。大部分倉庫を有し花客の棉花を入庫し倉敷料は濟南では大體取らず天津、青島では普通花客の負擔となつてゐる。又花行はこれら棉花につき保險、検査等につき代辦をなし棉花賣買を自營するものも頗る多い。

天津出廻棉花原產地數量統計表

民國二十六年四月(單位公擔)

產地	洋棉	中棉	共計
晉縣	九八	一七二六	一八二〇
東鹿	一七三	六二六	八一〇
定興	四一〇〇	八九四	五〇九四
正定	一〇六	三六六	三六六
霸縣	八二〇六	七〇〇〇	七三三六
定縣	一三九	三三〇	一七四五
滿城	一五九六	四九六	一七四五
獲鹿	二四四	四二四	一九四〇
共計	二四四	四二四	四三〇八

產地	數量	產地	數量	產地	數量	產地	數量
深澤	二四	武清	一七六三	豐縣	一〇六	大興	一八九七
大興	六六五	清苑	四〇七〇	無極	二〇六	豐縣	八〇五
武清	一〇六	容城	四〇〇	天極	九六	豐縣	四一六
豐縣	一〇六	趙城	四九〇	清苑	二四六	豐縣	五〇三
容城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇	容城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
容城	四九〇	趙城	四九〇	天極	九六	豐縣	四九〇
趙城	四九〇	武清	四〇〇	天極	九六	豐縣	四九〇
武清	四〇〇</						

九月中天津市場棉花出廻高(單位俵)

商工會議所調査

品別	一日	十一日	二十一日	計
山東米棉	五三二八	五九六六	六〇三三	一五三二七
西河米棉		六三六六	六〇三二	一七三三
彰德米棉		四六三〇	四三三七	一〇九七四
西河棉		三九七	一八七	六三三
次日			三五	五九
合計		一九一五	一六七八	五〇〇三

仕向地別天津棉花粗絨取引高(單位俵)

支研調査

仕向地	二月十一日	三月十一日	四月十一日	五月十一日	六月十一日	七月十一日	合計
	二十日	二十日	二十日	二十日	二十日	三十一日	計
日本	七〇三	五八四五	六三三一	一〇〇〇	六〇〇	一七三三	二二〇八
海米	二〇〇		六六	八六	一八三〇	一七三三	七五八
上場	一五〇	六八		二〇〇	一七三〇		二七四
合計	九二七	六五八	七三七	二二六	四二〇〇	一七三三	三三三〇

仕向地別天津棉花(細毛)取引高(取引高)

支研調査

仕向地	二月十一日	三月十一日	四月十一日	五月十一日	六月十一日	七月十一日	合計
	二十日	二十日	二十日	二十日	二十日	三十一日	計
日本	六三三	二二六〇	二二三二	二二五八	一六四二	一〇五七	七〇七三
海米	二一九		一四七	七五	一四六		三三三
上場	一八七	六三六	七三〇	二五三	一四〇	九六二	三三六〇
合計	九二七	一八四六	一四〇七	一八三三	二〇〇六	二〇六二	一〇〇八六

北支棉の價格統制方針 本秋北支棉出廻期到来と共に棉花相場は監督官廳でも注視してをり天津、北京の各物價對策委員會では商品別小委員會に棉花小委員會を設け根本策樹立を研究してゐるが早急の對策樹立は極めて困難な状態にあるので奥地沿線並に産地方面の價格統制を試験的に行ひその成果を待つことになつてゐる。現在では石家莊および彰德の棉花買付にあつて買付商人の共同的機關乃至同業會を結成せしめ買付方法の統一を行はしめてゐるが近く公定價格を決定し農民よりの買叩き乃至業者間の競争買ひを防止する模様で同方面の公定價格は大體

粗毛 三九元—四二元
細毛 四七元—四八元

に落付くものと見られてゐる。

華北棉産改進會 河北省棉花改進會は北支棉花増産大計畫に基き臨時政府實業部に接收されたが十一月一日から華北棉産改進會と改稱し單に河北省のみに止まらず山東、山西に跨る綜合機關となり河北、山東、山西各省には夫々分會を設け北支を一九として棉花改進にあたることとなり河北省分會は天津に置かれ十一月一日正式に成立した。今後西河、東河、北河、御河および南苑、瀋州

各棉産地に對し實業部指導下に積極的に棉花改進に乗り出すことになつた。

天津棉業聯合會問題 從來天津には天津棉花同業組合が存在し伊藤忠商事、日本棉花、東洋棉花、大倉商事、兼松商店、丸永商店、又一、江商、三菱商事各株式會社等は悉くその組合員で右九社および田附商店、八木商店の十一社は日本内地に本店を有するものを入會資格者と定めて本年八月天津棉業聯合會を結成したがこれに除外された殘存同業組合員側では萬一右聯合會に買付機關が決定する場合には十年、二十年の刻苦開拓も一朝にして地盤を失ふこととなる重大問題として新聯合會側との間に紛争を惹起し成立を注目されたが九月十六日高井領事立會の下に新聯合會側の東棉、日棉、伊藤忠と地場商人側(棉花同業組合側)たる松本、三昌、瀛華の三洋行が各代表者として會合の上右新聯合會は解消するに至つた。

天津棉業同業會設立案 從來天津には天津棉花同業組合があつたが同組合は事業成果の點において有名無實の嫌ひがあつたのでこれが改組を基礎として天津における棉花業者の大團結を目標に棉業同業會の設立計畫が領事館當局の斡旋により内地側並に地元側の協力を以て進

められ大手筋といはず粗毛業者といはず全業者を擁護することになり左の各部を設けることになつてゐる。
 △第一部(紡績棉)理事長(内地側)理事三名(内地一、地元二)評議員九名(内地六、地元三)。
 △第二部(粗棉)理事長(地元)理事三名(内地二、地元一)評議員九名(内地三、地元六)。
 △第三部(雜棉)役員全部地元側現在のところ右の三部であるが、必要に応じて第四、第五部と綿糸布、絹、人絹、麻等の部を設ける計畫である、なほ第一部長は佐藤東棉支店長、第二部長は天田棉花輸出協會長が選出される豫定で入會信託金は各部とも一千五百圓である。

七月中天津棉花移輸入明細 (單位擔)

支那各港	日 本		滿 洲		朝 鮮	
	粗毛	細毛	粗毛	細毛	粗毛	細毛
支那各港	10,900	1,300	1,000	1,000	1,000	1,000
日 本	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
滿 洲	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
朝 鮮	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
果 計	13,900	4,300	4,000	4,000	4,000	4,000

八月中天津棉花移輸出明細 (單位擔)

支那各港	日 本		滿 洲		朝 鮮	
	粗毛	細毛	粗毛	細毛	粗毛	細毛
支那各港	10,900	1,300	1,000	1,000	1,000	1,000
日 本	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
滿 洲	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
朝 鮮	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
果 計	13,900	4,300	4,000	4,000	4,000	4,000

八月棉花粗毛輸出明細

仕 向 地	十三年九月	二十七年	合 計
日 本	1,000	1,000	2,000
滿 洲	1,000	1,000	2,000
朝 鮮	1,000	1,000	2,000
合 計	3,000	3,000	6,000

八月棉花粗毛輸出明細

仕 向 地	十三年九月	二十七年	合 計
日 本	1,000	1,000	2,000
滿 洲	1,000	1,000	2,000
朝 鮮	1,000	1,000	2,000
合 計	3,000	3,000	6,000

天津各社粗毛積出統計

出 廠 社	日 本	朝 鮮	滿 洲	支 那 各 港	合 計
天津棉花協會	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000
東 華	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000
松 本	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000
實 業	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000
聯 興	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000
日 和	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000
人 大	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000
榮 成	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000
天 人	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000
合 計	10,000	10,000	10,000	10,000	40,000

昨年十二月以降本年八月末までに於ける粗毛の各社積出數量を示せば左の如くである。(單位擔)

出 廠 社	日 本	朝 鮮	滿 洲	支 那 各 港	合 計
天津棉花協會	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000
東 華	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000
松 本	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000
實 業	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000
聯 興	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000
日 和	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000
人 大	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000
榮 成	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000
天 人	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000
合 計	10,000	10,000	10,000	10,000	40,000

天津各社紡績綿積出統計

出 廠 社	日 本	朝 鮮	滿 洲	支 那 各 港	合 計
天津棉花協會	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000
東 華	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000
松 本	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000
實 業	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000
聯 興	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000
日 和	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000
人 大	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000
榮 成	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000
天 人	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000
合 計	10,000	10,000	10,000	10,000	40,000

昨年九月新棉出廻り以降八月三十一日までの紡績棉の各社積出數量を示せば左の通り。(單位整綿俵)

源	盛	順	株	計	合
100	100	100	100	333	763

新棉出廻 北支新棉出廻りは治安關係から多少懸念されてゐたが九月初旬その走りが天津地方に出廻りを見せた。右新棉は主として津浦線德州地方のもので民船によるもの多く数量は毎日百俵程度に過ぎぬが作柄について見れば霸州、東北河棉を除き概して前年以上に良好で殊に西河、山東棉は頗るよく相場は上物六十九圓、並物六十七圓の高値を呼んだ。

棉花相場概況 北支棉花は六月舊法幣流通禁止令とともに勃然として換物入氣をよび内紡筋、上海筋の買氣と三拍子揃つた刺戟材料により六月下旬早くも西北河棉上物五十七圓、山東棉裾物五十三圓見當の高値を呼びこれがため北支における出廻りを促進して津浦線一帶並に京漢線沿線、石家莊以北の出廻りを良好ならしめたがその相場はニューヨーク棉花に比し大體十二圓方の割高を示したので内紡筋は採算上買付不能の状態に陥つた。夏枯閉散期に入り前記換物入氣は一時終熄したが七月下旬から八月月上旬にかけて上海における法幣爲替相場の低落を機

年度産棉は昨年度に比し約三割強の減收と見られてゐるが新棉の出廻期に入り各商店とも奥地に駐在員を派し買付に當り本年一杯を期限として蒲團棉一萬俵(一五萬擔)の責任買付を課せられてゐるが右買付方法は蒲團棉生産の中心地たる石家莊における棉花同業組合員に限り許可され不正買付を取締るため最高價格を百斤に就き四十圓に決定してゐるがこの價格は十月上旬現在の市價五十七圓に比し十七圓の安價となつてゐるので年内の買付履行は困難と見られさらに三箇月程度の延期を豫想されてゐる。

日本棉花綿絲布同業會天津支部

- 伊藤忠商事株式會社天津支店 (華名伊藤洋行)
- 日本棉花株式會社天津支店 (華名日信洋行)
- 東洋棉花株式會社天津支店 (華名東棉洋行)
- 株式會社松島商店天津支店 (華名松島洋行)
- 株式會社田附商店天津出張所 (華名田附洋行)
- 株式會社八木商店天津出張所 (華名八木洋行)

會に再び騰頭した通貨不安によつて再燃し諸物價品中特に棉花は出廻りが極度に薄れて皆無となつたのと新棉に對する減收豫想及び在天津ストックは七月末現在で紡績棉三十二萬七千擔、蒲團棉十三萬八千五百擔と相當多額に上つたにかゝはらず過半は素人筋の手持で一般に賣物薄のため、また上海筋、洋行筋、滿洲方面の買が相當活潑となつたため奔騰を續けて八月月上旬上物は六十圓臺に上り九月上旬には七十圓臺を突破した。右は滿洲國政府が在滿紡績に對し十六萬擔の荷爲替輸入を許可したのに對しすでは十四萬擔の買付を了したのをはじめ内地における棉花共同購入組合がその買付豫定量たる百萬擔を突破して百二十萬擔を買受け本年九月物までの手當を完了せるなどに原因したので内地紡績業者は一時的現象として樂觀した。

蒲團綿最盛最高記録 出廻梗塞と需要期に入つたため實需乏しきにかゝはらず蒲團綿は連日昂騰を續け九月一日四十九元、二日五十一元といふ本年最高記録を示し對日輸出のために困難となり一方外商方面の顯著な買出動が注目された。

蒲團買付狀況 北支産棉の大部分を占むる河北省今

又一株式會社天津支店 株式會社九永商店天津出張所 江商株式會社天津支店 (華名江商洋行) 人絹の全支割當數 本十月初旬愈々人絹の内地、滿支、純輸出向の數量統制が行はれたが此の統制は生産制限から來た輸出統制でその數量の大略を述べれば左の如くである。

全割當十五萬箱	内地	向	七二、二三〇箱
滿支	支	向	一六、三二四
殘部純輸出向			六一、四四五

以上でありそのリーダー者綿工聯、絹工聯、人絹聯、結成の同聯がその割當を行ふのであつて各機業家の實績數に對して大體數量を配分比例して割當てるものである。さらに本年三月—八月迄約半箇年の滿支、關東州の人絹及織物の實績を示せば左の如くである。

人絹	滿洲	一、七一八、四七三ポンド
支那	那	五、一三〇、九六九
關東州	州	五五七、一六一
人絹織物		

支那 二二、九五〇、九七七方ヤール
 支那 一一、九〇一、〇八一方向
 支那 二八、九九七、〇九一方向

羊毛

羊毛の取扱業者は奥地主要集産地毛店の出張員たる外客と賣買に關し一切の手續を行ひ責任を以て之に當る買辦、賣買兩者の仲介を爲し手数料を收得する飽合兒及倉庫業並に在庫品に對し金融、賣買の仲介及之に附隨する業務を行ひ外客を宿泊せしめ市場に於ける羊毛取引上重要な地位を占むる貨棧と貨棧及外客とを兼ねた毛莊の五がある。天津地方における買辦数は五店、飽合兒は九名、貨棧十三、毛莊五とがある。

現在天津の羊毛輸出商は三十餘戸あり、その主なるものは英商及獨商にして彼等の天津における施設は永年間に完成せられたるものにして何れも確固たる基礎の上にある。

- 仁記洋行 Wm. Forbes & Co. (英商) 英界中街四三
 創業 一八六四年 資本 一五〇萬兩
- 新泰興洋行 Wilson & Co. (英商) 英界中街七二
 創業 一九〇三年 資本 五〇萬磅

ら上海に出廻るものが上品とされてゐたが事變以來これが梗塞を來し世界的需要は一時に滿洲、北支に集中するに至り最近では天津がその集産地として外商が一手に取扱ひその輸出ビルは一年萬を計上するに至つた。天津における主要取扱邦商は左の如し。

- 象松洋行 三菱商事
- 三井物産 晉信洋行
- 天平洋行 九鬼洋行
- 新昌號 (劉玉章)

天津雜穀市場 天津における雜穀取引はは市北部の南運河、子牙河、北運河に沿ふ永豐屯、北開、北營門地方の「斗店」市場および白河にふ特別三區(舊露西亞租界)並に佛、伊、英三租界の「河壩」市場の兩所において行はれる、元來雜穀の賣買、仲介は「牙稅」なる特別稅を地方政府に納入しその許可を受けたもののみが營業しうることに規定されてゐたものでこの特許商は普通仲介のみで各地において名稱を異にするが大體「牙行」で通つてゐる。

しかし天津地方の本業者は仲介のみでなく自ら賣買するので牙行の營業とは幾分異り俗に「斗店」と稱する。現在天津の斗店は怡和公記、同孚新、慶長順の三軒が西頭永

平和洋行 Liddell Bros & Co. (英商) 英界大沽路
 創業 一八九六年 資本 一〇〇萬兩
 美最時洋行 Melchers & Co. (獨商) 英界十四號路
 創業 一九〇六年 資本 不詳
 邦人側としては三井洋行、三菱公司、仁記洋行、泰信洋行、晉信洋行、大倉洋行、茂記洋行等あれ共取扱高外商に比すれば僅少である。

石炭

九月中旬天津の邦人石炭業者たる泰信洋行、柳大公司、松昌洋行、宇高商會、山玉號、太平商會(萬長泰)、元記洋行、東泰煤廠、天成洋行の各店により天津燃料同業組合が結成され相互の連絡親睦を計り支那側同業者とも連絡をとり石炭補給其他石炭に關する一切の事務を取扱ひ炭業者の向上發展を圖ることになつた。

この外邦商炭業者としては王座を占むる開平洋行が開礦務局内に事務所を置き開礦炭の對日輸出及天津邦資工場始め一般の邦人に對し取引を開始してゐる。其他毛皮商、鮮果商等もあるも取引僅少なるにつき省略す。

豚毛

元來支那産の豚毛は世界的に著名であつて殊に中南か

豐屯地方に、萬春が北營門に同順永が北開にあり河壩市場は白河北岸の啓泰棧、機儲棧(英商ジャードン・マヂソン經營)および招商北棧が米および雜穀の取引市場となり白河南岸の金城銀行倉庫が麵粉市場となつてゐる。雜穀の單位は小麥、大黑豆、中吉豆、高粱、胡麻が石、元豆、合豆、白合豆、玉蜀黍、粟が俵、また米も俵であるが斗店市場ではすべて石、河壩市場ではすべて俵を以て單位とする。斗店では米を取扱はず雜穀取引のみであるが單位石の斤重は各雜穀の乾濕の關係からそれぞれ界り小麥、大黑豆、中吉豆、胡麻は百四〇斤建、高粱は百二十斤建である。(總て新秤Ⅱ市秤Ⅱ舊秤の十四兩五に當る。十六兩Ⅱ市斤Ⅱ日本衡器一五九分一〇四)。河壩市場の建値は安南米、シヤム米が百市斤建とするのを除けば他の米雜穀ともに百八十四斤建(舊秤の百六十斤に當る)、また一噸と云ふ場合は二千市斤の謂である。なほ河壩、斗店兩市場において通常取引されてゐる米および雜穀の稱呼並びにその産地は次の如くである。

- 白粳 俗に飯米と稱する上等品で蘇州、常州、無錫地方産米。
- 清水尖 江蘇省産米。

津 上海精米で白標に大粒精米の最上品で米粒細長く羊の角に似、別名は羊尖。

江 南支米および日本米。葛治で白河に注ぐ馬嶺河岸の小站一帯の産米で河北省内産米の内最上品である。長粒稻米

小站米 蚌珠稻米はいづれも小站米であるが長粒は米粒細長く蚌珠の米粒は圓いので區別して呼ばれる。

仰光米 (蘭貢米)英領ビルマ産。

天津港輸出落花生統計

海關統計

穀付落花生	公擔	元
歐洲	五三	元
白耳	一〇一	元
智利	三三七	元
佛國	三〇七	元
英國	三三三	元
香港	四〇	元
伊太利	五〇八	元
和蘭	三〇一	元
ニユーヂランド	五三	元

アルゼリヤ	三三
日本	一五
其他	一〇一
計	八三三
花生仁	三二五
英國	一〇一
香港	四七三
和蘭	二二
ニユーヂランド	四二
計	八八七

紡織機滿支輸出許可運動 今事變の結果製作禁止となつた機種の内最もあらゆる意味において影響するところの大であつたのは紡織機であるが事變も第三段階に入り長期磨練の繼續と並行して大陸の諸建設工作者手が表面化して來た氣運をとらへた紡織機メーカーが禁止を緩和して滿支國プロツク輸出を許可せよと最後の猛運動を開始することになつた。右に就いて關係業者の主張するところは「全國紡織製造に投下された資金は約一億圓他部門への輸出は溢溢されても折角今日迄技術的に育て上げた紡織機製作を斷念するには忍びないものがある。しかも今日事變による占領地の治安回復に伴ふ復興建設工作に伴つて當然勃興せしむ可き紡織事業に對して機械

の適切なる供給が絶対に必要となつて來てゐるのにおいて此の際禁止を解いて熟練工の散逸を防止に滿支輸出に備へる事こそ國策とす可きではないかと言ふにある。滿洲向鮮魚野菜青果輸送解除 北支におけるコレラ發生のため七月十三日以來滿洲國宛の鮮魚、野菜、青果は輸入を禁止されてゐたが九月三十日限り解除となり天津鐵路局では直ちに全線に通達してこれが滿洲向小荷物、貨物受託を開始した。

市場

市場(マーケット)は天津、北京、青島などの大都市にそれぞれ數箇所あり、卸賣市場、小賣市場、雜賣市場があり、百貨店、勸業場等あり相當重要な位置を占めてゐる。

卸及小賣市場 天津の雜賣市場は日本側にはないが外國側に二、三あり。競賣場は支那側に左記十店がある。信記合作社 東馬路 雙聚永 南馬路 華順 英界小白樓 志遠齊 鼓樓 東恩 豐日界四面鐘 明記 南開大街 清和公司 同 霖記 同

聚成 祥 東南城角 三義成 特一區小白樓 生鮮食品市場 天津生鮮食品市場としては華人經營の錦記棧、東浮橋の二卸賣市場と同じく華人經營の東北角、南門外、北大關及平安の各菜市及英國租界局管理の英界マーケット、佛國租界局管理の佛界マーケットがある。この外魚類専門の卸賣市場は十箇所あり、魚市場としては大胡同市場が最も大きく他はあまり大きくはない。併し天津にて消費される魚類は必ず此等の市場を経由しなければ絶対に取引不能である。錦記棧は主として輸入果實及野菜の委託販賣を行ひ東大浮橋市場は天津附近より生産された野菜、果實の雜賣をなしてゐる。小賣市場はこれ等卸賣市場等より仕入をなし天津市にこの六市場にて供給をなしゐるのは未だ十分と云ひ得ないが戸別に廻る叫賣が之を補ひつゝありこれ等の賣上はマーケットよりも多額に上ることがあると稱せられてゐる。その他華街河北大經路、大胡同、宮南大街南市、三不管附近日界旭街の夜店及到る處に日用品雜貨及び古物市がある。なほ特殊なものとして日界明石街に骨董品専門の大羅天市場がある。

日本製ウイックモーター 五馬力一臺(作業力)

尙同倉庫は昨年八月より興中公司が特別第三區ロシヤ公園臨白河ヶ岸に着工中のもので、本年中には竣工を見た最近に至り該倉庫は北支棉花會社に合流し事業を擴大した。(北支棉花開發會社の項参照)

北支棉花公司 事業後北支明細化に基き日支經濟提携に立脚し興中公司、紡績聯合會、在華紡績同業會、棉花同業會の共同出資により資本金三百萬圓(半額拂込)の北支棉花開發會社創立發起人總會を十二月上旬大阪に於て開催した。出資割當は興中公司百萬圓(現在天津特別第三區に建築者工中の興中棉花倉庫及プレスパッキング工場を出資に振替)綿業三團體百五十萬圓(内譯、在華紡同業會百五十萬圓、紡績聯合會、棉花同業會五十萬圓)にて、

天津邦人經營倉庫表

名	所在地	經營者	面積	倉庫野積	倉庫證券發行の有無
大連	佛界六號路二二	大連汽船	九三	四三	發行
大連	佛界一區海河路	同	九三	二七五	發行
大連	佛界四號路二八	同	五三	一〇九	發行
大連	佛界山口街四	同	四三〇	三三〇	發行

第一次計畫として目下興中にて著手の棉花倉庫及プレス工場を擴大の計畫である。

同社の事業目的は國策の見地により北支棉花の開發を主眼としてゐるが具體的計畫としては次の諸項が挙げられてゐる。

- 一、棉花の賣買及仲介業務
- 一、倉庫經營及之に附帶する業務
- 一、練綿及打包工場の設置經營
- 一、農耕用品の共同購入斡旋
- 一、棉花改作に必要な業務
- 一、其他の附帶業務

尙右各項の實施と同時に利益配當も六分に限定し殘餘の利潤は北支農民の福祉増進資金に充當する方針である。實務方面は興中より取締役の長澤薫氏が入社した。

(一) 華人經營のもの 天津の華人經營の倉庫は大小合して百十餘あり經營形態上より見れば棉花專門貨棧、銀行附屬貨棧、及一般貨棧との三種に分たれる。

イ、棉花貨棧 日本の間屋業の如く専ら棉花の代理販賣と之に附隨する一切の手續及金融の代理行爲を爲し倉庫業をも兼營するものである。

名	所在地	經營者	面積	倉庫野積	倉庫證券發行の有無
大連	佛界十號路	大連商船	五〇〇	二〇〇〇	無發行
大連	佛界領事路	同	二七〇	二五〇〇	發行
大連	佛界山口街五	同	六八九	七〇〇	發行
大連	日界山口街二一	同	三〇六	一〇〇	發行
大連	日界桃山街	同	一七五	三〇〇	發行
大連	日界明石街二一	同	一九四	一〇〇	發行
大連	特一區海河路	同	一四三	一〇〇	發行
大連	特三區四緯路	同	一五〇	三〇〇	發行
大連	日界山口街開口	同	一六〇	一五〇	發行

ロ、銀行附屬貨棧 銀行業發展策の爲に經營されたるもので庫荷證券の發行を行つてゐるがその通用範圍はそれを經營する銀行のみに限定されてゐる場合が多い。

ハ、一般貨棧 前記特殊倉庫以外の一般商民の經營による倉庫にして一般貨物の保管を行つてゐる。

名	所在地	經營者	面積	倉庫野積	倉庫證券發行の有無
慶生	特三區十一經路	中國銀行	三、六六〇	一、〇九八	無發行
慶生	英界領事路	交通銀行	五四九	一八三	無發行
慶生	伊界六馬路	交通銀行	三六六	七三二	無發行
慶生	特二區	交通銀行	三六六	七三二	無發行

棉花在庫量漸減

七月三十一日天津棉花在庫量は左の通りで
三十一日(二十日現在)

粗毛	二天、四〇擔
細毛	二天、四〇擔
計	二天、四〇擔
本年上半期麵粉入荷數量 (單位袋)	二天、四〇擔

即ち粗毛在庫は増加したが細毛は四萬七千九百七十七擔の減少を示してゐる。原因の大部分は上海筋の買進にあるが最近の新高値にも拘らず買進まず一方産地からの入荷減少の折柄今後新棉出廻り迄は當地在庫漸減の一途を辿るものと見られてゐる。

天津麵粉在庫高 (單位袋) 支研調査		本年上半期麵粉入荷數量 (單位袋)	
日	天津	天津	天津
二月二十日	1,100,000	7,500	7,500
三月二十日	1,050,000	6,800	6,800
四月二十日	1,150,000	5,500	5,500
五月二十日	1,100,000	4,800	4,800
六月二十日	1,350,000	3,800	3,800
七月三十一日	1,150,000	3,200	3,200

天津麵粉入荷及在庫數量 (單位袋)

天津麵粉在庫推定量		天津麵粉入荷及在庫數量 (單位袋)	
日	天津	日	天津
八月二十日現在	1,100,000	八月二十日	1,100,000
		三月二十日	1,050,000
		四月二十日	1,150,000
		五月二十日	1,100,000
		六月二十日	1,350,000
		七月三十一日	1,150,000

八月末天津食料在荷數量 (單位石)

天津麵粉在庫推定量		天津麵粉入荷及在庫數量 (單位袋)	
日	天津	日	天津
八月二十日現在	1,100,000	八月二十日	1,100,000
		三月二十日	1,050,000
		四月二十日	1,150,000
		五月二十日	1,100,000
		六月二十日	1,350,000
		七月三十一日	1,150,000

天津雜穀在庫高 (七月卅一日)

天津雜穀在庫高 (七月卅一日)		支研調査	
品名	數量	品名	數量
小玉米	2,330	小玉米	2,330
紅米	1,000	紅米	1,000
芝米	9,796	芝米	9,796
豆類	3,255	豆類	3,255
芝麻	3,255	芝麻	3,255
高粱	4,318	高粱	4,318
其他	1,050	其他	1,050
計	23,950	計	23,950

支研調査		支研調査	
品名	數量	品名	數量
小玉米	2,330	小玉米	2,330
紅米	1,000	紅米	1,000
芝米	9,796	芝米	9,796
豆類	3,255	豆類	3,255
芝麻	3,255	芝麻	3,255
高粱	4,318	高粱	4,318
其他	1,050	其他	1,050
計	23,950	計	23,950

明治火災保險	三井物産天 津支店	(代理店)
日本火災保險	同	(同)
東京火災保險	同	(同)
三井火災保險	華勝洋行	(同)
東洋火災保險	天津營業處	(同)
海上火災保險		
大阪海上火災保險	三井物産天 津支店	(代理店)
大正海上火災保險	同	(同)
東京海上火災保險	同	(同)
橫濱海上火災保險	同	(同)
大連海上火災保險	國際運輸天 津支店	(同)
帝國海上火災保險	同	(同)
朝日海上火災保險	同	(同)
扶桑海上火災保險	同	(同)
日本海上保險	同	(同)
神戸海上火災保險	同	(同)
三菱海上火災保險	同	(同)
大北火災海上保險	同	(同)
東洋海上火災保險	同	(同)
三菱海上火災保險	那茂洋行	(同)

吉豆	1,710石	1,710石
元豆	3,100石	3,100石
合豆	10,110石	10,110石
高粱	4,110石	4,110石
胡麻	2,750石	2,750石
粟	5,000石	5,000石
合計	101,110石	101,110石

天津毛皮在庫高 (七月卅一日)(單位枚)

倉庫名	生羊皮	毛羊皮	栗鼠皮	犬皮	狐皮	合計
聚東棧	90	1,100	1,350	1,500	1	6,010
萬聚棧	30	400	1,200	2,200	700	5,870
義聚棧	70	900	1,700	1,500	1,100	6,870
宏利源	30	80	1,900	1,300	1,100	6,010
東興德	30	70	1	1	1	1,100
公聚成	900	30	1	1	1	1,100
志同興	1,000	1,100	1	1	1	2,200
隆祥義	1,100	1,000	1	1	1	2,100
其他	1,700	1,800	1	1	1	3,500
合計	2,230	2,600	7,190	6,500	3,400	27,920

牛皮在庫高二三、二九〇斤、馬皮在庫高五、三五〇枚

保 險

天津には日本の損害保險會社支店又は出張所が進出し
てゐる。その會社名及代理店名を掲げれば次表の如くで
ある。

生命保險	
第一生命保險	天津出張所
明治生命保險	中東公司 (代理店)
住友生命保險	三昌洋行 (同)
日清生命保險	三友洋行 (同)
大同生命保險	金山洋行 (同)
千代田生命保險	華勝洋行 (同)
帝國生命保險	大倉洋行 (出張所)
日本生命保險	副華洋行 (同)
安田生命保險	山下洋行 (代理店)
野村生命保險	牧 尙一 (同)
片倉生命保險	晉信洋行 (同)
火災保險	
千代田火災保險	三井物産天 津支店 (代理店)
共同火災保險	同 (同)

神戶海上火災保險 大倉商事天 (代理店)
 大倉海上火災保險 津支店 (同)
 三菱海上火災保險 三菱商事天 (同)
 日本海上保險 中裕洋行 (同)
 攝津海上火災保險 山下洋 (同)

其他の

富國徵兵保險 中 公司 (代理店)
 第一徵兵保險 華勝洋行 (出張所)

歐米諸國の保險會社の天津進出は夥しく其數百七社の
多數に上つてゐるがその主なるものを示せば次の如し。

生 命 保 險	
永安人壽保險公司	法界二十四號路
宏利人壽保險公司	法 界
華安合羣人壽保險公司	法界四號路
同 上 行	北馬路官銀號
海上及火災保險	
上海保險行	法界九號路
花旗上行	估衣街飯店胡同
同 下 行	法界一號路
太平水火保險公司	法界十一號路

先施保險置業有限 法界四號路九十五
 公司 英界
 信申保險公司 法界大沽路
 美亞保險公司 英界中街
 保安保險公司 英界大沽路
 荷蘭保險公司 法界五號路
 華昌保險公司 英界中街
 新泰興保險公司 北馬路龍亭西箭道
 同 行
 太古洋行 英界中街
 同 行 舖店街
 平和保險公司 英界菜市南
 美 豐 洋 行 英界馬場海壽路
 同 上 行 北馬路官銀號
 青島は天津と同様貿易港の關係上同地に進出せる主な
 る保險會社は次の如く大部分は海上火災保險に占められ
 てゐる。

豐國火災保險 福成公司 (代理店)
 攝津海上火災保險 同 (同)
 日本共立火災保險 同 (同)
 東海海上火災保險 同 (同)
 大阪海上火災保險 同 九二商會 (同)
 神戸海上運送火災 岡崎合資會社 (同)
 保險 同
 朝日海上火災保險 同 (同)
 日本海上火災保險 九二商會 (同)
 東洋海上火災保險 鈴木洋行 (同)
 扶桑海上火災保險 鈴木洋行 (同)
 帝國海上火災保險 同 (同)
 大連火災海上保險 國際公司 (同)
 外國會社進出のものとしては
 ニュージランド 福成公司 (代理店)
 火災保險
 天津保險會社協成成立 懸案となつてゐた天津におけ
 る邦人保險業者の協力機關たるべき天津保險會社協成
 立案は九月十三日協成設立準備會設置の運びとなり目下
 委員會において創立總會開催準備が進められてゐる。協
 會參加の業者は三井物産(千代田火災、共同火災、明治火
 災、日本火災、大阪海上、大正海上、東京火災、横濱海

上各代理店)國際運輸(大連海上火災、帝國海上各代理店)
 大倉商事(大倉海上、神戸海上)、三菱商事(三菱海上)、通
 裕洋行(日本海上)山下洋行(舞津海上)等邦商を網羅した
 もので結成後は保険料の協定は勿論契約配布の合理化を
 計り外人保險業者をノックアウトして健全なる保險界の
 發展を期するものとして期待されてゐる。協會設立時期
 は十月の豫定。

物 價

北支における物價は最近五箇年間に三つの大きな變化
 を示した。
 その一つは一九三五年十一月の幣制改革によつて通貨
 側から影響が改善されたことである。
 その二は昨年事變勃發による物資の戰時的需給關係か
 ら異常な昂騰を示したことである。
 その三は今年三月十日の新幣制改革によつて新通貨は
 圓にリンクされたために日本内地物價の動きに支配を受け
 るやうになり、従つて世界物價から遊離した日本物價の響
 きが北支物價に直接的に反映し「光榮ある孤立」は三つの
 圓に共通した現象となつた。試みに一九二六年以降北支

卸賣總指數を見れば左の如くである。

年	總指數	増	減
一九二六年	一〇〇・〇〇	〇	
一九二七年	一〇三・〇二	〇	三・〇二
一九二八年	一〇七・九八	〇	四・九六
一九二九年	一一一・〇八	〇	三・一〇
一九三〇年	一一五・八五	〇	三・七七
一九三一年	一二二・五五	〇	六・七〇
一九三二年	一一二・八七	〇	九・六八
一九三三年	一〇一・〇〇	〇	一一・八七
一九三四年	九二・三一	〇	八・六九
一九三五年	九五・五一	〇	三・二〇
一九三六年	一一〇・六二	〇	一五・一一
一九三七年	一二九・九八	〇	一九・三六
一九三八年	一四八・二三	〇	一八・二五

(一月—三月)
 すなはち一九三四年に底をついた北支物價は翌三十五
 年の幣制改革を契機として再び上昇し一九三七年上期に
 おいて一九二六年來の最高に到達し事變後の上昇テンポ
 は極めて速く且つ大巾のものとなり本年九月現在では一
 八〇・〇〇を突破する情勢におかれてゐる。

物價統價 六月はじめ以來南方における法幣相場の激
 落を契機とする通貨不安に伴ひ北支には換物景氣擡頭し
 六月中旬以來一般商品物價は特殊事情を織交せて一齊に

暴騰した。最もはげしく暴騰したのは棉花、棉糸布、小麦粉、米、砂糖などでいづれも銀行、錢舖その他資本家の通貨不安を背景とする換物的思惑買の對象となれるものであるが前記各商品と並んで暴騰せる鋼材、砂糖、洋紙などはいづれも日本内地において極端に供給逼迫したためこれらは北支では外商からの入手を不可避とするものであつただけに端的に前記法幣相場暴落による影響を物語るものに外ならなかつた。これを要するに北支物價の暴騰は舊法幣低落輸送困難および不正商人の買占め、賣惜しみが絡み合つたもので大衆生活を壓迫すること甚だしいものがあつたが各關係機關によつて結成された輸送委員會、物資調整委員會、物價統制委員會等々の組織的研究によつて北支重要都市における重要品目の公定價格が設定され一方輸送關係當局者の努力によつて異常な北支高物價は多少合理化されるに至つた。特に石炭に就ては冬季需要期に向ひ一般に品不足が豫想され大いに憂慮されてゐたが過般興中公司が同公司出炭取扱業者と協議の上公表した各種石炭公定價格は一般に多大の歡迎を受け石炭飢饉を解消一安堵せしむるに至つたところ實際この公定價格が行はれてゐるかといふに必ずしもさ

値を嚴重調査二割五分以上の暴利者は嚴重處罰する。
 四、各商店は木の小札、またはブリキの小札を作り各品物の上に置き値段の識別に便ならしむ。
 五、各商店は商品の衛生に氣をつけ客のためよく注意すること。
 右は即日實行に移されたが各業者共忠實にこれを守り一般市民の好評を博した。
 濟南の物價統制 山東省では地方災區における缺乏生活必需品の補給と停滯土産物の市場出廻りとのため濟南市に山東省物資對策委員會と地方災復興委員會を設立して物資の疎通を圖つたが近來濟南においては主要生活必需品價格の異常なる暴騰傾向に鑑みれが數量的調節統制を行ふべき必要に迫られ日本特務機關、憲兵隊、總領事館、鐵路局、商工會議所、居留民團、支那側は省公署顧問部、省公署秘書處、建設廳、警務廳、濟南市公署、山東省會、警察局長、濟南市商會、新民會の代表を以つて委員となし濟南物價統制委員會を組織して統制を實行することとなつた。かくて濟南物資價格統制委員會では合體委員會を一回、常任委員會を二回開催して審議研究の結果大要左の如く實施方針を定め十月一日を期して主要生

うではないのである。甚だしいのは適當り十三圓前後の炭價が二十七圓といふ倍以上の價格で賣買されてゐる事實であるが一方官公署とか興中公司の仲介によると公定價格通りに販賣されてゐる。つまりこれは個人消費者に對し卸商人の側において相當の懸引が行はれてゐるからであつてかゝる諸事情よりして北支においても一部有識者により經濟警察官の設置が考慮されるに至つた。
 北京の物價抑制 北京市公署當局は暴利取締、奸商嚴罰の對策の一方法として警察局長と協力し十月上旬東單、西單その他の市立有力魚菜商、青果商などの代表を集め次のやうな辦法を決定した。
 一、毎日値段を上下の二種とし各定價の標準とす、卸賣仲買屋は一律(即ち原價の十分の一)小賣は最高二割五分(卸賣値の百分の二十五)を最高利得とし商店は毎日定價表二枚を作りこれを社會、警察兩局に送り調査の便に供す。
 二、警察、社會兩當局は各商店、各市場に布告し小賣値段を一律に照し合はせ各品物の價格一定に努めまた元、角、分、厘を單位とせしむ。
 三、警察局長は各商の卸値段表に従ひ隨時各小賣商の小賣

活必需品の價格統制を實施した。
 一、統制すべき商品に當り石炭、表粉、燐寸の三種とするが必要に應じて逐次追加することあるべし。
 二、統制方法に統制品毎に別に示す通り決定する、統制物品を販賣するものは其の最高公定價格を店頭に掲示することを要す、尙石炭に就いては別に示す通り統制委員會指定取扱人を定めて取扱はしめる。
 三、統制違反に對する取締に統制違反に就いては差當り統制委員會及警察當局に於て十分に取締をなすが必要に應じ直ちに日本側は領事館令、支那側は省令を發布して取締を行ふ用意を進めてゐる。
 因みに八月末標準價格左の如し。
 八月末標準價格

一	二	三	道	機	石	麥
麵	麵	麵	麵	麵	麵	子
(單位一袋)						
五元三角	五元二角五分	五元二角	四元二角	(單位百斤)	一元	一元
					七元五角五分	

三月一日	三月九日	三月十二日	三月十七日	三月二十六日	四月三十日	五月三十一日	六月三十日	△黒豆
三月	三月	三月	三月	三月	三月	三月	三月	三月
期	期	期	期	期	期	期	期	期
五・四六	五・五五	五・六二	五・七三	五・八二	五・九六	六・〇四	六・一八	六・三〇
未開	六・三〇	六・三〇	六・三〇	六・三〇	六・三〇	六・三〇	六・三〇	六・三〇
六・七二	六・六三	六・五四	六・五四	六・五四	六・五四	六・五四	六・五四	六・五四

二月十日	二月十九日	二月二十六日	二月二十七日	三月一日	三月九日	三月十二日	三月十七日	三月二十六日
二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月
期	期	期	期	期	期	期	期	期
六・五三	六・六五	六・七一	六・七九	六・八六	六・九三	七・〇三	七・一四	七・二五
六・六五	六・七五	六・八五	六・九五	七・〇五	七・一五	七・二五	七・三五	七・四五

大豆	黑豆	黄豆	小麦	高粱	小米	大米	麵粉	餅類	餛飩	鍋餅	煎餅	通米	米	麵	麵卷	麵條	
一四元五角	九元七角五分	七元一角	九元九角	七元	七元三角	六元三角	一元二角五分	一元二角五分	一元六角五分	一元四角	一角二分	一角二分	一角二分	一角二分	一角二分	一角二分	一角二分
米	米	米	米	米	米	米	米	米	米	米	米	米	米	米	米	米	米

主要雜糧の昂騰 北支における雜穀類は一般大衆の日常主食物としてその穀價の變動が與へる影響は甚大なるものあり 事變以來戰禍と洪水とによつて地場産品の出廻りは皆無なるのみか各地方農村が饑饉状態にあるを以て雜穀の需要は頗る旺盛を極め主として滿洲國より供給を受けてゐるが輸送の不圓滑と一部奸商の賣惜みのた

三月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月
期	期	期	期	期	期	期	期	期	期	期	期	期	期	期	期	期	期
五・〇一	五・一八	五・二六	五・三三	五・四〇	五・四七	五・五四	五・六一	五・六八	五・七五	五・八二	五・八九	五・九六	六・〇三	六・一〇	六・一七	六・二四	六・三一
五・〇一	五・一八	五・二六	五・三三	五・四〇	五・四七	五・五四	五・六一	五・六八	五・七五	五・八二	五・八九	五・九六	六・〇三	六・一〇	六・一七	六・二四	六・三一

め年初來續騰の一路を辿り三月に至つて黍、黑豆共に前者は六國臺後者は七國臺載せとなり臨時政府始め北京市公署等が穀價騰貴抑制に乘出し軍務部、滿鐵事務局等によつて物價調整に努力されたにも拘らずその後益々奔騰を續けつゝある状態でさらぬだに困窮を極める大衆生活に與へる脅威は夥しく延いては治安にも影響するものとして徹底的な對策が急速に樹立されることを要望されてゐる。雜穀中の主要品紅糧(黍)黑豆の上げ脚は左の如くである。

北支卸賣物價指數

(一九二六年=100) 支研調查

品類	第一類					
	一月	二月	三月	四月	五月	六月
食品	129.0	129.9	129.0	129.0	129.7	129.8
衣服及其原料	120.7	120.3	120.8	120.8	120.8	120.6
金	120.7	120.6	120.8	120.8	120.8	120.6
建築材料	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
雜項	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
總指數	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
國幣購買力	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
農產品	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
動物產品	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
礦產品	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
林產品	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
原料	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
生產品	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
消費品	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
製造品	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
總指數	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6

北支卸賣物價指數

(民國十五年=100) 支研調查

品類	第一分		
	七月平均	八月平均	九月一日至七日
食品	129.3	129.7	129.8
衣服及其原料	120.7	120.8	120.6
金	120.7	120.8	120.6
建築材料	120.7	120.8	120.6
雜項	120.7	120.8	120.6
總指數	120.7	120.8	120.6
國幣購買力	120.7	120.8	120.6
農產品	120.7	120.8	120.6
動物產品	120.7	120.8	120.6
礦產品	120.7	120.8	120.6
林產品	120.7	120.8	120.6
原料	120.7	120.8	120.6
生產品	120.7	120.8	120.6
消費品	120.7	120.8	120.6
製造品	120.7	120.8	120.6
總指數	120.7	120.8	120.6

天津卸賣物價指數

(民國十五年平均=100)

類別	類別	項目	天津卸賣物價指數					
			八月份	九月份	九月份	九月份	九月份	九月份
工業類	總指數	總指數	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
		建築材料	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
		燃料	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
		金	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
		布	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
		食	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
		雜項	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
		國幣購買力	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
		總指數	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
		國幣購買力	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
製造類	總指數	總指數	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
		生產品	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
		消費品	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
		製造品	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
		總指數	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
		生產品	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
		消費品	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
		製造品	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
		總指數	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
		生產品	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
原料類	總指數	總指數	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
		生產品	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
		消費品	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
		製造品	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
		總指數	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
		生產品	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
		消費品	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
		製造品	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
		總指數	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6
		生產品	120.7	120.5	120.8	120.8	120.8	120.6

(三二) 類物食

品名	單位	七月平均	八月平均	九月一日至七日
小	米市升	129.3	129.7	129.8
綠	豆市升	129.3	129.7	129.8
黃	豆市升	129.3	129.7	129.8
兵	麵粉斤	129.3	129.7	129.8
綠	麵粉斤	129.3	129.7	129.8
三	麵粉斤	129.3	129.7	129.8
玉	麵粉斤	129.3	129.7	129.8
豬	肉市斤	129.3	129.7	129.8
羊	肉市斤	129.3	129.7	129.8
牛	肉市斤	129.3	129.7	129.8
雞	肉市斤	129.3	129.7	129.8
鴨	肉市斤	129.3	129.7	129.8
鵝	肉市斤	129.3	129.7	129.8
魚	斤	129.3	129.7	129.8
鹹	菜斤	129.3	129.7	129.8
白	菜斤	129.3	129.7	129.8
韭	菜斤	129.3	129.7	129.8
蔥	菜斤	129.3	129.7	129.8
大	豆斤	129.3	129.7	129.8
土	油斤	129.3	129.7	129.8
香	油斤	129.3	129.7	129.8
花	油斤	129.3	129.7	129.8

項雜	(八)類料燃										(九)類用服													
	大聯珠烟盒	紅錫包烟盒	北洋火柴包	洋煤油斤	煤油斤	木炭斤	塊煤斤	烟煤斤	煤球斤	毛線斤	棉線斤	東洋呢尺	國花標尺	線標尺	青市布尺	漂市布尺	本色市布尺	紅市布斤	白市布斤	醋糖斤	醬油斤	麵粉斤	食鹽斤	
	0.35	0.40	0.30	0.25	0.20	0.15	0.10	0.08	0.05	0.03	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01

項雜	(五)類			
	大毛巾條	五毛條	鏡酒斤	總類
	2.00	2.00	2.00	2.00

類別項目	(民國十九年平均一〇〇)			
	七月	八月	九月	十月
食料類	100	100	100	100
服用類	100	100	100	100
雜項類	100	100	100	100
總指數	100	100	100	100

天津小賣物價指數

天津社會局調查

北京九月中小賣物價指數

天津社會局調查

商	西河米種(細毛)	西河(粗毛)	南苑(同)	南苑(同)
最高	1.80	1.80	1.80	1.80
最低	1.80	1.80	1.80	1.80

天津棉花市況 (據建、單位元) 支研調查

品類	一月	二月	三月	四月	五月	六月
食品類	100	100	100	100	100	100
衣服類	100	100	100	100	100	100
燃料及水	100	100	100	100	100	100
總指數	100	100	100	100	100	100

天津工人生活費指數 支研調查

銀元物價計算 (一九二六年一〇〇)

時期	七月平均	八月平均	九月平均
食品類	100	100	100
衣服類	100	100	100
燃料及水	100	100	100
總指數	100	100	100

天津工人生活費指數 天津市社會局調查

銀元物價計算

牛豆	桐棉	カストル	亞麻仁	落花生
油	油	油	油	油
四〇〇〇	三三〇〇	六〇〇〇	二五〇〇	二六〇〇
三三〇〇	二〇〇〇	二五〇〇	二七〇〇	二五〇〇
三三〇〇	二〇〇〇	二五〇〇	二七〇〇	二五〇〇
三三〇〇	二〇〇〇	二五〇〇	二七〇〇	二五〇〇

棉實	胡桃	胡椒	辛子	亞麻仁	杏仁	杏仁	同	落花生
實	仁	桃	種	仁	仁	仁	仁	仁
三三〇〇	三三〇〇	二八〇〇	九二〇〇	二〇〇〇	三三〇〇	三三〇〇	二〇〇〇	六三〇〇
三三〇〇	三三〇〇	二八〇〇	九二〇〇	二〇〇〇	三三〇〇	三三〇〇	二〇〇〇	六三〇〇
三三〇〇	三三〇〇	二八〇〇	九二〇〇	二〇〇〇	三三〇〇	三三〇〇	二〇〇〇	六三〇〇

八月九月中天津油類相場(圓)

八月九月中天津雜穀相場(圓)

藤刺	椎	雞	濃	沖	厚	一	饅	中	大	鮑	藤	刺	椎	雞	濃	石	志
昆	冠	冠	子	子	出	葉	等	小	型	統	昆	冠	冠	冠	子	見	川
子	布	草	粉	子	布	布	布	參	參	詰	子	布	草	草	粉	子	子
一〇〇〇	五〇〇	七〇〇	一〇〇〇	三〇〇〇	九八〇	九六〇	九六〇	一九五〇	二二〇〇	二八五〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇
一〇〇〇	五〇〇	七〇〇	一〇〇〇	三〇〇〇	九八〇	九六〇	九六〇	一九五〇	二二〇〇	二八五〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇

朝野	小野	啓野	洋杏	綠杏	黃桃	墨桃	紅桃	紫桃	硫	硫	カ	水	鹽	ミ
鮮	品	品	品	品	品	品	品	品	品	品	品	品	品	品
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二二五	二二五	二二五	九五〇	三八〇	四二〇	三五〇	九八〇	二八〇	一九〇	四五〇	七〇〇	四八〇	五五〇	九八〇
二二五	二二五	二二五	九五〇	三八〇	四二〇	三五〇	九八〇	二八〇	一九〇	四五〇	七〇〇	四八〇	五五〇	九八〇

包精	包栗	高	鹽	ラ	福	紅	白	内	米	米	米	淺
白	高	米	地	ウ	州	州	州	州	州	州	州	野
粉	米	米	ベ	ン	松	松	松	松	松	松	松	品
八〇〇〇	六〇〇〇	三〇〇〇	ニ	ベ	一	一	一	一	一	一	一	品
八〇〇〇	六〇〇〇	三〇〇〇	ニ	ベ	一	一	一	一	一	一	一	品

青島卸賣物價は調査品目七十五品中、相場不成立のものが四品で前月に比し騰貴二十六品、保合三十六品下落九品、總平均に於て四分七厘の騰貴となつてゐる。また小賣物價は調査品目七十品中前月に比し騰貴二十六品、保合四十一品、下落三品で總平均に於て八分四厘の騰貴となつてゐる。青島商工會議所基準昭和九年一月末に較べた卸賣物價においては指數一四四・七を示し四割四分七厘、小賣物價においては指數一五七・七を示し五割七分七厘の騰貴で類別による騰落は次の通り。

卸賣物價

類別	指數前月末(七月)九年一	を百とす	月末を百とす
穀類及蔬菜類(十二品)	九九・三	一八一・五	
調味及嗜好品(十一品)	一一六・九	一三二・五	
肉類及魚類(六品)	一〇一・三	一一〇・二	
其他食料品(七品)	一〇二・一	一三五・一	
衣料類(六品)	一〇七・五	一七八・二	
建築材料(十三品)	一〇二・二	一八一・二	
燃料(十品)	一〇二・六	一七〇・一	
雜品(十品)	一〇四・四	一三五・九	
總平均(七十五品)	一〇四・七	一五七・七	

因に主なる品目につき卸物價を示せば滿洲米は四三冠入十圓五十錢、朝鮮米三〇冠八圓七十錢、落花生は穀付百斤六圓八十五錢、實百斤八圓八十錢、大豆百斤六圓四十錢、高粱百斤六圓七十五錢、味噌日本物十九圓五十錢、地物十五圓、醬油龜甲司四斗二十六圓、同地物四斗五升十六圓、食鹽十袋(一袋一部斤入)九十錢、砂糖一俵二十六圓七十三錢、茶(正喜撰)百斤百圓清酒菊正、白雪四斗五升百三十圓、ビール(青島麥酒)一箱四打八圓、豚肉ロース五圓、鶏肉七圓、ハム八圓、鶏卵中玉子千個二十五圓三十錢、梅干二十二圓、澤庵(山口)十五圓、綿糸(銀月二十番手)桐三百一圓、綿布(龍頭細布)碼十一圓八十五錢、モスリン上等品大巾尺五十二錢、棉花(特別山東米棉)百斤五十七圓二十五錢、セメント山、四二圓二十五錢、煉瓦(手押)千個十四圓五十錢、ペイント(白鉛)一罐(二・五冠入)十二圓、石油(テキサス幸福)一箱(一〇ガロン)十二圓七十五錢、ガソリン十ガロン十三圓五十錢、酒精十五冠十一圓七十五錢、石炭噸二十三圓、滿川粉炭十五圓、木炭(滿洲)一俵二圓四十錢、薪百斤一圓四十錢である。

なほ青島商工會議所基準に較べて最も顯著な騰貴を見せらるるものにつき七月末現在の卸賣物價を示せば次の通り(括弧内は昭和九年一月末を百とせる指數)

卸賣物價

類別	指數前月末(七月)九年一	を百とす	月末を百とす
穀類及蔬菜類(十三品)	一一三・三	一四三・七	
調味及嗜好品(十三品)	一〇九・五	一一四・八	
肉類及魚類(九品)	一一三・六	一九五・五	
其他食料品(十三品)	一〇五・二	一一二・五	
衣料類(八品)	一〇八・一	一七二・七	
燃料(十品)	一〇三・四	一六九・〇	
雜品(四品)	一〇〇・〇	一一八・七	
總平均(七十品)	一〇八・四	一一四・七	

小賣物價

▲白米：朝鮮米(特等)三十冠入九圓二十錢、滿洲米(同)四十三冠入十圓九十錢(前月一〇・八〇)上海米二十ポンド入二十圓▲糯米(日本物)一升五十錢(前月〇・四〇)▲粟一升七錢▲麥粉(地物)百斤十錢▲黑豆一升五十五錢▲小豆一升四十五錢(前月〇・四〇)▲馬鈴薯百斤三錢▲牛蒡百斤十二錢▲人參百斤八錢(前月〇・〇三)▲林檎(朝鮮物)百斤十三錢(前月〇・一五)▲バナナ(臺灣物)百斤十二錢(前月〇・一二)▲味噌：(日本物)百斤十二錢、(地物)八錢▲醬油：龜甲司一升九十三錢(前月〇・八五)地物同六十錢▲食鹽(地物)一袋(二市斤入)十二錢(前月〇・一〇)▲砂糖精製一斤二十二錢▲茶(正喜撰)一斤一圓四十五錢(前月一・四〇)▲清酒(菊正白雪)一升三圓五十錢(前月菊正三・三〇、白雪二・〇〇)▲ビール(アサヒ、青島)一本三十六錢(前月〇・三五)▲サイダー(ライオン)一本十五錢▲煙草(リバイバル)十錢▲牛肉(ロース)百斤四十錢▲ハム百斤八十錢▲豚肉(ロース)百斤五十錢▲鶏肉百斤七十錢▲鶏卵(中玉)十個三十二錢(前月〇・二八)▲鯛：生百斤一圓、氷六十錢(前月生〇・八〇、氷〇・四〇)▲ヒラ

▲百斤四十銭 ▲スズキ百斤六十銭(前月〇・四五) ▲梅
 千百斤三十銭 ▲澤庵(山口)百斤十二銭 ▲ラツキヨ百斤
 三十五銭(前月〇・二五) ▲奈良漬百斤五十銭(前月〇・
 四〇) ▲味噌：鯖二十五銭、海苔(小)十五銭、福神漬
 (小)二十銭、蟹七十銭(前月〇・六八) 筍五十銭、松茸七
 十銭 ▲豆腐一丁六銭 ▲うどん玉十個五十銭 ▲モスリン
 上等大巾尺六十三銭(前月〇・五八) ▲晒布尺七銭五厘
 (前月〇・〇八) ▲綿ネル(白)大巾尺三十五銭(前月〇・
 三〇) ▲天瓜二尺二十六銭(前月〇・二五) ▲足袋：白
 四十三銭(前月〇・四〇) 黒五十三銭(前月〇・四八) ▲石
 油(テキサス幸福)五ガロン六圓三十八銭 ▲揮發油一ガ
 ロン三十銭(前月〇・二五) ▲酒精一ポンド四十銭(前月
 〇・三五) ▲石炭：淄川炭噸二十五圓、同粉炭十八圓、
 博山大山塊炭二十五圓、コークス百二十圓 ▲木炭(滿
 洲)一俵二圓六十銭 ▲薪百斤一圓六十銭 ▲マツチ(大)
 一筋三十五銭 ▲半紙(下)一帖六銭 ▲塵紙(普通品)一束
 二十八銭 ▲石鹼(花王)一個十二銭 ▲ライオン煉炭磨
 (家庭用)一個七十銭
 昭和九年一月末を百として騰貴の最も著しいものゝ指數
 を示すと次の通り。

▲スズキ六四〇 ▲コークス三七五 ▲綿ネル二九二 ▲人
 参二六七 ▲ヒラメ二六七 ▲天竺二三七 ▲晒布二一四 ▲
 鋼(米)二〇〇 ▲淄川粉炭二〇〇 ▲上海米一七七 ▲マツ
 チ一七五 ▲牛蒡一七一 ▲モスリン一七〇 ▲うどん玉一
 六七 ▲豚肉一六七 ▲茶(正喜撰)一六五 ▲麥粉(地物)一
 六七 ▲酒精一六〇 ▲粟一五六 ▲石油一五二 ▲半紙一五
 〇 ▲小豆一五〇 (騰貴五割以下略)

青島の諸物價 (八月末現在) (2)

青島日本商工會議所調査の八月末現在における小賣物
 價は調査品目七十品中、七月末に比し騰貴二十五品、保
 合四十品下落五品、總平均において二分六厘の騰貴で一
 方卸賣物價は調査品目七十五品中、騰貴二十二品、保合
 四十四品、下落四品、不成立五品で總平均において一分
 七厘の騰貴である。これを穀類、蔬菜類について見ると
 小賣は一分三分強、卸賣は四分四厘、調味および嗜好品
 は小賣で三分七厘、卸賣で一分一厘、その他の食料品は小
 賣で二分五厘、卸賣で四分、衣類小賣八分、卸賣三分七
 厘の騰貴となつてゐる。騰貴したものの中でも白米、野菜
 果物、醬油等の食料品、調味料は最も甚だしく小賣物價

において上海米は一分一分、麥粉は二割、牛蒡一分三分
 八分五割、林檎一分強、バナナ三割八分、醬油一分七分
 茶一分、酒(菊正)九分、サイダー七分、澤庵二割五分、
 天竺木綿三割九分、ゴム靴七分、木綿糸一分五分、概ね
 日常生活必需品の昂騰が著しく日本酒も菊正の如きは一
 升三圓八十銭となり各品目による八月末現在の物價と七
 月末(括弧内)を示すと次の通り。

小賣物價

▲白米 朝鮮物三〇 冠入九・五〇(九・二〇) 滿洲物四三
 冠入一・三〇(一・〇・九〇) 上海物二〇〇 封度二二・二
 〇(二〇・〇〇) ▲糯米 日本物一升〇・五〇(同) ▲粟 一斤
 〇・〇八(〇・〇七) ▲麥粉 地物百斤〇・二二(〇・一〇)
 ▲黒大豆一升、〇・五五(同) ▲小豆一升〇・四五(同) ▲
 馬鈴薯百斤〇・〇三二(〇・〇三) ▲牛蒡百斤〇・一三五
 (〇・一二) ▲人参百斤〇・一二(〇・〇八) ▲林檎 朝鮮物
 百斤〇・一四五(〇・一三) ▲バナナ 臺灣物百斤〇・一六
 五(〇・一二) ▲味噌 日本物百斤〇・一二(同) 地物〇・
 〇八(同) ▲醬油 龜甲萬一升〇・九五(同) 地物一升〇・
 七〇(〇・六〇) ▲食鹽 一袋〇・一二(同) ▲砂糖 精製
 一斤〇・二三(〇・二二) ▲茶 正喜撰一斤一・六〇(一・

四五) ▲清酒 菊正一升三・八〇(三・五〇) 白雫三・五〇
 (同) ▲ビール 〇・サヒ本〇・三六(同) 青島同 ▲サイダ
 ー 〇・ライオン一本〇・一六(〇・一五) ▲煙草 〇・リバイバ
 ル一箇〇・一〇(同) ▲牛肉 〇・ロス百斤〇・四〇(同)
 ▲ハム百斤〇・八〇(同) ▲豚肉 〇・ロス〇・五〇(同) ▲鶏
 肉 〇・七〇(同) ▲鶏卵 〇・中玉十箇〇・三二(同) ▲鯛 〇・
 生百斤〇・七六(一・〇〇) 水〇・六二(〇・六〇) ▲ヒラメ
 百斤〇・一九(〇・四〇) ▲スズキ百斤〇・三九(〇・六〇)
 ▲梅干 〇・三〇(同) ▲澤庵 〇・山口百斤〇・一五(〇・一
 二) ▲ラツキヨ百斤〇・三五(同) ▲奈良漬百斤〇・五〇
 (同) ▲味噌 〇・鯖〇・二五(同) 本鹽〇・二〇(同) 海苔小
 〇・一五(同) 福神漬小〇・二〇(同) 蟹〇・七五(〇・七〇)
 筍〇・五〇(同) 松茸〇・七〇(同) ▲豆腐 生一丁〇・〇六
 (同) ▲うどん玉十個〇・五〇(同) ▲モスリン 上大巾尺
 〇・六三(同) ▲晒布尺〇・〇七五(同) ▲綿ネル 白大巾尺
 〇・三五(同) ▲天竺尺〇・三六(〇・二六) ▲足袋 〇・白一足
 〇・四四(〇・四三) 黒〇・五五(〇・五三) ▲膠靴 〇・太陽牌
 支那靴〇・七五(〇・七〇) ▲木綿糸 〇・東京糸白一把〇・
 一五(〇・一三) ▲石油 〇・テキサス幸福五ガロン七・三五
 (六・三八) ▲揮發油 一封度〇・三〇(同) ▲アルコール

○・四〇(同)▲石炭||瀧川炭噸二五・〇〇(同)同粉炭一八・〇〇(同)博炭二五・〇〇(同)コークス八〇・〇〇(一・二〇・〇〇)▲木炭||滿洲炭一俵二・六〇(同)▲薪百斤一・六〇(同)▲マツチ大箱〇・三五(同)▲半紙下一帖〇・〇六(同)▲塵紙普通品一束〇・二八(同)▲石鹼||花王一個〇・一三(〇・一二)▲ハミガキ||ライオン煉一箇〇・七〇(同)

卸賣物價

▲白米||滿洲四三冠入一〇・九〇(一〇・五〇)朝鮮三〇冠入九・〇〇(八・七〇)上海二〇〇封度入二一・五〇(一九・一〇)▲落花生殼付一〇〇斤六・七〇(六・八五)▲落花生實九・七〇(八・八〇)▲小麥||高客物一〇〇斤九・五〇(九・一〇)▲粟一〇〇市斤八・八〇(八・四〇)▲大豆一〇〇斤六・三〇(六・四〇)▲高粱一〇〇斤七・〇〇(六・七五)▲麥粉||火塘一袋二冠入五・三八(五・三〇)▲野菜||馬鈴薯一貫〇・三二(〇・三〇)▲味噌||日本物二十貫一九・五〇(同)地物一五・〇〇(同)▲醬油||龜甲萬四斗二六・〇〇(同)地物龜甲司四斗五升一六・〇〇(同)▲食鹽十袋〇・九〇(同)▲砂糖一俵二九・〇〇(二六・〇〇)茶||正喜撰一〇〇斤一〇〇・〇〇(同)▲清

酒||菊正四斗五升一三〇・〇〇(同)白雪一三〇・〇〇(同)▲ビール||青島ビール四打一七・〇〇(同)▲リバイバル二十五管入一箱二・三五(同)

青島經濟市況 (九月末現在)

青島商工會議所調査

金融||奧地治安狀態の良化と物産出廻り期を控へてゐるが尙ほ需要旺盛でなく活況を缺いた、缺銀券發行高は増加の一路を辿り殊に二十七日には北支通貨の一元化を圖る目的を以て當局より圓紙幣の使用抑制聯銀券の使用獎勵があり前月に比し百九十萬元を増加し七百八十萬元の發行を見た。

棉花||好天候に恵まれた奧地新棉摘取が至極順調に行はれて居る模様なのと旁々治安關係良化に久しく杜絶してゐた各市場へ月初以來弗々新棉入荷が始まり次第に増加の歩調を辿り昨今濟南及び德州市場共に七——八〇〇俵の入荷を見つゝあるが出廻り品は水氣多く特に德州物に甚しい。尙ほ張店には依然として出廻りを見ない、月初には手當薄の地場紡績の買物に青島渡特別彰德六九圓の高相場を持続したがあと入荷増加と地場紡績の手當一

巡に相場下押し月末六六圓五〇を唱へた、目下日本及び上海方面からは當地高にて手合せ杜絶の狀態であるが、滿洲紡は十一——十二月渡を弗々買漁りつゝある。
 綿糸|| (定期市場) 月初天津の英佛兩租界の邦人引揚げ問題で天津市場の悪化を傳へ實需不振で不況の當市場は之れが先行を重大視して暴落し、中旬に入つては歐洲戰亂の危機濃厚に米棉の續落及び天津、上海兩市場の軟弱を入れ續落したが安値には間層筋の買氣擡頭の滌縣方面の小口買現はれ現物市場稍活況を呈するに至つて漸く強調裡に越月し

定期	月初	高値	安値
九月	限	三九七五	二九二〇
十月	限	三三〇〇	二九三〇
賣	買	高	限
	九月	限	三三七八七〇件
	十月	限	四〇七三〇件

(現物市場) 一方現物市場は月初天津外國租界問題に天津系の輸入壓迫を感じて天津市場を下廻るの安値を出すに至つたがその後鐵道輸送の恢復と相俟つて荷動き多少改良し殊に即墨方面は太番手の賣行増加し、定期の軟調にも拘らず現物は存外手堅となつた。中旬に入り濟南市場は津浦線南段からの需要増加して十六手、二十手は

相場

銀	仙	藍	銀	藍	寶	銀	來	月	月初	高値	安値
鳳	月	鳳	月	鳳	月	鳳	月	鳳	三〇〇〇	三〇〇〇	二九六〇
馬	月	馬	月	馬	月	馬	月	馬	二九八〇	二九八〇	二九三〇
鳳	月	鳳	月	鳳	月	鳳	月	鳳	二九七五	二九七五	二八六〇
馬	月	馬	月	馬	月	馬	月	馬	三〇七〇	三〇七〇	三〇〇〇
鳳	月	鳳	月	鳳	月	鳳	月	鳳	三〇六〇	三〇六〇	三〇〇〇
馬	月	馬	月	馬	月	馬	月	馬	三〇一五	三〇一五	二九一〇
鳳	月	鳳	月	鳳	月	鳳	月	鳳	三七八〇	三七八〇	三八四〇
馬	月	馬	月	馬	月	馬	月	馬	三三六〇	三三六〇	三三八〇
鳳	月	鳳	月	鳳	月	鳳	月	鳳	三三三〇	三三三〇	三三〇〇
馬	月	馬	月	馬	月	馬	月	馬	四二〇〇	四二〇〇	四一三〇

在荷拂底し珍らしくも天津系の移入を見た外地よりも相當積出され一方小港から沿岸向民船積出しも解禁せられ旁々茲に漸く人氣の落着きを見るに至つた、下旬に入つて滌縣客が三十二手、四十二手等に弗々買崩し中糸は賣物薄と且つ上海、天津に比し相場下値にありたるため月末にかけ昂騰し市況駭りに本月を終つた。

綿布|| 前月に引續き依然賣行狀態不振殊に天津英、佛租界引揚問題を報じてから天津、上海兩地共軟調低落の一途を辿り下旬には綿糸彩球一二元割れの新安値に低落したがその後兩地の見直しにより稍相場引戻した、併し

未だ各地よりも安値にあり僅か乍らも濟南市場の方が當地より高値にある爲め洋行筋は市中轉賣物を買付け濟南向け積出す向もあり月末には在荷も漸減して小康を得るに至つた。加工品は月半ばごろまで全く商内なく相場ちり安だつたがその後沿線、濟南方面に小口乍らも荷物動き初め相場落付き氣味となつた。

相 場

細布龍頭	月初	高値	安値
同 彩 球	二二〇	二二〇	二一〇
五枚素賢村	〇四三	〇四三	〇三三
四綾四君子	〇四三	〇四三	〇三三

落花生 外商及び一部華商が舊法幣の對外爲替安を利して取組む不良輸出ビルに對する取締り嚴重となつたが新たに邦商の個人リンク割に基く輸出手當買により月初現物生米九圓八〇、生油二二圓四〇と相場手堅かつたが手當一巡後は南支向買氣もなく且つ歐州政局不安を反映漸落歩調を辿つた。然し下旬に入り安値には弗々買氣出で月末生油十七圓五〇、生米八圓に持直したるも尙ほ伸縮み状態に越月した。出廻り状態は沿岸向物資の積出禁止により片貿易の状態にあるため一日平均生油三十越

綿糸布 二月十五日當地成大紡績操業開始し、三月に入つて仁豐成通の二工場も操業開始、濟南市を中心とする時局人氣も安定して買氣弗々起りたるも大車にて運搬する程度に止まり、南部奥地は依然時局不安と津浦線貨車運行不能のため運搬費嵩み引合はず賣行不振であつた。

二〇 鳳山	高値	安値	期末
一六 聘賢	三〇〇	二六七	二九六
一六 泰山	三〇一	二八五	三〇〇
一六 蜘蛛	二九四	二九三	二九三

落花生 交通社絶して市場沈黙を續けたるも二月に入りて漸次買氣芽ざし惠豐棧、雙成永、元通棧、興順福、同心成、大成棧等弗々買そめ中旬には天津方面の需要擡頭に伴れて泰祥成、惠豐棧積極的に買進みたるため相場上伸した。三月上旬出廻りは需要と共に漸く増加し天津の買一服と相俟つて暴落を演じ期末は再び買氣硬化し高値五圓五十錢を唱へた。

二月 高 安	上旬	中旬	下旬
五〇〇	五二〇	四九〇	四七五

餘生米百越、穀付僅少の出廻りを見たに過ぎなかつた。

現 物 相 場

生 穀	月初	高値	安値
生 米	九八〇	九八〇	七八〇
生 油	六七〇	七〇〇	六七〇
生 油	三三〇	三三〇	一六五〇
先 物 相 場	二〇〇	二〇〇	一六二五

本年第一、四半期濟南貿易品市況

濟南日本商議所調査

棉花 事變以來人心動搖し出廻り全く停頓してゐたが二月中旬頃より弗々齊河方面より出廻り三月に入つて鄒平方面よりも入荷を始めたるも依然一日一、二車の程度に止まり相場も米棉四十五元見當に終始した、然れど期末に入り、臨清、高唐方面の棉花は事變以來德州に出廻つてゐたが、同方面と濟南を結ぶ道路交通の恢復と津浦線運送の円滑とを待つて弗々入荷あり、又張店に集散する濱州綿は二月初めより約三百俵宛集散したが三月中旬再び出廻り低下し相場も濟南より下廻り四〇元見當を唱へた。

三月 高 安	四九〇	五三〇	五三〇
二月 高 安	二八〇	二〇〇	一〇五〇
二月 高 安	九三〇	九〇〇	一〇〇〇
三月 高 安	九九〇	一〇〇〇	一〇〇〇
小 麥	九七〇	九五〇	九〇〇

小麥 小麥は出廻り思はしからず漸落歩調を辿り期末大體左の如き相場を示した。
一 上等 七〇〇
二 中等 六九〇
三 等 六七〇
四 等 六三〇
五 等 五三〇
小麥粉 購買力極度の低下に相場伸び悩みの状態に推移した。
一 上等 七〇〇
二 中等 六八〇
三 等 六六〇
四 等 六三〇
五 等 五三〇

二月 高 安	上旬	中旬	下旬
四七五	四八〇	四六五	四六〇

三	月	四八〇
二	等	四八〇
三	等	四七〇
普	通	三三〇

石炭 事變以來採掘作業の休止と運搬機關の障害のため搬出の方法なく各石炭商の貯炭著しく減少し邦人側は辛うじて軍關係の援助により多少の配給を受けたが、支那側は何れも高値の石炭を取引するの止むなき状態にあり相場も區々にして貯炭場渡し大體左の値頃を唱へた。

粉	炭	一〇圓—一三圓		
切	込	一三圓—一六圓		
塊	炭	二五圓—三〇圓		
コ	ー	ク	ス	三〇圓—四五圓

砂糖 一月邦人入市當時は極度に品不足にて二十七、八圓の法外の相場を二月中頃まで持續し、中旬以降は天津上りの入荷により稍々緩和せられたるも久しきに亘る品不足は、依然として二十四圓前後の高値相場を支へた。三月に入りては膠濟線により入荷を見、下落し下旬二十三元を示しあと膠濟線の配車数を増すにつれ下落の一途を辿り期末二十圓見當であつた。

自轉車材料 期始未だ人心收まらず需要皆無、加ふる

三月	高	上旬	二九〇	中旬	二九〇	下旬	二〇〇
	安		二〇〇		二五〇		九〇〇
四月	高		二〇〇		二〇〇		二〇五〇
	安		九六〇		九六〇		九三〇

濟南の商況 六月月中

濟南商工會議所の報告による濟南商工會議所六月中の商況は概して平穩に推移したが舊法幣の對外價值崩落に伴つて濟南諸物價は一齊に昂騰を示し然も海外引合殺到し濟南輸出業者は土產物賣付に狂奔したが依然金融逼迫と爲替入手困難とのため物賣付は意に任せなかつた。北市内地の集散都市にはある程度の物産が出廻つてをりながらこれを商埠地輸送する方法がなかつたためである。

棉花 棉花出廻りは、六月中旬に入つて天候回復と一部奥地の治安安定に依つて稍増加をみたが輸送上の危険は依然除去されず一般には入荷薄でこれに反し津浦線の全通によつて中北支の聯絡がつけば上海の法幣瓦落は

に支那事變以來の華商側ストツクの荷捌き抄々しからず市場極度に不振、二月に入りて弗々小口小口入荷ありたるも需要更になく僅かに邦人側の小口商内に止まる、三月に入るや弗々商内ありたるも品不足の手當買の感を脱せず、相場は天津二百萬臺に上るストツクあるため事變前と變らざるも當地は輸送路の杜絶と内地昂騰に一、二割高を示した。

染料 輸入品在庫拂底のため當地製品生々牌は高値四十五圓に釘付け状態の儘期を越えた。

洋紙	期を通じて品不足のため高値を持續したるも三月に入りて膠濟線運送の途通するや一部値下りを見た。				
二	月	上旬	中旬	下旬	
毛	邊	紙	二六〇〇	二五五〇	二五〇〇
新	開	紙	一連	九〇〇	八六〇
粉	蓮	紙	一連	二五〇〇	二五〇〇
三	月	毛	邊	紙	二五〇〇
新	開	紙	一連	八〇〇	八〇〇
粉	蓮	紙	一連	二五〇〇	二五〇〇
昆	布	二月初旬高値十二圓安値十一圓を唱へたる本品も中頃より輸入商筋に弗々入荷あり、三月に入つては華商福祥昌其の他が青島に二、三車手當買したるため相場漸次下落した。			

直ちに北支にもひびく筋合にあり換物人氣が沸騰し従つて買氣旺盛を極めこれを映して賣手筋の硬化を見て、需給關係は緊迫し入荷棉は直ちに消化され市中は賣物拂底を來し六月初旬市面は七、八圓方の大巾暴騰をみた程であるが旬末近くこの騰勢も天井を打つた。

六月中旬濟南棉需給表

出	現在	在庫	高	東路	西路
相	場	普通物	上物	西路	
最	高	五〇〇元	五〇〇元	二〇〇元	
最	低	四七五元	四七五元	四七五元	

綿糸布 綿糸同様、綿糸布は換物對象となつた。これは六月十日を限つて南方雜券の使用禁止と津浦線全通による南方系流込懸念が濃化したためであり他方日本の對支輸出制限が確定的となり殊に支那向日本綿糸布輸出は制限を受けることとなつたので綿糸布への乗り替へは加速化され遂ひに中旬二十手は三百八圓、細布は大五幅は十四圓八十錢の新高値を示現した。この間地方における金票銀券の不足は變態的なデフレ現象を惹起せしめ加

之交通不安の持續によつて實需を呼ばず旬末は上げ過ぎの反動と利喰ひによつて市況稍中だるみとなつた。綿糸の紡績對洋行直約は約一千個に上つた。

濟南綿糸市價 (單位圓)

銘柄	番手	最高	最低
鳳山	二六	二六〇〇	二七一〇
綠山	二六	二五〇〇	二六七〇
綠山	二六	二五〇〇	二六七〇
綠山	二六	二五〇〇	二六七〇
綠山	二六	二五〇〇	二六七〇
綠山	二六	二五〇〇	二六七〇
綠山	二六	二五〇〇	二六七〇
綠山	二六	二五〇〇	二六七〇
綠山	二六	二五〇〇	二六七〇
綠山	二六	二五〇〇	二六七〇

次に綿布、加工品は現物賣物なく先物は手附金問題が未解決のままに放置されたため、取引行はれず見送られた。

濟南細布市價 (單位圓)

銘柄	高値	安値
大五	一四・八〇	一〇・六〇
大五	一四・三〇	一〇・三〇
大五	一三・二五	一〇・五〇

花生及花生油 全く取引なく休業状態で相場は六圓三〇銭弱み、これに反し落花生油は法幣の對外價值崩落に因つて輸出爲替は極めて有利となつた。このために外商筋は手持法幣を以て奥地買付を盛に行ひつゝあり従つ

なくしかも濟南出廻り新麥は他地に比し二、三十錢方下鞘はあつたが新高値の躍騰は必至とみられた。

小麥粉 鐵道沿線地方の治安が漸次回復して來たのと地方華人間の換物傾向が強まるに従つて小麥粉もその對象物となり方々新麥の暴騰と相俟つてこの地方の統制價段最高四圓九十錢を突つばねて華人間の取引値は二級粉ですら五圓三十錢といふ高値を出した。小麥粉市價の奔騰にも拘らず濟南邦人製粉會社はかなり苦しい經營をつとげた。これに原料手當が困難なのが最大の原因であらうがさらに統制價格を遵守せねばならぬため採算が悪化したからである。滄縣、德縣、泊頭鎮等では五圓三十錢強みにて取組みが行はれた。

石炭 需要量に對して漸く入荷手一杯といふ處であるが近く博山方面から入荷をみる豫定にて相場も變らず。

銘柄	最高	最低
粉炭	二〇・〇〇	一六・〇〇
切炭	二二・〇〇	二〇・〇〇
塊炭	三〇・〇〇	二八・〇〇
コークス	六五・〇〇	六〇・〇〇

ゴム靴 前旬に比しさしたる變化なし。

て相場は暴騰の一途を辿り遂ひに中旬に至つて本年度最高値を現出した。然かもこの騰勢は依然持續される模様である。

六月中旬相場 十一圓八十錢

糖皮 穀類市價は一齊に急騰を示し六月に入つて輸出筋の思惑買があつたので穀皮相場も前旬に引續き堅調をまして五十錢高の三圓唱へと買進されたが賣物全く無く各工場も先物契約に應ぜざる有様であつた。

小麥 久しく出廻り難のため原料小麥の手當困難を來し各工場は操業停止の止むなき窮狀に陥つて居た濟南各製粉工場は新麥の出廻最盛期に入つて一齊に原料小麥の買付を開始したが何分にも奥地の治安、輸送能力の不圓滑なるため出廻りは必ずしも潤澤ならず然かも例年ならば原産地は濟南以南の濟寧、滕縣、蚌埠方面であるがこの方面が作戦區域に入つて居たため買付不能の狀態に置かれ従つて天津實需筋は何れも濟南にて買漁り猛烈を極めこのため相場は上昇を續けてゐたが遂ひに旬末七圓五十錢と本年の最高値を示した。にも拘らず、各工場の原料手當皆無の折柄とて、一日五百乃至八百俵の出廻りは瞬く間に消化され目先實需筋の買氣は緩和される見込

濟南ゴム靴相場

自由靴(支那靴)	一足大	〇・七〇圓
中山靴(運動靴)	一足大	〇・八〇圓
文明靴(地下足袋)	一足大	一・一〇圓
五眼文明靴	一足大	一・二〇圓

鶏卵 法幣瓦落、第二次關稅改正に伴つて外商筋は輸出爲替有利となり奥地農民の無智につけこみ又敗殘兵匪の農民所持新紙幣に對する壓迫を利用して、舊幣による奥地買付に狂奔した。このため相場は躍騰を重ね前旬の二十三圓の高値を越え二十八圓と五圓大巾の値上りを見た。これは底値より十二圓高といふ驚異的新高値であるがなほ押目買ひ旺盛にて目先安値は期待されず品薄も手傳つてその取引は各方面から注視された。

砂糖 ジャバ糖の日本内地輸入禁止に伴ひ臺灣糖、内地糖の値上りを見たがこの入報によつて濟南地場相場も底値より十一圓巾の激騰を演じ二十八圓といふ割高市價を示した。青島の無稅糖七萬袋見當滞荷の報を入れても相場は依然強含み殊に天津、日本内地の上鞘を反映して、今一般の高値が豫想された。濟南近郊は所に依り新紙幣、朝鮮票に對する支那側兵匪の組織的壓迫に觸され未だ十分な實需も喚起されなかつた。

染料 前旬に比し相場變らず。
人造 牌 百斤に付 一三〇・〇〇
生々 牌 百斤に付 四七・〇〇
備寸 平津地方からの入荷は多量に上つたが青島からの入荷殆どなく済南の需要手當を充すに至らず従つて需給關係は極めて窮乏で入荷品はたちまち消化されそれだけ相場も強含みで前旬に比し一圓高。

濟南の燐寸市價 (單位圓)

品名	牌	高値	安値
進牛	牌	二二・五〇	二二・〇〇
松山	牌	二二・〇〇	二二・九〇
祥陽	牌	二二・一〇	二二・九〇
算盤	牌	二二・〇〇	二二・七〇
普星	牌	二二・〇〇	二二・七五
三陽	牌	二二・九〇	二二・八〇
三陽	牌	二二・〇〇	二二・九〇

紙 五月中旬より青島物大量入荷された相場下押し氣味であつたが六月に入つても依然賣行不振にて相場は牙えなかつた。

紙の市價 (單位圓)

洋毛	一件	一四五・〇〇
粉聯	一件	一二三・〇〇

する有様である。
棉花 出廻り増加見越して人氣概して軟弱に流れたるも適品薄で下げ進む、輸出向は相場出合はず相場手當買も小量に止る。
洋行對地場紡には三千俵内外の先物契約があつた模様である。

出廻 本旬
七千五百擔東西もの
相場

品名	最高	最低
東物	六八・〇〇	六五・〇〇
西物	六六・〇〇	六〇・〇〇

新棉出廻狀況 東物は商河棉(二等品)が大部分を占め初旬より漸増を豫想されしも月末に至り治安關係により輸送路思はしからず杜絶勝ちである。西物は德州、禹城、平原等より治安關係上大部分鐵路入荷あるのみにして一日三百俵内外程度なり、天津相場高に當地出廻り懸念さる。

新綿糸 引續き津浦、膠濟沿線向き荷捌き良好、地元紡品は在荷拂底を告げるに至り現物は急騰し遂に現先物四、五等の逆鞘を呈するに至れり。然し月末は他地割

毛邊 紙 一籃 一五・〇〇
新開 紙 一連 七・〇〇
牛皮 紙 一籃 一二・〇〇

木材 青島天津の木材は思惑買が盛行したため滞貨山積してゐる有様で移出有利なるにも拘らず輸送能力の不備によつて當地木材に休業狀態を久しく續けてゐた。木材も復興材料の重要性が注目されるに至つて六月に入つてから運輸關係も改善され入荷を見るやうになつたが相場は至極落ち付いた。

濟南木材一才當り市價

米	松	三三錢
白	松	三六錢
杉	丸	一七錢
ラ	ワ	二七錢

濟南の經濟界概況 九月下旬

九月下旬に於ける濟南の一般經濟概況は左の如くである。

金融 治安の回復に伴ふ奥地交通の擴大は物産の出廻りを容易ならしめ各銀行共資金入手の相談に忙殺されつゝあり聯銀の送金手数料の低廉は各地よりの被仕向送金を増加せしめ従つて當地聯銀券の流通は二百萬元を突破

安品流入漸増し相場は稍々頭打ちの觀を示せり。

品名	高値	安値
一六 聘賢	三〇九・五〇	三〇一・〇〇
一六 鳳山	三〇五・五〇	二九九・〇〇
一六 綠蜘蛛	三〇六・五〇	二九九・五〇
二〇 鳳山	三一九・五〇	三一三・〇〇
二〇 聘賢	三一七・五〇	三一二・〇〇

綿布 綿布も實需稍々良好となり弗々成約を見るに至りしも他地安と在漸増とにより伸力乏しく月末は寧ろ呆調。

品名	高値	安値
彩球	一一・七〇	一一・五〇
實月	一一・一〇	一一・九〇
實月	一〇・九〇	一〇・八五

落花生 新物出廻一日四、五十俵内外、相場稍々下押し
落花生油 取引見るべきもなく相場不變
一三圓二十錢

糖皮 内地向け爲替許可關係により引合纏らず取引閑散相場針付け、百斤工場渡し
三圓三十錢

商業追價

天津市區の地價

日本租界地價 (四月)

區 劃	坪當り (單位元)		三八年現在地價	
	最高	最低	最高	最低
旭街一帯	200	150	200	150
白河岸一帯	200	150	200	150
租界中間一帯	150	100	150	100
海光寺一帯	150	100	150	100
平均	108.5	65.5	135.5	85.5

日本租界土地所有者 (四月)

日本人 六七
支那人 四四一 計五一三
外人 六

この内地課金八千元を納附するものは日本人一、千元以上を納附するもの日本人一、支那人一、外人一で他は總て千元以下である。

各租界平均地價 (四月)

一畝當り單位元

租界	三七年上半年地價		三八年現在地價	
	最高	最低	最高	最低
日本租界	27,900	17,400	35,600	20,100
佛國租界	33,100	23,700	42,700	26,600
英國租界	33,200	23,900	42,700	26,600
伊國租界	5,800	3,300	7,500	4,300

英租界

地價 (四月)

(一畝當り地價、單位元)

最高、最低

路名

- (甲) 東北區
 - 三號路(英中街)
 - 四號路(領事道)
 - 八號路(怡和道)
 - 十二號路(實順道)
 - 二十號路(味多士道)
 - 二十二號路(博目哩道)
- (乙) 中區
 - 一號路(河壩道)
 - 五號路(海大道)
 - 十一號路(達文波道)
 - 十三號路(戈登道)
 - 十七號路(紅塘道)
 - 十九號路(盛茂道)
 - 二十一號路(利斯克目道)
 - 六號路(廣東道)
 - 十號路(巴克斯道)
 - 十四號路(博羅斯道)

路名	三七年上半年地價		三八年現在地價	
	最高	最低	最高	最低
三號路(英中街)	20,000	15,000	25,000	15,000
四號路(領事道)	19,700	12,000	24,000	15,000
八號路(怡和道)	20,000	12,000	25,000	15,000
十二號路(實順道)	22,000	12,000	27,000	15,000
二十號路(味多士道)	18,000	10,000	23,000	15,000
二十二號路(博目哩道)	18,000	10,000	23,000	15,000
一號路(河壩道)	20,000	12,000	25,000	15,000
五號路(海大道)	23,000	15,000	28,000	15,000
十一號路(達文波道)	18,000	10,000	23,000	15,000
十三號路(戈登道)	17,000	10,000	22,000	15,000
十七號路(紅塘道)	16,000	10,000	21,000	15,000
十九號路(盛茂道)	16,000	10,000	21,000	15,000
二十一號路(利斯克目道)	15,000	10,000	20,000	15,000
六號路(廣東道)	13,000	8,000	18,000	15,000
十號路(巴克斯道)	17,000	10,000	22,000	15,000
十四號路(博羅斯道)	16,000	10,000	21,000	15,000

最高は中街西側と怡和道角一帯の地價とす
東端海河、西端海大道倉庫多し
東端海河、西端英水道公司、銀行倉庫多し
東端海河、西端英租界マーケット
海河より海大道までの地價とす、最高はア
スターハウス附近
東端海河、西端海大道華人商店多し

海河沿岸にして倉庫街
中街と並び佛界、特一區への貫通路、マーケ
ットを境界に北側は洋行、南側は華商多し
佛界の最繁華區二十一號路に通ず、北側は
毛皮商社、南側は住宅街
北端廣東道、南端塘子河、外人住宅多し
北端佛界二十七號路、南端塘子河、住宅區
北端佛界三十號路、南端塘子河、住宅區
北端佛界三十五號路、南端塘子河、住宅區
東端海大道、南端利斯克目道、東側は毛皮
商社多し、西側は住宅區
廣東道と並ぶ、住宅區

二十號路(味多士道)	二三八〇〇	四九〇〇	一八六〇〇	六八〇〇	海大道開濶礦務局以西の地價とす
二十四號路(實事道)	二五〇〇〇	五九〇〇	一三五〇〇	五九〇〇	東端海河、西端達文波路迄
莫來道	一五〇〇〇	七六〇〇	一五〇〇〇	七六〇〇	東端海大道、西端塘子河、白系露人商社多し
二十六號路(克森士道)	一〇〇〇〇	六三〇〇	一五〇〇〇	一〇〇〇〇	特別一區との境界線、白系露人商社住宅多し
二十八號路(狄更生道)	九八〇〇	八六〇〇	一〇〇〇〇	九三〇〇	塘子河の堤防に沿ふ道
十八號路(麥達拉道)	六七〇〇	六三〇〇	一〇〇〇〇	六二〇〇	
二十九號路(園塘道)	九二〇〇	四九〇〇	九二〇〇	四九〇〇	
平均	九、九三	六、〇五	一六、三三	一〇、四一	
(丙) 東南區 (擴張租界)					
三十一號路(香港道)	五、二〇〇	二、七〇〇	八、〇〇〇	三、〇〇〇	閉靜なる住宅區
三十三號路(新加坡道)	五、五〇〇	二、四〇〇	八、五〇〇	三、〇〇〇	右 同
三十四號路(怡豐道)	五、六〇〇	四、〇〇〇	八、六〇〇	四、〇〇〇	右 同
三十五號路(克倫波道)	五、六〇〇	二、五〇〇	八、六〇〇	二、五〇〇	明園より華街に通ず
三十六號路(泰安道)	五、九〇〇	四、〇〇〇	八、九〇〇	四、〇〇〇	住宅區、一部華人商店
三十七號路(愛丁堡道)	五、九〇〇	二、五〇〇	八、九〇〇	二、五〇〇	東側は華人商店多く西側は住宅區
三十八號路(西德尼道)	五、九〇〇	四、〇〇〇	八、九〇〇	四、〇〇〇	閉靜なる住宅區
三十九號路(劍橋道)	六、五〇〇	三、六〇〇	一〇、〇〇〇	三、〇〇〇	右 同
四十號路(牛津道)	六、五〇〇	三、六〇〇	一〇、〇〇〇	五、〇〇〇	塘子河より馬廠道に至る、商社多し
四十一號路(都伯林道)	五、九〇〇	四、〇〇〇	八、〇〇〇	一、八〇〇	學校及び住宅區
四十二號路(摩西道)	五、三〇〇	三、六〇〇	七、九〇〇	三、六〇〇	住宅區
四十三號路(達克拉道)	五、八〇〇	四、〇〇〇	八、八〇〇	四、〇〇〇	商店街
四十四號路(威靈頓道)	五、九〇〇	四、〇〇〇	八、九〇〇	四、〇〇〇	住宅區
四十五號路(倫敦道)	五、五〇〇	一、〇〇〇	八、〇〇〇	四、五〇〇	東側は商店街、西部住宅區
四十六號路(西芬道)	五、九〇〇	三、九〇〇	八、八〇〇	六、七〇〇	明園に近き住宅區
四十六號路(教橋道)	五、〇〇〇	三、九〇〇	八、三〇〇	五、一〇〇	商店街

海大道開濶礦務局以西の地價とす
 東端海河、西端達文波路迄
 東端海大道、西端塘子河、白系露人商社多し
 特別一區との境界線、白系露人商社住宅多し
 塘子河の堤防に沿ふ道

閉靜なる住宅區
 右 同
 右 同
 明園より華街に通ず
 住宅區、一部華人商店
 東側は華人商店多く西側は住宅區
 閉靜なる住宅區
 右 同
 塘子河より馬廠道に至る、商社多し
 學校及び住宅區
 住宅區
 商店街
 住宅區
 東側は商店街、西部住宅區
 明園に近き住宅區
 商店街

六十四號路(體伯瑞道)	四、〇〇〇	三、四〇〇	四、〇〇〇	三、〇〇〇	工場地區、海京紡毛廠等あり
七號路(馬廠道)	五、〇〇〇	二、七〇〇	五、〇〇〇	二、七〇〇	最南端にして特一區及華街との境界、住宅區全市隨一の良道路なり
五十七號路(大北道)	四、三〇〇	二、四〇〇	七、八〇〇	五、〇〇〇	工場地區、南側住宅區
七十二號路(奧克尼道)	三、三〇〇	二、四〇〇	五、五〇〇	四、〇〇〇	東亞毛呢、仁立毛呢、大陸油業等の各廠あり
五十九號路(林莫克道)	三、五〇〇	一、五〇〇	三、五〇〇	一、五〇〇	工場地區と豫定しあるも未建築
六十三號路(文賽道)	三、九〇〇	一、六〇〇	三、九〇〇	一、六〇〇	右 同
六十一號路(格林威道)	三、五〇〇	一、五〇〇	三、五〇〇	一、五〇〇	工場地區
六十八號路(登伯教道)	三、九〇〇	三、二〇〇	三、九〇〇	三、二〇〇	中心貫通路、北側は工場地區、南側は住宅區
七十四號路(海光寺道)	三、六〇〇	一、〇〇〇	八、〇〇〇	五、九〇〇	西端にして華街との境界、工場地區
六十六號路(哥拉斯哥道)	三、六〇〇	二、五〇〇	五、〇〇〇	三、五〇〇	住宅區
五十三號路(益世濱道)	五、〇〇〇	四、六〇〇	七、〇〇〇	五、七〇〇	住宅區、北側は商店街
五十二號路(加的夫道)	五、九〇〇	三、三〇〇	七、五〇〇	四、九〇〇	住宅區
六十二號路(德列道)	四、〇〇〇	三、九〇〇	六、六〇〇	四、八〇〇	右 同
五十八號路(克蘭特道)	四、〇〇〇	三、三〇〇	六、六〇〇	五、三〇〇	右 同
四十八號路(三安道)	五、三〇〇	三、六〇〇	八、四〇〇	五、六〇〇	商店及住宅區
其他各馬路	六、五〇〇	一、〇〇〇	八、五〇〇	三、〇〇〇	
平均	五、〇九	三、〇三	七、三〇	四、六九	
總平均	八、〇七	四、九三	一三、七一	八、五八	

伊租界地價 (四月)

(一畝當り、單位元)

(註) 半元或は千餘元と記せる個所は未だ地價の推算が行はれてゐない所である。

路名
 大馬路(電車通)

最高
 最低
 最高
 最低

二馬路一帶	六、〇〇〇	四、〇〇〇	八、〇〇〇	六、〇〇〇
三馬路一帶	四、〇〇〇	三、〇〇〇	七、〇〇〇	五、〇〇〇
四馬路一帶	四、〇〇〇	三、〇〇〇	七、〇〇〇	五、〇〇〇
五馬路一帶	五、三〇〇	四、八〇〇	七、五〇〇	六、八〇〇
六馬路一帶	九、〇〇〇	八、〇〇〇	一三、〇〇〇	八、〇〇〇

河岸沿路一帶
特別三區境界一帶
東馬路一帶
南東馬路一帶
西馬路一帶
南西馬路一帶

特別三區境界一帶	三,八〇〇
東馬路一帶	三,八〇〇
南東馬路一帶	三,八〇〇
西馬路一帶	三,八〇〇
南西馬路一帶	三,八〇〇

特別三區境界一帶
橋欄路一帶
華街境界路一帶
小馬路一帶
平均

特別三區境界一帶	三,八〇〇
橋欄路一帶	三,八〇〇
華街境界路一帶	三,八〇〇
小馬路一帶	三,八〇〇
平均	三,八〇〇

特別

一區地價

三八年現在地價

(四月)(一畝當り地價、單位元)

最高 最低 最高 最低

備

考

北一號路(威爾遜路)
二號路(海河路)
三號路(無錫路)
四號路(浙江路)
五號路(江西路)
六號路(管理局街)
七號路(武昌路)
八號路(塘子河路)
九號路(杭州路)
平均

北一號路(威爾遜路)	二,〇〇〇
二號路(海河路)	二,〇〇〇
三號路(無錫路)	一,〇〇〇
四號路(浙江路)	八〇〇
五號路(江西路)	八〇〇
六號路(管理局街)	八〇〇
七號路(武昌路)	八〇〇
八號路(塘子河路)	八〇〇
九號路(杭州路)	八〇〇
平均	八〇〇

北端英中街、南端小劉莊、舊名獨中街、最高價は運河以北
大連汽船、商品檢驗局等あり、又倉庫多し
英租界との境界
三號路と並ぶ横道
一、二號路の中間
海河より英租界馬廠道に至る横貫中心路
運河に沿ふ大道
一號路と十九號路間

西平 二十號路(開封路)
二十一號路(山東路)
二十二號路(福州路)
二十三號路(營盤路)
二十四號路(山西路)
二十五號路(湖北路)
二十六號路(海河路)
二十七號路(唐山路)
二十八號路(大同路)
二十九號路(芝罘路)
三十號路(花園路)
三十一號路(四川路)
三十二號路(營口路)
三十三號路(青島路)
平均

二十號路(開封路)	三,〇〇〇
二十一號路(山東路)	三,〇〇〇
二十二號路(福州路)	三,〇〇〇
二十三號路(營盤路)	三,〇〇〇
二十四號路(山西路)	三,〇〇〇
二十五號路(湖北路)	三,〇〇〇
二十六號路(海河路)	三,〇〇〇
二十七號路(唐山路)	三,〇〇〇
二十八號路(大同路)	三,〇〇〇
二十九號路(芝罘路)	三,〇〇〇
三十號路(花園路)	三,〇〇〇
三十一號路(四川路)	三,〇〇〇
三十二號路(營口路)	三,〇〇〇
三十三號路(青島路)	三,〇〇〇
平均	三,〇〇〇

十一、十二號路と並ぶ
本區の最南端にて華街小劉莊との境界
海河に近接す
獨逸學校及煙草稅局等あり
華人商店多し
華人商店多し
米國兵營に近くバー多し
英租界に接近し米國兵營あり

三二一五四三二大
路路路路路路路路
緯緯緯經經經經經
路路路路路路路路

六〇〇〇	六〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	八〇〇〇	八〇〇〇	九〇〇〇	一〇〇〇〇
四〇〇〇	四〇〇〇	八〇〇〇	七〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	六〇〇〇	七〇〇〇
七〇〇〇	七〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	八〇〇〇	八〇〇〇	九〇〇〇	一〇〇〇〇
五〇〇〇	四〇〇〇	八〇〇〇	七〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	六〇〇〇	七〇〇〇

特別三區地價(四月)(試、元)

平十牛地陸吉大西西子糧
字家藏家家方方廠店
街臺大胡胡口巷巷大後
均西街街同同街街街街

六〇〇〇	五〇〇〇	四〇〇〇	六〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	六〇〇〇	六〇〇〇	六〇〇〇	六〇〇〇
四〇〇〇	四〇〇〇	四〇〇〇	五〇〇〇	四〇〇〇	四〇〇〇	四〇〇〇	四〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇
六〇〇〇	五〇〇〇	四〇〇〇	六〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	六〇〇〇	六〇〇〇	六〇〇〇	六〇〇〇
五〇〇〇	四〇〇〇	四〇〇〇	五〇〇〇	四〇〇〇	四〇〇〇	四〇〇〇	四〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇

萬國橋より東站に通じ郵政總局あり
萬國橋、伊租界に繋る電車路線、山海關汽
水公司、和濟製釘廠、商品檢驗局棉棧等あり
倉庫街
住宅區
伊租界との境界倉庫及び腸廠多し
電車路線にて東站に近く、最繁華街、最近
邦人旅館及飲食店多し
倉庫多し、天津映畫館本路にあり
倉庫の中心街、以上北部地區

備考

住宅區、第八編街
住宅區、第九編街
住宅區、第十編街
住宅區、第十一編街
住宅區、第十二編街
住宅區、第十三編街
住宅區、第十四編街
住宅區、第十五編街
住宅區、第十六編街
華街との境界にして商業區、第十六編街

糧興壽福瑞永大學平大華金一金金金
店隆安安安安安堂昌安湯湯湯湯
前隆安安安安安胡興安四三二大
街街街街街街街街街街街街街街
街街街街街街街街街街街街街街

六〇〇〇	七〇〇〇	五〇〇〇	八〇〇〇	八〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	六〇〇〇	八〇〇〇	八〇〇〇	八〇〇〇	八〇〇〇
四〇〇〇	五〇〇〇	四〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	六〇〇〇	六〇〇〇	六〇〇〇	六〇〇〇
六〇〇〇	七〇〇〇	六〇〇〇	八〇〇〇	八〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	六〇〇〇	八〇〇〇	八〇〇〇	九〇〇〇	九〇〇〇
四〇〇〇	五〇〇〇	四〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	六〇〇〇	六〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇

特別二區地價(四月)(試當り、元)

伊租界より金湯橋に通ずる大通り、商業
中心區であり、第一編街
大馬路の南、住宅區及學校あり、第一編街
新民會、滿鐵、市立醫院、麵粉交易所あり、
第二編街
最南端路にて、伊租界との境界、住宅區、
第二編街
海河に沿ふ住宅區、
獨商謙信洋行あり、第三編街
工場區にて振業製棉廠、三星織詰公司等あ
り、第三編街
住宅區、第三編街
市立小學校あり、第四編街
伊租界との境界にて同和興貨棧、禮東帽廠
等あり、第四編街
住宅區、第五編街
同
住宅區、第六編街
伊租界との境界、保安電油廠及倉庫等あり、
第六編街
東站新倉庫に接近す、第七編街
工場區をなし明星製織廠、白屋製棉廠、大
中製油廠及び特二區公署あり、第八編街

備考

東門内大街	北門内只家胡同	倉門菜市	官銀號	舊道署西箭道	戶部前街	平鄉祠前街	△第四警所	東馬路	南斜街	玉皇閣前街	洋貨街	宮北大街	天齊廟街	沿河馬路	平均	△第五警所	大胡同
5,000	3,000	3,000	5,000	3,000	3,000	3,000	10,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	1,000
3,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	1,000	2,000	3,000	2,000	2,000	3,000	3,000	2,000	2,000	3,000	3,000	6,000
5,500	3,200	3,100	5,500	3,100	3,300	3,500	1,500	3,000	3,000	3,000	4,000	5,000	3,000	5,000	5,800	1,000	21,000
3,100	1,500	1,000	2,100	1,000	1,500	1,000	8,000	3,000	3,000	2,000	3,100	3,500	2,000	3,000	3,300	1,300	13,000

東馬路より鼓樓に通ずる商店街、孔子廟亦本所東部にあり
住宅區なるも吳服、雜貨等卸問屋多し
住宅區、基督教會あり
城内東北角、華街唯一の野菜魚肉類市場あり
舊道署を改建せる街、東門内にして孔子廟に近き住宅區
北門内住宅區なるも吳服、雜貨卸問屋多し
戶部街東部の住宅區

日租界に續く電車通、最近邦商の進出相次ぎ、地價急騰す
第二警所南斜街の北部、住宅區
メリヤス工場及海産物問屋等あり
公安局の南横胡同にて海河に臨み金物問屋の中心區
大胡同より公安局に至る、天后前は商店集中す
東馬路の東、住宅區
大胡同より日界に通ず、金物、陶磁器問屋集中し、南に野菜市場あり

東馬路北端より金銅橋に至る地區にして本區の最繁華地帯

南市永安大街	南市慎益大街	南馬路官溝	南關大街	南市榮業大街	南市榮業大街	南市東興大街	南市東興大街	南市廣興大街	平均	△第二警所	城內二道街	南斜街	草廠巷東西馬路	帝君廟	舊貢院	丁公祠	水月巷	大劉家胡同	平均	△第三警所	北門東馬路
4,000	4,000	4,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	4,000	3,500	5,000	5,000	4,000	6,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	7,000
3,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	3,000	3,000	2,000	3,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	4,000
4,000	4,000	4,000	3,500	3,000	3,000	3,000	3,000	4,000	3,700	5,500	4,000	4,000	6,500	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	7,500
2,100	2,100	1,800	2,000	2,100	2,100	2,100	2,100	2,100	2,100	3,100	2,100	2,000	3,300	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	5,000

東端華樓、西端營業大街、商業區
南市北部の南北に貫通する大街商業區
南馬路に近し、住宅區
北部は商業區、南部は住宅區及び匯文中學等あり
商業區

同
日本租界境界に連る住宅區
日本租界に連り、住宅區なるも妓館あるため比較的高し

東端東馬路、西端鼓樓南、住宅區
南端は日本租界に連る、住宅區、財政局捐務處あり
城内東南角、住宅區、天津縣教育局あり
住宅區
同
同
北端東門内大街、南端南馬路、住宅區にして著名なる富豪多し

華街殷盛區の一にて商店、娛樂場各銀行辦事處あり

△第一警所
 鼓樓街 西
 南門內大街 西
 南門外大街 西
 板橋小馬路 同
 城臺子小馬路 同
 南關老街 同
 姚家樓下街 同
 王家莊街 同
 太家莊街 同
 楊家花園北街 同
 楊家莊街 同
 磚家莊街 同
 平均 均
 △第二警所
 西關大街 西
 西門外南臺街 西
 西門南馬路 西

路名	三十七年上半年地價		三十八年現在地價	
	最高	最低	最高	最低
鼓樓街	4000	1500	4500	2000
南門內大街	4000	1500	4000	1700
南門外大街	4000	1500	4000	1700
板橋小馬路	4000	1500	4000	1700
城臺子小馬路	4000	1500	4000	1700
南關老街	4000	1500	4000	1700
姚家樓下街	4000	1500	4000	1700
王家莊街	4000	1500	4000	1700
太家莊街	4000	1500	4000	1700
楊家花園北街	4000	1500	4000	1700
楊家莊街	4000	1500	4000	1700
磚家莊街	4000	1500	4000	1700
平均	3800	1400	4000	1700
西關大街	3000	1000	3000	1000
西門外南臺街	3000	1000	3000	1000
西門南馬路	3000	1000	3000	1000

華街第二警區地價 (五月) (單位一畝當り、元)

備考
 舊城內西部の商店街、東端鼓樓、西端南大水溝、福善堂本街にあり
 北端鼓樓、南端南門、住宅街
 商店街、古家具店多し
 住宅街
 南門外の馬路、南關下頭に連り西部に魚市場あり、商店街
 住宅街
 住宅街露店多し
 舊城外西南の一區劃、下層階級の住宅多し
 住宅街、空家多し
 同
 本所南端、海光寺兵營に近接す、空地多し
 同
 西門外西營門に達する馬路、東部は商店街、西部は一部住宅街
 住宅街
 同
 西馬路の南部、小賣商店街

△第六警所
 建興街 大
 東興街 大
 首善街 大
 南關下街 大
 榮安街 大
 福安安街 大
 華安街 大
 清和街 大
 富貴街 大
 總平均 均
 平平均 均
 周子街 均
 彌子街 均
 望海樓街 均
 金家胡同街 均
 唐家胡同街 均
 崇善里街 均
 大胡同街 均
 德華鞋店後先登寺街 均

路名	三十七年上半年地價		三十八年現在地價	
	最高	最低	最高	最低
建興街	3000	1000	3000	1000
東興街	3000	1000	3000	1000
首善街	3000	1000	3000	1000
南關下街	3000	1000	3000	1000
榮安街	3000	1000	3000	1000
福安安街	3000	1000	3000	1000
華安街	3000	1000	3000	1000
清和街	3000	1000	3000	1000
富貴街	3000	1000	3000	1000
總平均	3800	1400	4000	1700
平平均	3800	1400	4000	1700
周子街	2000	1000	2000	1000
彌子街	2000	1000	2000	1000
望海樓街	3000	1000	3000	1000
金家胡同街	3000	1000	3000	1000
唐家胡同街	3000	1000	3000	1000
崇善里街	3000	1000	3000	1000
大胡同街	3000	1000	3000	1000
德華鞋店後先登寺街	3000	1000	3000	1000

住宅區
 廣場、掛小屋娛樂場集中す
 本里及其東の餘慶、謙益二里にメリヤス工場大小三十餘軒集中す
 住宅區、養生メリヤス工場あり
 商業區、白耳義資本電燈會社發電所あり
 天主堂後部、メリヤス工場多し
 住宅區、市立第二醫院あり
 發電所後部、住宅區
 日本租界境界より廣興大街に通ずる商業區
 北は城內東南角に、南は東安市場に通ず、妓館集中し、商店亦多し
 北端永安街、南端日界福島街、商業區
 南關大街に連る住宅區
 東は日界に、西は南關下頭に連る商業區にして新開販賣店集中す
 住宅區
 華樓西部、商業區
 日界橋立街に連る商業區
 日界須磨街に連り西は平安大街に至る、住宅區

白北府武西北	△第五警所	平	黃二萬小張	確老北	南	章慈永	△第四警所	華
家項家署城陸廟	北門西馬路	家道興石家	家房冰	小小	小	惠惠明	均	家
胡同胡同街街路	路	胡街胡道門	大胡	道子	道子	寺街	均	場
同同街街路	路	均同子同街東同	同	子	子	街南東	均	場
三〇〇〇 三〇〇〇 三〇〇〇 三〇〇〇 三〇〇〇	三〇〇〇	一七〇〇 一四〇〇 一四〇〇 一五〇〇 一五〇〇	一五〇〇 一五〇〇 一五〇〇 一五〇〇 一五〇〇	一五〇〇 一五〇〇 一五〇〇 一五〇〇 一五〇〇	一五〇〇 一五〇〇 一五〇〇 一五〇〇 一五〇〇	一五〇〇 一五〇〇 一五〇〇 一五〇〇 一五〇〇	二五〇〇 二五〇〇 二五〇〇 二五〇〇 二五〇〇	一五〇〇 一五〇〇 一五〇〇 一五〇〇 一五〇〇

大德隆織布廠及鞣皮場等あり

西馬路北端、永明寺東各街を含む、住宅街、省立中學あり

永明寺街の西、住宅街

慈惠寺の西、フラン工場集中

南端西關街、北端小道子街、手工紡績仕事場多し

手工紡績仕事場集中

南北小道子街以西の各街、住宅街

配備開大街の南に並ぶ街、雜貨卸問屋あり

小石道街以西の胡同、殆ど回教徒の住宅區

北門より西北城角に至る小商店街、天津縣公署あり

西北城角より西門に至る馬路、小商店街住宅街

北門内大街より西馬路に通ずる横路、住宅街

府署街より北馬路に通ずる住宅街

同同同同	西廣開街	南頭	土地廟	如意巷	平安	西營門外	小營門	三陽	吉	西	△第三警所	南	南開	廣	西南	西南	西
厚德里	街	街	街	街	街	街	街	街	街	街	均	道	街	街	街	街	街
一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇
一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇
一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇

舊城内西南の一區劃、商店兼住宅街

西門内街の胡同、住宅街

右 同

太平莊に續く城外の街、古物市場あり

電車公司車庫及南開中學、女學校等あり、住宅街

西南城角より斜に北行する街、東部は商店街

西關大街の西部、南大道より西營門街に至る住宅街

住宅街

同

西營門以東、西關街以西、住宅街

住宅街

西營門内の胡同、住宅街

南頭街大街より小西關に通ずる横路、商店及住宅街

住宅街

手工紡績仕事場多し、以下最近第九警局に編入さる

住宅街、古物市場等あり

住宅街、メリヤス工場等あり

住宅街

古物市場あり、空地多し

露店多し

茶店	竹竿巷	洋貨街	北大街	缸店	侯家後前中街	塘子胡同至蘆子坑	△第二警所	河北大街	土地廟大街	魏骨會所	陳家臺大街	新馬路	趙家場大街	邵公莊	修家樓	△第三警所	募守寺九天廟一帶
三三〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	均	七〇〇〇	二〇〇〇	一五〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	一五〇〇	八〇〇	八〇〇	三〇〇〇	一五〇〇
二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	均	五〇〇〇	一五〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	六〇〇	六〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	均	九〇〇〇	二〇〇〇	一五〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	一五〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	二〇〇〇	一七〇〇
二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	均	七〇〇〇	一五〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	七〇〇	六〇〇	一〇〇〇	一三〇〇

北門外大街より針市街火神廟に至る、綿布問屋及麻袋問屋多し
 北大關より針市街に至る、綿糸布問屋及び茶問屋多し
 北大關より竹竿巷に至る、藥材問屋集中す
 河北大街より北門に至る、北門外の繁華の中心街で海産物問屋多し
 北大關より洋貨街に至る、雜貨問屋多し
 蘆子坑より北大關に至る、染織工場(慶華、大新等)集中す
 錫店街より侯家後前街に至る商店街にして製燭、製帽、製鞋等の小仕事場集中す
 北は北營門南は北大關に接す南運河外の繁華中心、商店街
 東端河北大街、西端南運河、住宅區
 東端河北大街、西端趙家場、住宅區
 河北大街中間にて南運河岸に通ず住宅區
 北營門の西、津浦線に沿ひ貧民家屋多し
 陳家臺の西、津浦線に沿ひ西部に榮昌棧寸、永生麵粉兩公司あり
 趙家場の西、南運河に沿ふ部落殆ど空地
 邵公莊の西、殆ど空地
 三條石大街の南、住宅多し

針市街	北門外耳朶眼胡同一帶	估衣街	銅店街	△第一警所	路名	華街	第三警區	地價	總平	徐湖	馬場	八里	萬德	南營門	△第六警所	中任	任家	鮑公	小宜
三三〇〇	三三〇〇	八五〇〇	八五〇〇	八五〇〇	最高	三七年上半年地價	最高	三八年現在地價	均	均	均	均	均	均	均	均	均	均	均
二五〇〇	二五〇〇	四〇〇〇	四〇〇〇	四〇〇〇	最低	三七年上半年地價	最低	三八年現在地價	二五八〇	一三〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一五〇〇	二〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇
三三〇〇	三三〇〇	九〇〇〇	九〇〇〇	九〇〇〇	最高	三八年現在地價	最高	三八年現在地價	二七〇〇	一三〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一八〇〇	二二〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇
二五〇〇	二五〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	最低	三八年現在地價	最低	三八年現在地價	二七〇〇	一〇〇〇	五〇〇	五〇〇	八〇〇	一〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇

東端大胡同、西端估衣街、商店街にして小賣及び早曉市場集中す
 錫店街より北大關までの區間東部に古衣問屋、西部に綢緞問屋及毛皮問屋集中す
 北馬路より估衣街西口に通ずる胡同教慶隆倉庫其他倉庫多し
 北大關より大平街に至る區間商店街にして藥材、顔料等の問屋多し
 海光寺兵營に隣接す
 南營門の南部、空地多し
 前南開大學一帶、空地多し
 北洋マツチ第二廠及張亞磁瓦廠並に岸和田紡織定地あり
 中日學院後部、殆ど空地
 商店街、各種卸問屋多し
 白家胡同以西の胡同、住宅街